

【 科目等履修生・学部聴講生 】

※2023年3月8日現在

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
											科目等履修生	(学部)聴講生		
西洋古典学	3100001	系共通科目(西洋古典学)(講義)	2	前期	金	5			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系1	
西洋古典学	3102001	系共通科目(西洋古典学)(講義)	2	後期	金	5			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系2	
西洋古典学	3131001	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	木	2			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系3	
西洋古典学	3131002	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	木	2			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系4	
西洋古典学	3131003	西洋古典学(特殊講義)	2	前期	月	3			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系5	
西洋古典学	3131004	西洋古典学(特殊講義)	2	後期	月	3			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系6	
西洋古典学	3141001	西洋古典学(演習)	2	前期	水	3			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系7	
西洋古典学	3141002	西洋古典学(演習)	2	後期	水	3			平山 晃司	日本語	○	○	西洋文化学系8	
西洋古典学	3141003	西洋古典学(演習)	2	後期	水	3			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系9	
西洋古典学	3141004	西洋古典学(演習)	2	前期	金	4			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系10	
西洋古典学	3141005	西洋古典学(演習)	2	後期	金	4			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系11	
西洋古典学	3141006	西洋古典学(演習)	2	前期	月	5			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系12	
西洋古典学	3141007	西洋古典学(演習)	2	後期	月	5			河島 思朗	日本語	○	○	西洋文化学系13	
西洋古典学	3141008	西洋古典学(演習)	2	前期	火	3			早瀬 篤	日本語	○	○	西洋文化学系14	
西洋古典学	3141009	西洋古典学(演習)	2	後期	火	3			早瀬 篤	日本語	○	○	西洋文化学系15	
西洋古典学	3151001	西洋古典学(講義)	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系16	
西洋古典学	3151002	西洋古典学(講義)	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	○	西洋文化学系17	
西洋古典学	3151003	西洋古典学(講義)	2	前期	火	2			山下 修一	日本語	○	○	西洋文化学系18	
西洋古典学	3151004	西洋古典学(講義)	2	後期	火	2			山下 修一	日本語	○	○	西洋文化学系19	
西洋古典学	9615001	ギリシア語(4時間コース)(語学)	8	通年	月	1	木	1	広川 直幸	日本語	○	○	西洋文化学系20	
西洋古典学	9645001	ラテン語(4時間コース)(語学)	8	通年	月	2	金	2	佐藤 義尚	日本語	○	○	西洋文化学系21	
西洋古典学	9664001	ギリシア語(初級I)(語学)	2	前期	金	4			西村 洋平	日本語	○	○	西洋文化学系22	
西洋古典学	9665001	ギリシア語(初級II)(語学)	2	後期	金	4			西村 洋平	日本語	○	○	西洋文化学系23	
西洋古典学	9666001	ラテン語(初級I)(語学)	2	前期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	○	西洋文化学系24	
西洋古典学	9667001	ラテン語(初級II)(語学)	2	後期	水	2			勝又 泰洋	日本語	○	○	西洋文化学系25	
スラブ語学スラブ文学	3202001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)	2	前期	金	2			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系26	
スラブ語学スラブ文学	3204001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)	2	後期	金	2			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系27	
スラブ語学スラブ文学	3231003	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	後期	月	4			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系28	
スラブ語学スラブ文学	3231005	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	前期	月	4			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系29	
スラブ語学スラブ文学	3231006	スラブ語学スラブ文学(特殊講義)	2	前期	金	4			有宗 昌子	日本語	○	○	西洋文化学系30	
スラブ語学スラブ文学	3241001	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	前期	月	3			中野 悠希	日本語	○	○	西洋文化学系31	
スラブ語学スラブ文学	3241007	スラブ語学スラブ文学(演習)	2	後期	月	3			中野 悠希	日本語	○	○	西洋文化学系32	
スラブ語学スラブ文学	3251001	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	前期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	○	西洋文化学系33	
スラブ語学スラブ文学	3251002	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	○	西洋文化学系34	
スラブ語学スラブ文学	3251003	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	前期	水	2			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系35	
スラブ語学スラブ文学	3251004	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	後期	水	2			中村 唯史	日本語	○	○	西洋文化学系36	
スラブ語学スラブ文学	3251005	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	後期	金	4			菅谷 知可	日本語	○	○	西洋文化学系37	
スラブ語学スラブ文学	3251006	スラブ語学スラブ文学(講義)	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	○	西洋文化学系38	
スラブ語学スラブ文学	9642001	ポーランド語(中級II)(語学)	2	前期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	○	西洋文化学系39	
スラブ語学スラブ文学	9642002	ポーランド語(中級II)(語学)	2	後期	木	5			Bogna Sasaki	日本語	○	○	西洋文化学系40	
スラブ語学スラブ文学	9646001	ロシア語(初級)(語学)	2	後期	水	2			田中 大	日本語	○	○	西洋文化学系41	
スラブ語学スラブ文学	9647001	ロシア語(中級)	2	前期	水	2			田中 大	日本語	○	○	西洋文化学系42	
スラブ語学スラブ文学	9661001	ポーランド語(初級I)	2	前期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	○	西洋文化学系43	
スラブ語学スラブ文学	9662001	ポーランド語(初級I)	2	後期	木	4			Bogna Sasaki	日本語	○	○	西洋文化学系44	
ドイツ語学ドイツ文学	3302001	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)	2	前期	金	2			川村 朋彦	日本語	○	○	西洋文化学系45	
ドイツ語学ドイツ文学	3304001	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)	2	後期	金	2			川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系46	
ドイツ語学ドイツ文学	3331001	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	金	4			川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系47	
ドイツ語学ドイツ文学	3331002	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	金	4			川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系48	
ドイツ語学ドイツ文学	3331003	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	金	3			河崎 靖	日本語	○	○	西洋文化学系49	
ドイツ語学ドイツ文学	3331006	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	木	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	○	西洋文化学系50	
ドイツ語学ドイツ文学	3331007	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	木	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	○	西洋文化学系51	
ドイツ語学ドイツ文学	3331008	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	前期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	○	西洋文化学系52	
ドイツ語学ドイツ文学	3331009	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)	2	後期	火	3			岡田 暁生	日本語	○	○	西洋文化学系53	
ドイツ語学ドイツ文学	3341001	ドイツ語学ドイツ文学(演習I)	2	前期	水	4			川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系54	
ドイツ語学ドイツ文学	3341002	ドイツ語学ドイツ文学(演習I)	2	後期	水	4			川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系55	
ドイツ語学ドイツ文学	3343001	ドイツ語学ドイツ文学(演習II)	2	前期	火	2			松村 朋彦	日本語	○	○	西洋文化学系56	
ドイツ語学ドイツ文学	3343002	ドイツ語学ドイツ文学(演習II)	2	後期	火	2			松村 朋彦	日本語	○	○	西洋文化学系57	
ドイツ語学ドイツ文学	3345001	ドイツ語学ドイツ文学(演習III)	2	前期	金	5			松村 朋彦,川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系58	
ドイツ語学ドイツ文学	3345002	ドイツ語学ドイツ文学(演習III)	2	後期	金	5			松村 朋彦,川島 隆	日本語	○	○	西洋文化学系59	
ドイツ語学ドイツ文学	3351001	ドイツ語学ドイツ文学(講義)	2	前期	月	2			網谷 優司	日本語	○	○	西洋文化学系60	
ドイツ語学ドイツ文学	3351002	ドイツ語学ドイツ文学(講義)	2	後期	月	2			山下 大輔	日本語	○	○	西洋文化学系61	
ドイツ語学ドイツ文学	3351003	ドイツ語学ドイツ文学(講義)	2	前期	水	3			土谷 真理子	日本語	○	○	西洋文化学系62	
ドイツ語学ドイツ文学	3351004	ドイツ語学ドイツ文学(講義)	2	後期	水	3			松村 朋彦	日本語	○	○	西洋文化学系63	
ドイツ語学ドイツ文学	3362001	ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)	1	前期	月	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	○	西洋文化学系64	
ドイツ語学ドイツ文学	3362002	ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)	1	後期	月	3			TRAUDEN, Dieter	ドイツ語	○	○	西洋文化学系65	
英語学英文学	3402001	系共通科目(英語学)(講義A)	2	前期	水	3			冨田 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系66	
英語学英文学	3404001	系共通科目(英語学)(講義B)	2	後期	水	3			冨田 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系67	
英語学英文学	3406001	系共通科目(英文学)(講義A)	2	前期	火	2			廣田 篤彦	日本語	○	○	西洋文化学系68	
英語学英文学	3408001	系共通科目(英文学)(講義B)	2	後期	火	2			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系69	
英語学英文学	3431002	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	水	1			廣田 篤彦	日本語	○	○	西洋文化学系70	
英語学英文学	3431003	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	金	3			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系71	
英語学英文学	3431004	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	4			森 慎一郎	日本語	○	○	西洋文化学系72	
英語学英文学	3431005	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	4			小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系73	
英語学英文学	3431010	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	木	2			滝沢 直宏	日本語	○	○	西洋文化学系74	
英語学英文学	3431011	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	木	2			滝沢 直宏	日本語	○	○	西洋文化学系75	
英語学英文学	3431012	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	3			出口 菜摘	日本語	○	○	西洋文化学系76	
英語学英文学	3431013	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	2			後瀬 篤	日本語	○	○	西洋文化学系77	
英語学英文学	3431014	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	1			メドロック 麻弥	日本語	○	○	西洋文化学系78	
英語学英文学	3431015	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	月	5			吉田 恭子	日本語	○	○	西洋文化学系79	
英語学英文学	3431016	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	金	1			木島 葉菜子	日本語	○	○	西洋文化学系80	
英語学英文学	3431017	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	金	1			木島 葉菜子	日本語	○	○	西洋文化学系81	
英語学英文学	3431018	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	金	2			HOFMEYR, Michael Frederick	英語	○	○	西洋文化学系82	
英語学英文学	3431019	英語学英文学(特殊講義)	2	後期	金	2			HOFMEYR, Michael Frederick	英語	○	○	西洋文化学系83	
英語学英文学	3431020	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	月	2			西谷 茉莉子	日本語	○	○	西洋文化学系84	
英語学英文学	3431021	英語学英文学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			石原 剛	日本語及び英語	○	○	西洋文化学系85	
英語学英文学	3431022	英語学英文学(特殊講義)	2	前期	水	5			冨田 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系86	
英語学英文学	3441001	英語学英文学(演習I)	2	前期	火	4			冨田 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系87	
英語学英文学	3441002	英語学英文学(演習I)	2	後期	火	4			冨田 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系88	
英語学英文学	3441003	英語学英文学(演習I)	2	前期	金	4			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系89	
英語学英文学	3441004	英語学英文学(演習I)	2	後期	金	4			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系90	
英語学英文学	3441005	英語学英文学(演習I)	2	前期	金	3			小林 久美子	日本語	○			

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日1		曜日2		担当教員名	使用言語	聴講可否		シラバス連番	備考
					時限	時限	時限	時限			科目等履修生(学部)	聴講生		
アメリカ文学	3531017	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	金	1			木島 菜葉子	日本語	○	○	西洋文化学系118	
アメリカ文学	3531018	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	金	2			HOFMEYR, Michael Frederick	英語	○	○	西洋文化学系119	
アメリカ文学	3531019	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	金	2			HOFMEYR, Michael Frederick	英語	○	○	西洋文化学系120	
アメリカ文学	3531020	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	月	2			西谷 美莉子	日本語	○	○	西洋文化学系121	
アメリカ文学	3531021	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	他	他			石原 剛	日本語	○	○	西洋文化学系122	
アメリカ文学	3531022	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	水	5			家人 葉子	日本語及び英語	○	○	西洋文化学系123	
アメリカ文学	3541001	アメリカ文学(演習)	2	前期	金	3			小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系124	
アメリカ文学	3541002	アメリカ文学(演習)	2	後期	金	3			小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系125	
アメリカ文学	3541003	アメリカ文学(演習)	2	前期	火	4			家人 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系126	
アメリカ文学	3541004	アメリカ文学(演習)	2	後期	火	4			家人 葉子	日本語	○	○	西洋文化学系127	
アメリカ文学	3541005	アメリカ文学(演習)	2	前期	金	4			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系128	
アメリカ文学	3541006	アメリカ文学(演習)	2	後期	金	4			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系129	
アメリカ文学	3551001	アメリカ文学(講義)	2	前期	月	5			森 慎一郎	日本語	○	○	西洋文化学系130	
アメリカ文学	3551002	アメリカ文学(講義)	2	後期	月	3			小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系131	
アメリカ文学	3551003	アメリカ文学(講義)	2	前期	水	1			廣田 篤彦	日本語	○	○	西洋文化学系132	
アメリカ文学	3551004	アメリカ文学(講義)	2	後期	金	3			南谷 泰良	日本語	○	○	西洋文化学系133	
アメリカ文学	3551005	アメリカ文学(講義)	2	前期	火	3			桂山 康司	日本語	○	○	西洋文化学系134	
アメリカ文学	3551006	アメリカ文学(講義)	2	後期	火	3			桂山 康司	日本語	○	○	西洋文化学系135	
アメリカ文学	3562001	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	1			LUDVIK, Catherine	英語	○	○	西洋文化学系136	
アメリカ文学	3562002	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	水	1			LUDVIK, Catherine	英語	○	○	西洋文化学系137	
アメリカ文学	3562003	アメリカ文学(外国語実習)	1	前期	水	3			Stephen Gill	英語	○	○	西洋文化学系138	
アメリカ文学	3562004	アメリカ文学(外国語実習)	1	後期	水	3			Stephen Gill	英語	○	○	西洋文化学系139	
アメリカ文学	3531006	アメリカ文学(特殊講義)	2	前期	木	4			西村 秀夫	日本語	○	○	西洋文化学系140	
アメリカ文学	3531007	アメリカ文学(特殊講義)	2	後期	木	4			西村 秀夫	日本語	○	○	西洋文化学系141	
フランス語学フランス文学	3604001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	前期	水	2			永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系142	
フランス語学フランス文学	3606001	系共通科目(フランス文学)(講義)	2	後期	水	2			森本 淳生	日本語	○	○	西洋文化学系143	
フランス語学フランス文学	3607001	系共通科目(フランス語学)(講義)	2	前期	火	3			小田 涼	日本語	○	○	西洋文化学系144	
フランス語学フランス文学	3631001	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	木	2			永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系145	
フランス語学フランス文学	3631002	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	金	2			森本 淳生	日本語	○	○	西洋文化学系146	
フランス語学フランス文学	3631004	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	木	3			FRANÇOIS LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系147	
フランス語学フランス文学	3631008	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	水	3			村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系148	
フランス語学フランス文学	3631010	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	水	3			村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系149	
フランス語学フランス文学	3631012	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	月	3			伊藤 玄香	日本語	○	○	西洋文化学系150	
フランス語学フランス文学	3645004	フランス語学フランス文学(演習)	2	後期	木	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系151	
フランス語学フランス文学	3648001	フランス語学フランス文学(演習)	2	前期	月	2			鳥山 定嗣	日本語	○	○	西洋文化学系152	
フランス語学フランス文学	3648002	フランス語学フランス文学(演習)	2	後期	月	2			村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系153	
フランス語学フランス文学	3651001	フランス語学フランス文学(講義)	2	後期	月	3			鳥山 定嗣	日本語	○	○	西洋文化学系154	
フランス語学フランス文学	3651002	フランス語学フランス文学(講義)	2	前期	月	3			村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系155	
フランス語学フランス文学	3651003	フランス語学フランス文学(講義)	2	後期	月	5			横田 悠矢	日本語	○	○	西洋文化学系156	
フランス語学フランス文学	3651007	フランス語学フランス文学(講義)	2	前期	月	5			藤野 志織	日本語	○	○	西洋文化学系157	
フランス語学フランス文学	3663001	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	前期	火	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系158	
フランス語学フランス文学	3663002	フランス語学フランス文学(外国語実習)	1	後期	火	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系159	
フランス語学フランス文学	9635001	フランス語(中級)(語学)	2	前期	水	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系160	
フランス語学フランス文学	9635002	フランス語(中級)(語学)	2	後期	水	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系161	
フランス語学フランス文学	9636001	フランス語(上級)(語学)	2	前期	水	2			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系162	
フランス語学フランス文学	9636002	フランス語(上級)(語学)	2	後期	水	2			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系163	
フランス語学フランス文学	3631003	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	木	3			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系164	
フランス語学フランス文学	3645003	フランス語学フランス文学(演習)	2	前期	木	4			Justine LE FLOCH	フランス語	○	○	西洋文化学系165	
フランス語学フランス文学	3631005	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	前期	火	2			鳥山 定嗣	日本語	○	○	西洋文化学系166	
フランス語学フランス文学	3631006	フランス語学フランス文学(特殊講義)	2	後期	火	2			鳥山 定嗣	日本語	○	○	西洋文化学系167	
イタリア語学イタリア文学	3702001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	水	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系168	
イタリア語学イタリア文学	3703001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	水	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系169	
イタリア語学イタリア文学	3731002	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	月	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系170	
イタリア語学イタリア文学	3731003	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	月	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系171	
イタリア語学イタリア文学	3731004	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	水	3			Ida Duretto	イタリア語	○	○	西洋文化学系172	
イタリア語学イタリア文学	3731005	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	水	3			Ida Duretto	イタリア語	○	○	西洋文化学系173	
イタリア語学イタリア文学	3731006	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	前期	水	5			Ida Duretto	イタリア語	○	○	西洋文化学系174	
イタリア語学イタリア文学	3731007	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	2	後期	水	5			Ida Duretto	イタリア語	○	○	西洋文化学系175	
イタリア語学イタリア文学	3741001	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	前期	金	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系176	
イタリア語学イタリア文学	3741002	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	後期	金	2			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系177	
イタリア語学イタリア文学	3741003	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	前期	金	4			菊池 正和	日本語	○	○	西洋文化学系178	
イタリア語学イタリア文学	3741004	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	後期	金	4			菊池 正和	日本語	○	○	西洋文化学系179	
イタリア語学イタリア文学	3741005	イタリア語学イタリア文学(演習)	2	通年	木	2			村瀬 有司, Ida Duretto	日本語及びイタリア語	○	○	西洋文化学系180	
イタリア語学イタリア文学	3751001	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	水	4			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系181	
イタリア語学イタリア文学	3751002	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	水	4			村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系182	
イタリア語学イタリア文学	3751003	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	前期	火	4			河合 成雄	日本語	○	○	西洋文化学系183	
イタリア語学イタリア文学	3751004	イタリア語学イタリア文学(講義)	2	後期	火	4			河合 成雄	日本語	○	○	西洋文化学系184	
イタリア語学イタリア文学	9668001	スペイン語(中級I)(語学)	2	前期	火	5			小西 咲子	日本語	○	○	西洋文化学系185	
イタリア語学イタリア文学	9669001	スペイン語(中級II)(語学)	2	後期	火	5			小西 咲子	日本語	○	○	西洋文化学系186	
イタリア語学イタリア文学	9673001	スペイン語(初級I)	2	前期	火	4			小西 咲子	日本語	○	○	西洋文化学系187	
イタリア語学イタリア文学	9674001	スペイン語(初級II)	2	後期	火	4			小西 咲子	日本語	○	○	西洋文化学系188	
イタリア語学イタリア文学	9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	4	前期	月	2	木	3	菅野 類	日本語	○	○	西洋文化学系189	
イタリア語学イタリア文学	9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	4	後期	月	2	木	3	菅野 類	日本語	○	○	西洋文化学系190	
西洋文化学系	3902001	西洋文学入門(講義)	2	前期	木	5			河島 忠朗, 村瀬 有司, 村上 祐二, 川島 隆, 中村 唯史, 廣田 篤彦, 小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系191	

西洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ギリシア文学史									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は古典ギリシア文学の基礎的な知識を修得することにある。ヨーロッパの文学はギリシア文学から始まったために、のちの文学活動に多大な影響を与えている。本講義ではそのようなギリシア文学のなかでも、とりわけ有名な文学作品をジャンルごとに概観するとともに、文学を理解するために必要な古代ギリシアの社会的・文化的背景を学ぶ。											
【到達目標】											
ギリシア文学史の要点を理解し、西洋古典学研究の基礎を修得する。具体的な全体の到達目標は以下の通り。 (1) ギリシア文学史の基礎知識を得ることができる。 (2) 古典文学作品を正確に読解することができる。 (3) 文学の社会的・文化的な意味を分析することができる。 (4) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。  第1回 イン트로ダクション：西洋古典学とはなにか 第2・3回 ホメロス『イリアス』口承叙事詩 第4・5回 ホメロス『オデュッセイア』物語と主題 第6・7回 抒情詩、祝勝歌 第8・9回 ギリシア悲劇と民主政 第10・11回 ギリシア悲劇・喜劇 第12・13回 散文、文学と文化 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤に各主題の理解度を図る確認テストあるいはレポート課題をおこなう(60%)

**[教科書]**

パワーポイント使用。プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET15 13102 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン文学史									
【授業の概要・目的】											
<p>叙事詩に重点を置きつつ、主として黄金時代までのラテン文学の代表的作家と作品を取り扱う講義です。</p> <p>しばしば「とっつきにくい」と言われるラテン文学ですが、ギリシア文学からの継承や同時代の状況を解説することで、それぞれの作品がどういった主題設定や問題意識のもとに展開されているかを解説しながら、鑑賞のポイントを紹介していきます。</p> <p>長いラテン文学の歴史のうち、最も影響力の高い作家を生んだ「黄金時代」までを取り上げ、とくに叙事詩（ルクレティウス、ウェルギリウス、オウィディウス）に重点を置きます。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテン語ラテン文学の歴史について、全体像を把握する</li> <li>・個々の作品の歴史的・文化的背景について理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>講義はおおむね以下のプログラムにしたがって進めますが、テーマや回数配分を状況に応じて変える場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション：ラテン文学の濫觴          第2回 ローマの喜劇：プラウトゥスとテレンティウス          第3回 ルクレティウス『事物の本性について』1          第4回 ルクレティウス『事物の本性について』2          第5回 ウェルギリウス『牧歌』『農耕詩』          第6回 ウェルギリウス『アエネーイス』          第7回 オウィディウス『変身物語』          第8回 マーネーリウス『アストロノミカ』          第9回 ローマの恋愛詩人たち          第10回 オウィディウス『恋の技術』          第11回 レポート執筆の方法について          第12回 ホラーティウス『カルミナ』          第13回 キケロー：弁論家と哲学者          第14回 歴史の文章：カエサル、サルルスティウス、リーウィウス          第15回 全体のまとめ</p>											
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（40％）

学期末レポート（60％）

**【教科書】**

授業内で資料を配布

**【参考書等】**

（参考書）

逸身喜一郎 『ギリシャ・ラテン文学 韻文の系譜をたどる15章』（研究社，2018年）

松本仁助, 岡道男, 中務哲郎編 『ラテン文学を学ぶ人のために』（世界思想社, 1992年）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

- ・ 配布資料を読んで授業の復習を行うこと
- ・ 授業内では原典の翻訳をはじめとして色々な文献を紹介するので，それらを実際に手に取って読んでみる

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『カルミナ』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『カルミナ』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『変身物語』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『変身物語』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		エウリーピデース『メーデイア』講読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、エウリーピデース『メーデイア』を講読する。エウリーピデースの代表作のひとつである『メーデイア』を、注釈書と共に精読することを通して、ギリシア語韻文を読む力を高めるとともに、劇の構成や展開、修辞技法についても理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシア語（韻文）を読む力を高める</li> <li>・原典の精読を通して、ギリシア悲劇の構成や特徴、エウリーピデースの文体についての知識を深める</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) D.J. Mastrorarde (ed.) 『Medea』 (Cambridge University Press, 2002) ISBN:0521643864											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院言語文化研究科 平山 晃司 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		エウリーピデース『メーデイア』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>黒海東端の僻地コルキスの王女メーデイアは、金羊皮を求めてテッサリアー地方の町イオールコスからやって来た王子イアーソーンと恋に落ち、彼とともにギリシアへと渡る。コリントスで夫婦として暮らす彼らは二人の子宝に恵まれたが、イアーソーンは土地の王女クレウーサと結婚してしまう。夫の裏切りに激怒したメーデイアは、彼に生き地獄を味わわせるべく愛する我が子二人を手に掛けることを決意、復讐心と母性愛の葛藤に苛まれつつも殺害を断行する。エウリーピデースの「情念の悲劇」の代表作『メーデイア』を精読する。</p>											
[到達目標]											
<p>ギリシア語の読解力を向上させる。 ギリシア悲劇の韻律や文体に習熟する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>毎回約100行ずつ読み進める予定。</p> <p>第1回 導入 第2回～第15回 訳読</p>											
[履修要件]											
<p>ギリシア語文法を修得済みであること。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。</p>											
[教科書]											
<p>Donald J. Mastronarde 『Euripides: Medea』 (Cambridge University Press, 2002) ISBN:9780521643863 教科書を各自用意し、pp.1-109 (とりわけpp.74-108) を事前に読んでおくこと。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>毎回の授業に備えて指定された範囲のテキストと注釈を丁寧に読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											



西洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		エウリーピデース『メーデイア』講読									
[授業の概要・目的]											
前期に引き続き、ギリシア語文法を学んだ人を対象として、エウリーピデース『メーデイア』を講読する。エウリーピデースの代表作のひとつである『メーデイア』を、注釈書と共に精読することを通して、ギリシア語韻文を読む力を高めるとともに、劇の構成や展開、修辞技法についても理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシア語（韻文）を読む力を高める</li> <li>・原典の精読を通して、ギリシア悲劇の構成や特徴、エウリーピデースの文体についての知識を深める</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） D.J. Mastronarde (ed.) 『Medea』 (Cambridge University Press, 2002) ISBN:0521643864											
[授業外学修（予習・復習）等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系10

科目ナンバリング	U-LET15 33141 SJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ヘーシオドス『神統記』精読										
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヘーシオドス『神統記』精読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習I									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習II									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(3)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興で作り、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p> <p>今期は209e5-最後までを読み進めます。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回~第14回 『饗宴』 209e5-223d12講読・検討 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

## 西洋古典学(演習) (2)

### [成績評価の方法・観点]

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### [教科書]

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text).』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### [参考書等]

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics).』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/.』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### [授業外学修(予習・復習)等]

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系15

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『メノン』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『メノン』の原典を精読します。この著作ではソクラテスとその対話相手メノンとの間で「徳とは何であるのか」「徳は教えられるのか」という問題が考察されます。比較的短い著作ですが、プラトン哲学にとって重要なトピック(例えば、定義を発見するための手続きの説明、探究の不可能性を導く「メノンのパラドクス」、幾何学問題の解答発見にもとづく「想起説」の証明、幾何学にヒントをえた「仮説の方法」など)が盛りだくさんになっています。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『メノン』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イントロダクション  第2回~第14回 『メノン』70a1-100c2講読・検討  第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											



## 西洋古典学(演習) (2)

### 【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### 【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus III (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1903.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

R. S. Bluck. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1961.)

R. W. Sharples. 『/Plato: Meno/. 』 (Warminster: Aris&Phillips, 1985.)

Dominic Scott. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2006.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系16

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系17

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
この授業はzoomを利用したオンラインでの双方向授業となります。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系19

科目ナンバリング	U-LET15 23151 LJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読										
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語読解の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系20

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシア語 (4時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的良好に実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約聖書』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取り掛かることができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期            第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説            第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説            第3回 第1課と第2課の復習            第4回 第3課の解説            第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説            第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期            第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。</p>											
----- ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く -----											

ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

第39回～第60回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。一コマにつき1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。          古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>											
【到達目標】											
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。          フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期          第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。          第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。          第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期          第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。          第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。          後期定期試験。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60点、試験40点で評価する。											
【教科書】											
<p>松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:4-8096-4301-8          教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。</p>											
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											



## ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習しておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系22

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級I）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										
[授業の概要・目的]											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方</p> <p>第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
[教科書]											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET49 29665 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級II）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系24

科目ナンバリング		U-LET49 29666 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級I）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級I）（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系25

科目ナンバリング		U-LET49 29667 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級II）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		京都大学文学部 非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級Ⅱ）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系26

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。</p> <p>主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。</p> <p>2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回：はじめに											
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など											
第4 - 13回：以下の3つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。											
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2) ロシア文化における「他者」としてのコーカサス表象の系譜： プーシキン『コーカサスの虜』、レールモントフ『現代の英雄』他、トルストイ『コサック』ほか</p> <p>3) 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>											
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況											
第15回：まとめ											
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

**【教科書】**

適宜プリントを配付します。

**【参考書等】**

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅:交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年)ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系27

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：はじめに</p> <p>第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(フェート、イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガールほか)</p> <p>第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、マレーヴィチの無対象絵画)、映画の展開(エイゼンシテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)</p> <p>第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：アフマトワ、ザミヤーチン、バーベリ、ブルガーコフ、グロスマンほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：エイゼンシテイン『イワン雷帝』の問題</p> <p>第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

**【教科書】**

適宜プリントを配付します。

**【参考書等】**

(参考書)

中村唯史・坂庭淳史・小椋彩(編著)『ロシア文学からの旅:交錯する人と言葉』(ミネルヴァ書房、2022年)ISBN:978-4-623-09400-4

その他にも、開講時ほか授業中に適宜指示します。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。  
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系28

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
[授業の概要・目的]											
<p>ロシアの詩についての論文を読みます。また、論文中に例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p> <p>テキストとしてはガスパロフかロトマンの詩論、あるいはブイコフの詩人論を講読します。どれを選ぶかについては、受講者と話し合ってください。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回～第14回 論文を講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。											
第15回 まとめ											
フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前に下調べをしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系29

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
【授業の概要・目的】											
<p>エフィム・エトキント著『詩についての話』は、詩における「コンテクスト」「比喻」「イメージ」「スタイル」などのテーマを、豊富な例を用いて、平明な文体で論じた名著です。詩の実例は、プーシキン、レールモントフから、チュツチェフ、フェートなどを経て、ブローク、アフマートワ、ツヴェターエワ、ザボロツキーなど20世紀前半の詩までをカバーしています。</p> <p>この本の重要な箇所を講読するとともに、例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『詩についての話』を講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。</p> <p>第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
事前に下調べをしてください。											
<p>(その他(オフィスアワー等)) 詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

西洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 有宗 昌子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖人伝を読む ロシア教会史に関する文献の講読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、聖人伝とロシア教会史に関する文献の講読を通じて、ロシアのキリスト教文化とロシア社会に関する知識と理解を深めることにある。 ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどの正教圏で列聖された様々な時代の聖人のうち、特に崇敬を集める聖人を取り扱う。関連するイコンや映像なども参照する。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基本的な読解力と、宗教的文献のジャンルの一つである聖人伝の読解力の向上を目指します。 2) ロシア教会史と社会背景に関する知識と理解を深めます。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明し、文献の紹介を行います。											
第2回～第14回 講読： 一人の人物の聖人伝を1回ないし数回に分けて読み進める。											
第15回 まとめ  フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基本文法を理解していること（未修事項は適宜補います）。 辞書を使って読めること。独習でもかまいません。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60%、期末レポート40%で評価します。											
【教科書】											
プリント、データを配付します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に紹介する本や論考、映像をできるだけ自分でも参照してみてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回授業で相談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけではなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。  (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス  第2回 自分について  第3回 大学  第4回 住居  第5回 交通  第6回 日常生活  第7回 家族  第8回 食事  第9回 郵便・電話  第10回 テレビ・映画  第11回 日付  第12回 新聞・雑誌  第13回 ハイキング  第14回 趣味  第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

### [教科書]

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）  
適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

### [参考書等]

（参考書）

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

### [授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系32

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。											
【到達目標】											
(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 生格の用法 第3回 造格の用法 第4回 前置格の用法(1) 第5回 前置格の用法(2) 第6回 動詞の格支配 第7回 運動の動詞 第8回 動詞の体(1) 第9回 動詞の体(2) 第10回 受身の表現 第11回 無人称文 第12回 仮定法の用法 第13回 関係詞の用法 第14回 いろいろな型の従属文 第15回 まとめ											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席・毎回の作文課題)30%、期末レポート(和文露訳)70%											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [教科書]

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）  
適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

### [参考書等]

（参考書）

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

### [授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。  <div style="text-align: right;">(1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」]</div> <p>ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系34

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36										
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	露書講読 1										
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
前記に引き続き以下の文書をテキストとする予定である。 <span style="float: right;">(1862) [ゲルツ エン「終わり始まり」]</span>  後期のみ受講者にも支障のないよう、前期に読んだ部分の日本語要約を配布した上で、新しい章(書簡)から講読していく予定。 ただし、事情によってはテキストを変更する可能性もある。  第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーは、火曜4限とする。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系35

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学の短編を読む									
[授業の概要・目的]											
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ロシア文学の父と言われるプーシキンの短編集『ベールキン物語』から、『射撃』と『吹雪』の2編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。											
[到達目標]											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。											
第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。  フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系36

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36										
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中村 唯史				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	ロシア文学の短編を読む										
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連期の作家バーベリ『ザモスチエ』、オレーシャ『リオンパ』、トリーフォノフ『茸の秋のこと』などの短編を講読します。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。											
【到達目標】											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨ 作家と講読作品の概要について説明します。											
第2回～14回 上記の短編を読んでいきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



## 西洋文化学系37

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36											
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目	ロシア語論文講読											
[授業の概要・目的]												
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。												
[到達目標]												
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。												
[授業計画と内容]												
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。												
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する												
[履修要件]												
ロシア語の基本文法を習得済みであること。												
[成績評価の方法・観点]												
平常点50%、期末レポート50%で評価する。												
[教科書]												
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。												
[授業外学修(予習・復習)等]												
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。												
(その他(オフィスアワー等))												
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。</li> <li>・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第5章以降を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。第5章は、18世紀のポーランド分割の時代を扱っている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

### [教科書]

授業でテキストを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

### (その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系39

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系40

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系41

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
[授業の概要・目的]											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
[到達目標]											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
[授業計画と内容]											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点30%、試験70%で評価します。											
[教科書]											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											



ロシア語（初級）(語学)(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系42

科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法  その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相  文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）  第15回 まとめ  フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）（2）

**[教科書]**

プリントを配付します。

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級 I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . ポーランド語の基礎知識 (文字、アクセント、語尾変化、発音など) 【1週】</li> <li>2 . 基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙 【1週】</li> <li>3 . 基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化 【1週】</li> <li>4 . ここまでの内容の確認と練習 【1週】</li> <li>5 . 名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け 【1週】</li> <li>6 . 名詞の単数生格、panとpaniの用法 【1週】</li> <li>7 . 名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方 【1週】</li> <li>8 . ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認 【1週】</li> <li>9 . 名詞の単数複数対格、動詞の第1変化 (-m,-sz型) 【1週】</li> <li>10 . 動詞の第2変化 (-e,-isz型)、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現 【1週】</li> <li>11 . 動詞の第3変化 (-e,-esz型)、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格 【1週】</li> <li>12 . sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉 【1週】</li> <li>13 . 前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習 【1週】</li> <li>14 . 映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる 【1週】</li> <li>15 . 定期試験 【1週】</li> <li>16 . フィードバック 【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス+ ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】</li> <li>2 . 動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】</li> <li>3 . 動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】</li> <li>4 . 動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】</li> <li>5 . 命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】</li> <li>6 . 移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】</li> <li>7 . 関係代名詞ktoryの用法【1週】</li> <li>8 . ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】</li> <li>9 . 仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】</li> <li>10 . sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】</li> <li>11 . 副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】</li> <li>12 . 非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】</li> <li>13 . 一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】</li> <li>14 . ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15 . 定期試験【1週】</li> <li>16 . フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET17 13302 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学の名作を読む									
【授業の概要・目的】											
この授業では、18世紀から20世紀にかけてのドイツ文学の名作を毎回一篇取り上げる。作品の重要な箇所を読みながら、作品のテーマやさまざまな解釈の可能性について考察する。											
【到達目標】											
ドイツ文学の作家や作品にかんする知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマは次の通り。 1 はじめに 2 ゲーテ『若きヴェルターの悩み』(1774) 3 ノヴァーリス『青い花』(1802) 4 ゲーテ『ファウスト』(1808/1832) 5 クライスト『チリの地震』(1810) 6 フーケー『ウンディーネ』(1811) 7 シャミッソー『影をなくした男』(1814) 8 ホフマン『砂男』(1816) 9 シュトルム『みずうみ』(1849) 10 シュティフター『水晶』(1853) 11 メーリケ『旅の日のモーツァルト』(1855) 12 リルケ『マルテの手記』(1910) 13 マン『ヴェネツィアに死す』(1913) 14 カフカ『訴訟』(1925) 15 おわりに											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。 期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											



系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET17 13304 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学における「動物」									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代の文学に動物が登場するとき、それは基本的に 人間のメタファーとして何らかの寓意を表現するか、 象徴的な意味合いを帯びたモチーフとして働くかのいずれかであり、現実の動物そのものに関心が向くことは稀だった。しかし近代に入ると、リアルな動物が描かれることが増えていく。この動きは、自然科学が発達するとともに、家畜としての動物や狩猟の対象になる動物の苦痛が問題化され、いわゆる「動物の権利」が唱えられ、動物愛護運動や肉食主義運動が盛んになっていく過程と連動していた。そこでは、「他者」としての動物の視点から人間の存在を相対化し、批判的に捉える人間中心主義批判の文学が数多く生み出された。この授業では、以上のような流れの中で具体的にどのような動物がドイツ文学に描かれてきたかを見ていく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ文学史について基本的な知識を得る</li> <li>2. ドイツ文学に描かれる「動物」の特徴と、その文化的文脈を把握できるようになる</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
第1回	イントロダクション	聖書や古代寓話の中の動物									
第2回	イントロダクション	「動物の権利」の歴史									
第3回	ゲーテ『ライネケ狐』	寓話の近代化									
第4回	グリム童話に描かれた動物たち	民俗学的イメージと個人の創作									
第5回	ホフマン『とある教養ある若者の消息』	人間と猿の境界線									
第6回	シュピーリ『ハイジ』	家畜とペットの境界線									
第7回	エッセンバッハ『クランバンプリ』	リアリズム文学に描かれた「犬」									
第8回	リルケ『マルテの手記』	モダニズム文学に描かれた「犬」									
第9回	ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』	寓話と自然科学									
第10回	カフカ『田舎医者』	超現実的な「馬」									
第11回	カフカ『あるアカデミーへの報告』	人間と猿の境界線									
第12回	リルケ『ドゥイノ悲歌』	「他者」としての動物									
第13回	ザルテン『バンビ』	「他者」としての動物									
第14回	ケストナー『動物会議』	社会批判と動物									
第15回	まとめ										
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業で扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学とユダヤ人									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ドイツ文学に描かれた「ユダヤ人」の像と、ドイツ語を用いて現実に活動したユダヤ人作家の文学を交互に扱う。18世紀の啓蒙主義の時代以降、ユダヤ人解放が進むにつれて、ドイツ語圏においてもユダヤ人が文化活動に参入するようになっていった。それと並行して、文学の中に「ユダヤ人」の像が描かれることも増えていくが、文学の中の「ユダヤ人」は、必ずしも現実のユダヤ人の存在とは一致しない。また、ユダヤ系作家が自ら「ユダヤ人」を文学のテーマとして取り上げるとは限らない。文学的表象と現実の関係は一筋縄ではいかず、複雑なのである。これは、ナチスによるホロコースト/ショアー（ユダヤ人虐殺）を経て、文学や映画の中で「ユダヤ人の表象があふれている現在において、なおさら持続的に考えるべき課題となっている。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ文学に描かれた「ユダヤ人」の像について基礎的知識を得る</li> <li>2. ユダヤ系ドイツ語作家について基礎的知識を得る</li> <li>3. 両者の関係を考察することを通じ、文学的表象と現実の接点や乖離について考えることに慣れる</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>取り上げる予定のテーマは以下の通り（ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある）。毎回、講師による情報提供のあと、受講者参加型のディスカッションを行う。</p>											
第1回	イントロダクション	「ユダヤ人」の像と現実のユダヤ人の関係について									
第2回	レッシング『賢者ナータン』	啓蒙主義とユダヤ人解放									
第3回	ハイネとベルネ	「若きドイツ」派のユダヤ系作家たち									
第4回	ドロステ＝ヒュルスホフ『ユダヤ人のブナの木』	差別の構図									
第5回	ベルトルト・アウエルバッハ	ユダヤ的歴史小説からドイツ的「村物語」へ									
第6回	カール・クラウス『ハイネとその顛末』	「ユダヤ人の自己嫌悪」									
第7回	シュニッツラーとホーフマンスタール	「若きウィーン」派のユダヤ系作家たち									
第8回	シュニッツラー『ベルンハルディ教授』	医療倫理と宗教対立									
第9回	カフカと「プラハ・サークル」	同化と反ユダヤ主義									
第10回	カフカの動物物語	ユダヤ人の寓話？									
第11回	ツェラン『死のフーガ』	強制収容所の体験を歌う									
第12回	ツェランとホロコースト後の詩人たち										
第13回	リヒター『あのころはフリードリヒがいた』	責任があるのは誰か									
第14回	ホロコースト後「第二世代」のユダヤ系作家たち										
第15回	シュリンク『朗読者』	過去の罪の相対化									
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系48

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ゲーテとその同時代人たち									
【授業の概要・目的】											
この授業では、ゲーテとその同時代人たちとの関係について考察する。そのことによって、18世紀後半から19世紀前半にかけてのドイツの文化状況に照明を当ててみたい。											
【到達目標】											
ゲーテとその時代にかんする知識と理解を深める。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマは次の通り。 1 はじめに 2 ゲーテの生涯とその時代 3 家族 4 女性たち(1) 5 女性たち(2) 6 啓蒙主義 7 シュトゥルム・ウント・ドラング 8 古典主義 9 ロマン主義 10 批判者たち 11 科学者たち 12 音楽家たち 13 フランス革命 14 世界文学 15 おわりに											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。 期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語学・ゲルマン語学 入門									
[授業の概要・目的]											
研究発表（ゼミ形式）による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
言語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第10回 研究発表（ゼミ形式）院生による。 第11回～第13回 研究発表（ゼミ形式）学部生による。 第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館） 河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



西洋文化学系50

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (I)									
【授業の概要・目的】											
Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (I): Das Thema dieses Kurses ist die Literatur des Zeitraums vom Erstarken des Nationalsozialismus in den 20er Jahren des 20. Jahrhunderts bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs. Behandelt werden sowohl nationalsozialistische Schriften als auch kritische Stellungnahmen bürgerlicher wie sozialistischer Schriftsteller gegen den Nationalsozialismus. Der erste Teil des Kurses gibt einen Überblick über die Zeitgeschichte sowie eine Einführung in die Rhetorik und konzentriert sich dann auf von Nationalsozialisten verfasste Texte.											
【到達目標】											
Dieser Kurs bietet eine Einführung in die geschichtlichen Bedingungen, mit denen sich die Schriftsteller der Zeit konfrontiert sahen, sowie einen Überblick über die verschiedenen Wege und Formen, wie sie sich mit diesen auseinandersetzten. Ein besonderer Fokus liegt dabei auf den rhetorischen Mitteln, deren sich die jeweiligen Verfasser bedienten.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren der Epoche vorgestellt und vor dem geschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Zeitgeschichte. 3.-4. Woche: Einführung in die Rhetorik. 5.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele nationalsozialistischer Literatur (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

## ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.

### [参考書等]

#### (参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### (その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (II)									
【授業の概要・目的】											
Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (II): Das Thema dieses Kurses ist die Literatur des Zeitraums vom Erstarken des Nationalsozialismus in den 20er Jahren des 20. Jahrhunderts bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs. Behandelt werden sowohl nationalsozialistische Schriften als auch kritische Stellungnahmen bürgerlicher wie sozialistischer Schriftsteller gegen den Nationalsozialismus. Im Zentrum des zweiten Teils dieses Kurses stehen Texte von Gegnern des Nationalsozialismus, sowohl innerhalb Deutschlands als auch im Exil.											
【到達目標】											
Dieser Kurs bietet eine Einführung in die geschichtlichen Bedingungen, mit denen sich die Schriftsteller der Zeit konfrontiert sahen, sowie einen Überblick über die verschiedenen Wege und Formen, wie sie sich mit diesen auseinandersetzten. Ein besonderer Fokus liegt dabei auf den rhetorischen Mitteln, deren sich die jeweiligen Verfasser bedienten.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren der Epoche vorgestellt und vor dem geschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1. Woche: Allgemeine Einführung in das Thema des Kurses. 2.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele von Nazi-Gegnern in Deutschland und im Exil (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
【参考書等】											
(参考書) Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

-----  
die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

### **[授業外学修（予習・復習）等]**

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### **（その他（オフィスアワー等））**

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系52

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：小節線が可能にしたもの（2021年度後期の復習） 4回：音楽原理としての「ショック」と近代 5回：巨大音響建築に取り憑かれた世紀（ベルリオーズからマーラーに至る管弦楽曲） 6 - 8回：ホール建築とホール照明の歴史 9回：ハイデガーのGestell概念と「指揮者」への盲従 10回：足踏みする時間と第一次大戦後のストラヴィンスキーとテクノ 11 - 12回：「音楽の散文」と静止した時間とワーグナー 13 - 15回：反復の原理とラヴェル『ボレロ』とレヴィストロース											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系53

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識 2									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 2回：前期の要約 3 - 4回：「遅刻」としての自由 シンコペーションとレイドバックとジャズ 5回：身体をマシンにすれば自由になる モダンジャズとポリリズムについて 6回：音楽は「点」に分解できるか シュトックハウゼンと戦後セリー音楽 7 - 9回：すべては波動だ？ 電子音楽の原理 10 - 11回：電子音楽は「楽譜・解釈・作品」の概念をどう変えたか 12回：ジョン・ケージと非決定論と賭博 13回：「終わらない時間」をどう音楽化する？ サティからマックス・リヒターまで 14回：同上 アンビエント・ミュージックの功罪 15回：テレパシー音楽は「作品」たりうるか？ シュトックハウゼンの直観音楽とフルクサス											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 岡田暁生 『西洋音楽史』（中公新書）											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

-----

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系54

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と「友情」									
[授業の概要・目的]											
近代に入ると、18世紀の啓蒙主義が導入したヒューマニズムの価値観を受けて、「友情」の価値は飛躍的に高まった。その一方、同性間の「友情」は異性間の「恋愛」と対比され、19世紀後半における同性愛の発見とホモフォビアの拡大ともに、情熱的すぎる「友情」は不適切なものと見なされて忌避されるようになった。しかしドイツ語圏においては、同性間の情熱的な「友情」が西欧の国々におけるより長いあいだ肯定的に位置づけられており、いわゆる「男性同盟」が理想化され、それが20世紀初頭からナチス期にかけて政治的な役割を果たしたとも見なされている。ドイツ文学にも痕跡をとどめているドイツ語圏独特の文化的文脈をpushさつつ、以上のような見方が実際どの程度妥当であるかを考える。											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。											
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキストの輪読と討論 第15回 まとめ											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系55

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と「友情」									
[授業の概要・目的]											
近代に入ると、18世紀の啓蒙主義が導入したヒューマニズムの価値観を受けて、「友情」の価値は飛躍的に高まった。その一方、同性間の「友情」は異性間の「恋愛」と対比され、19世紀後半における同性愛の発見とホモフォビアの拡大ともに、情熱的すぎる「友情」は不適切なものと見なされて忌避されるようになった。しかしドイツ語圏においては、同性間の情熱的な「友情」が西欧の国々におけるより長いあいだ肯定的に位置づけられており、いわゆる「男性同盟」が理想化され、それが20世紀初頭からナチス期にかけて政治的な役割を果たしたとも見なされている。ドイツ文学にも痕跡をとどめているドイツ語圏独特の文化的文脈を押さえつつ、以上のような見方が実際どの程度妥当であるかを考える。											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。											
第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系56

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Theodor Storm: Immensee (1)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、19世紀後半のドイツの作家シュトルムの小説『みずうみ』を読む。この作品は、ある老人が若き日の悲恋の思い出を回想するというかたちをとった、シュトルム初期の名作である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。</li> <li>・シュトルムの文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： シュトルムの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読： 作品の前半部を精読する。</p> <p>第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系57

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Theodor Storm: Immensee (2)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、19世紀後半のドイツの作家シュトルムの小説『みずうみ』を読む。この作品は、ある老人が若き日の悲恋の思い出を回想するというかたちをとった、シュトルム初期の名作である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。</li> <li>・シュトルムの文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回～第14回 テクスト講読： 作品の後半部を精読する。 第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系58

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
[授業の概要・目的]											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。</li> <li>・研究発表とディスカッションの技法を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回～第3回 博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。											
第4回～第6回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第7回～第9回 博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第10回～第15回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
[履修要件]											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系59

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
[授業の概要・目的]											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。</li> <li>・研究発表とディスカッションの技法を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回～第6回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。											
第7回～第9回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。											
第10回～第12回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第13回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告											
[履修要件]											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 網谷 優司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アインシュタインとフロイトの往復書簡『戦争はなぜに』(1932)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アインシュタインとフロイト。前者は物理学者として、後者は心理学者として、ともに20世紀を代表する「知の巨人」と言えるでしょう。</p> <p>二人は、1932年に国際連盟の企画で公開往復書簡を交わしています。テーマは、「ひとはなぜ戦争をするのか」。</p> <p>この往復書簡は、アインシュタインが心の専門家であるフロイトに対して、人類を戦争の軛から解放する方策はあるのかという問いを投げかけ、フロイトが精神分析学の立場からその問いに回答するという形を取っています。</p> <p>本授業では、二人の手紙をドイツ語原文で読むことでドイツ語の読解能力を高めるとともに、フロイトの人間観や戦争観に迫ってみたいと思います。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ドイツ語の基礎的な読解能力を身につけること</li> <li>2.フロイトの思想に親しむこと</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入（授業の進め方についての説明とフロイトに関する基本知識の紹介）</p> <p>第2~4回 アインシュタインのフロイト宛の手紙を読む</p> <p>第5~14回 フロイトのアインシュタインへの返信を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級の授業を履修済みであるか、あるいは同程度の語学力を有すること。											
-----ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く-----											

## ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

予習の精度、授業への積極的参加などの平常点100%で評価する。  
講読の授業なので、到達目標の1(ドイツ語の基礎的な読解能力)を最も重視します。到達目標の2(フロイトの思想に親しむこと)は、あくまで付随的なものとお考えください。

### [教科書]

プリントを配布する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回3頁弱の予習範囲を指定します。輪読形式で授業を進めるため、毎回指定された範囲を独和辞典を用いて予習したうえで出席してください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系61

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 大輔			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランツ・カフカ『ある犬の研究』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランツ・カフカ(1883 - 1924)の後期の動物物語『ある犬の研究』(1922)をドイツ語で読みます。</p> <p>この作品は、語り手である一匹の老犬が自身の研究生活について回想する自伝物語です。老犬は、自身の種「犬族」について独自の研究をおこなってきた学者犬であり、物語の中で彼は、「7匹の音楽犬」、「空気犬」、「獵師」といった犬たちについて考察します。</p> <p>この授業では、まずドイツ語の基本的な文法を確認しつつテキストを精読します。そのうえで、主人公の語りの視点や語る内容について検討したいと思います。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語の基礎的な読解能力を身につけること。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入(授業の進め方、作家および作品について)</p> <p>第2~14回 『ある犬の研究』を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
ドイツ語初級の授業を履修済みであるか、あるいは同程度の語学力を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(予習の有無、授業への積極的参加)によって評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
輪読形式で授業を進めるため、毎回予習のうえ出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
担当教員への連絡はメールでお願いします(オフィスアワー参照)。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系62

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 土谷 真理子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ゲーテの「バラード(譚詩)」を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ヴォルフガング・ゲーテの韻文作品である「バラ デ(譚詩)」群からいくつかを選定し、ドイツ語で読む。</p> <p>「バラード」とは、物語のように筋を持った詩であり、内容の把握のみならず、形式の面においても通常の散文とは違った技術が必要である。そのため、適宜ドイツ詩に関する知識も補足しつつ、ゲーテの詩の世界を楽しみながら読み進めたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ドイツ語の基本的な読解能力を養う。</li> <li>2、ドイツ語の韻文作品を読む能力および技術を養う。</li> <li>3、ゲーテの作品世界を理解する。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：ゲーテの生涯と作品について学ぶ。</p> <p>第2～14回：ゲーテの「バラード」を読む。</p> <p>第15回 総括：授業の内容をふまえて小論文を書く。</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級程度の語学力を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加および貢献度、到達目標の達成度、最終回の小論文に基づいて総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する プリントを授業内で配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
輪読形式で進めるため、毎回かならず予習して授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系63

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ドイツ・ロマン主義のメールヒェン									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ドイツ・ロマン主義のメールヒェンを読む。具体的な作品としては、ノヴァーリスやテークのメールヒェンを考えている。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の基礎的な読解力を身につける。</li> <li>・ドイツ・ロマン主義の文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： ドイツ・ロマン主義の作家や作品について解説する。</p> <p>第2～14回 テキスト講読： 作品を精読する。</p> <p>第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語初級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系64

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Kölner Sagen und Legenden									
【授業の概要・目的】											
Kölner Sagen und Legenden: In diesem Kurs lesen wir alte Sagen und Legenden aus Köln und seiner Umgebung, die noch heute bei den Menschen im Rheinland sehr bekannt und beliebt sind, z. B. "Die kölnische Stadtmutter", "Sankt Ursula und ihre elftausend Jungfrauen", "Das Gebein der Heiligen Drei Könige", "Die Pferdeköpfe am Haus 'Zum Papageien'" und "Jan und Jriet". Die Studenten lernen die geschichtlichen Wurzeln der deutschen Kultur kennen und damit das Leben der Menschen heute besser verstehen.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75 %) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
【参考書等】											
(参考書) Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

über die deutsche Grammatik benutzen.

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

**（その他（オフィスアワー等））**

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系65

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Tiergeschichten von Gustav Meyrink									
【授業の概要・目的】											
Tiergeschichten von Gustav Meyrink: Zwischen 1901 und 1926 veröffentlichte Gustav Meyrink (1868-1932) Erzählungen in der Münchner satirischen Wochenzeitschrift "Simplicissimus", darunter auch etliche kurze Tiergeschichten, z. B. "Tschitrakarna das vornehme Kamel", "Die Geschichte vom Löwen Alois", "Das Wildschwein Veronika" und "Amadeus Knödlseher, der unverbesserliche Lämmergeier". In diesem Kurs lesen wir einige von Meyrinks Tiergeschichten und sprechen wir über ihre kulturhistorischen Hintergründe.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75%) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

## ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

### [参考書等]

#### (参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### (その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系66

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史A									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか          第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語          第3回： 英語の外面史と内面史（導入）          第4回： 借用語（ラテン語を中心に）          第5回： 借用語（スカンディナヴィア語を中心に）          第6回： 借用語（フランス語を中心に）          第7回： 語形成、およびその歴史の変遷          第8回： 意味の歴史の変遷          第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷          第10回： 発音の歴史の変遷          第11回： 人称代名詞の形態全般          第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷          第13回： 指示代名詞の歴史の変遷          第14回： 関係代名詞の歴史の変遷          第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業（1回程度）を行うことがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----											



系共通科目(英語学)(講義A)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業への貢献度（30％）およびレポート（70％）によって評価を行います。

**[教科書]**

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

苅部恒徳 『原文対訳「カンタベリィ物語・総序歌」』（松柏社）

**[参考書等]**

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報あります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史B									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか          第2回： 語形変化の実際          第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大          第4回： 主節と従属節の歴史の変遷          第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷          第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷          第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷          第8回： 法助動詞の歴史の変遷          第9回： be動詞の歴史の変遷          第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷          第11回： 完了形の歴史の変遷          第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷          第13回： 否定構文の歴史の変遷          第14回： 助動詞doの歴史の変遷          第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解（言語の揺れを中心に）</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業（1回程度）を行うことがあります。</p>											
----- 系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

**[履修要件]**

内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。

**[成績評価の方法・観点]**

授業への貢献度(30%)およびレポート(70%)によって評価を行います。

**[教科書]**

家入葉子 『ベーシック英語史』(ひつじ書房)  
苅部恒徳 『原文対訳「カンタベリィ物語・総序歌」』(松柏社)

**[参考書等]**

(参考書)  
堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』(中央大学出版)  
R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』(CUP)  
寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』(中公新書)  
<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当をお願いすることがあります。

(その他(オフィスアワー等))

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系68

科目ナンバリング		U-LET18 13406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(中世 18世紀の英国演劇史)									
【授業の概要・目的】											
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。本年度は英国演劇の系譜と変遷をテキストの抜粋を読みながら歴史的文脈の中で位置づけることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中世から18世紀の戯曲を代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が包括的に深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文学における演劇の伝統</li> <li>2. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な形式と英語表現の変遷</li> <li>3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週 Introduction 1: English Literature: Historical outline  第2週 Introduction 2: Tradition of Drama in Western Literature  第3週 Medieval Drama 1: Mystery Plays  第4週 Medieval Drama 2: Morality Plays, Mankind  第5週 English Translation of Classical Drama in the Renaissance: Seneca  第6週 William Shakespeare 1 History Play: Richard III  第7週 William Shakespeare 2 Comedy: The Comedy of Errors  第8週 William Shakespeare 3 Tragedy: King Lear  第9週 Ben Jonson, Bartholomew Fair  第10週 Restoration Drama 1 Heroic Tragedy: John Dryden, Aureng-Zebe  第11週 Restoration Drama 2 Restoration Comedy: William Wicherly, The Country Wife  第12週 Restoration Drama 3 Shakespeare Adaptation: Nahum Tate, King Lear  第13週 Eighteenth Century Comedy: Richard Brinsley Sheridan, The School for Scandal  第14週 Summary: English Drama from the Middle Ages to the Eighteenth Century  第15週 Review/Feedback</p>											
【履修要件】											
後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。											
-----系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く-----											

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

中間、学期末レポート各50%、両方を提出していなければ成績評価の対象にならない。それぞれの題目、長さ、提出期限等詳細については授業中に口頭で指示をする。レポートの提出はPandAによるものとする。

**[教科書]**

授業資料は予めPandA上に掲載する。終了後一定時間が経った時点で消去するので注意すること。

**[参考書等]**

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

喜志哲雄 『英米演劇入門』 (研究社) ISBN:978-4327375119

**[授業外学修(予習・復習)等]**

辞書を丹念に引いて各週のテキストの内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系69

科目ナンバリング		U-LET18 13408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(小説・散文)									
【授業の概要・目的】											
<p>英文学史上の著名な小説・散文を紹介しながら、英文学における主題と文体の歴史の変遷を学ぶ。文学史は古いところから説き起こすのが常だが、この講義では新しい時代から遡る形で講義を進行し、「現代」ではなくなっていく変化を、個々の作品が生まれた時代背景とともに考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>英国小説についての一般的な基礎知識を身につけ、時代的な背景とともに特定の作家がどのような特性をもつかを理解できるようになる。また、作家の言葉に対する態度と「表現すること」、「物語ること」の変化を考察しながら、自らが関心をもった作家についてリサーチを進めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション  第2回 Kazuo Ishiguro  第3回 Ewan McEwan  第4回 Samuel Beckett  第5回 George Orwell, E. M. Forster  第6回 James Joyce, Virginia Woolf  第7回 D. H. Lawrence, Joseph Conrad  第8回 Thomas Hardy, George Eliot  第9回 Charles Dickens, Elizabeth Gaskell,  第10回 The Brontes  第11回 Jane Austen  第12回 ゴシック小説、歴史小説  第13回 Samuel Richardson, Henry Fielding  第14回 Daniel Defoe, Jonathan Swift  第15回 フィードバック (研究室にて授業内容に関連する質問に答える)</p>											
【履修要件】											
前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、リアクションペーパー(60%)および学期末に提出してもらうレポート(40%)によって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを適宜配布する。											
----- 系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』 ( OUP ) ISBN:978-0199608218

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として、授業中に指定する資料を読んでおくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00~14:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系70

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Paradise Lost, Book I 精読									
【授業の概要・目的】											
17世紀英文学を代表する詩人の一人であるJohn Miltonの代表作Paradise Lostの冒頭巻の精読を通じてその特徴を、イングランド宗教改革、内戦 - 共和制 - 王政復古という政治上の激動などの文脈において理解することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期近代の詩の読み方を身につける。</li> <li>・ 授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では予め指定した担当に従って各受講者が解釈をし、該当箇所に関する問題提起をすることが求められる。</p> <p>一学期間の授業で扱えるのは長大な叙事詩の極一部にすぎないが、毎回扱う詩行は相当な分量になり、これをOxford English Dictionaryやその他の関連文献を参照しながら精読するためには多大な労力が求められる。</p> <p>なお教科書として指定したものの他にも本作品は複数出版されているので、学術的な注釈が付いているものであれば他の版を使用しても構わない。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション 担当箇所を決定するので受講希望者は必ず出席すること Paradise Lost The Verse / Book I The Argument</p> <p>第2回 Paradise Lost Book I 1-67行</p> <p>第3回 同 67-131</p> <p>第4回 同 132-202</p> <p>第5回 同 203-270</p> <p>第6回 同 271-330</p> <p>第7回 同 331-391</p> <p>第8回 同 392-461</p> <p>第9回 同 462-530</p> <p>第10回 同 531-594</p> <p>第11回 同 594-669</p> <p>第12回 同 670-737</p> <p>第13回 同 738-798</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



英語学英文学(特殊講義)(2)

第15回 フィードバック

各行の難易度また担当者の習熟度に応じて進度には多少の変更の可能性がある。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

担当箇所の口頭発表 80%、その他授業への貢献 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

**【教科書】**

John Milton 『Paradise Lost』 ( W. W. Norton & Company, 2020 ) ISBN:978-0393617085 ( Norton Critical Edition, ed. Gordon Teskey )

**【参考書等】**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

毎回Oxford English Dictionaryなどを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、巻全体の理解に努めること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系71

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)を読む									
【授業の概要・目的】											
Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。同作はIshiguroによるブッカー賞最終候補作であり、マーク・ロマネク監督によって優れた映画化もなされている。情報や事実、記憶が抑制的に語られ、徐々に明らかにされていく筆致と展開を通じて、受講者はわかりやすい言葉、明晰な論理、筋の通ったロジックを疑う契機をつくりだし、文学テキストでこそ表現可能になる未明の言葉の領域を体感してもらいたい。											
【到達目標】											
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。半期で物語すべて(ペーパーバック版で282頁)を読み終える予定であるため、一周につき20-30ページほどの英文読解が課題となる。											
第2回 pp.3-24 第3回 pp.25-48 第4回 pp.49-75 第5回 pp.76-97 第6回 pp.98-109 第7回 pp.113-135 第8回 pp.136-154 第9回 pp.155-181 第10回 pp.182-199 第11回 pp.203-232 第12回 pp.233-251 第13回 pp.252-270 第14回 pp.271-282 第15回 まとめ+質疑応答											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

### 【教科書】

Kazuo Ishiguro 『Never Let me Go』（2010（Paperback版））ISBN:9780571258093（[https://www.amazon.co.jp/Never-Let-Me-Kazuo-Ishiguro/dp/0571258093/ref=sr\\_1\\_1?\\_\\_mk\\_ja\\_JP=カタカナ&crd=9DXWGMZ48OZB&keywords=Never+Let+me+Go&qid=1670693097&srefix=%2Caps%2C585&sr=8-1](https://www.amazon.co.jp/Never-Let-Me-Kazuo-Ishiguro/dp/0571258093/ref=sr_1_1?__mk_ja_JP=カタカナ&crd=9DXWGMZ48OZB&keywords=Never+Let+me+Go&qid=1670693097&srefix=%2Caps%2C585&sr=8-1)）必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00～14:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（以下は本科目全体でカバーするおおよそのテーマの目安であり、各回の授業では、これらの問題のいくつかを翻訳作業の実践を通じて考えることとなります）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．イントロダクション～異文化理解と翻訳</li> <li>2．翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</li> <li>3．コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</li> <li>4．コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</li> <li>5．英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</li> <li>6．英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</li> <li>7．異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</li> <li>8．異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</li> <li>9．異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</li> <li>10．異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</li> <li>11．言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</li> <li>12．言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</li> <li>13．翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を</li> </ol>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

探る

14. 翻訳の限界と可能性(2): ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

15. まとめとディスカッション: 翻訳にまつわる諸問題について受講者全員でディスカッションを行う

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』(Penguin) ISBN: 978-0241954300

### [授業外学修(予習・復習)等]

各回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメール等で提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

\* 本年度の授業で取り上げるテキストの多くは一昨年度(2021年度)後期に扱ったものと同じになりますのでご注意ください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系73

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀アメリカ文学における祝祭や儀式の表象 Truman Capoteの短編を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、Truman Capoteの短編におけるさまざまな祝祭や儀式の表象を通じて、アメリカ文化の諸相を探る。誕生日、クリスマス、感謝祭、葬儀といった祝祭や儀式が開催される場において、いかなる他者との相互交流の可能性が有り得るのかについて考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>注意：テキストはあくまでも暫定的なものである。必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】 Truman Capoteと祝祭と儀式          第2回：A Christmas Memoryを読む          第3回：One Christmasを読む          第4回：The Thanksgiving Visitorを読む          第5回：Children on Their Birthdaysを読む（1）          第6回：Children on Their Birthdaysを読む（2）          第7回：A Tree of Nightを読む          第8回：【異文化体験についてのプレゼンテーション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べる          第9回：A Diamond Guitarを読む          第10回：Hospitalityを読む          第11回：A Beautiful Childを読む          第12回：A Mink of One's Ownを読む          第13回：The Headless Hawkを読む          第14回：レポートワークショップ          第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代アメリカ文学を包括的に理解する</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

基本的にテキストはウェブにアップロードする  
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

### 【授業外学修（予習・復習）等】

事前に扱う作品を読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系74

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の											
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く											



## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の											
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### (その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系76

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ女性詩人の作品を読む									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、第二波フェミニズム運動期のアメリカ女性詩人たちの作品・評論を読み、フェミニズムの基本用語や概念、また共有された問題意識についての理解を深めることにある。同時に、詩作品の翻訳作業を通じて、知識だけではなく、詩人の息づかいや声を感じ取ることを目指す。											
【到達目標】											
アメリカ女性詩人たちの作品を読むことで、「シスターフッド」「母性」「ルッキズム批判」「ブラックフェミニズム」などの第二波フェミニズム期における論点や動向を理解する。											
【授業計画と内容】											
1.Introduction 2.Sylvia Plath 3.Sylvia Plath 4.Adrienne Rich 5.Adrienne Rich 6.Adrienne Rich 7.Robin Morgan 8.Robin Morgan 9.Audre Lord 10.Audre Lord 11.Anne Sexton 12.Anne Sexton 13.Margaret Atwood 14.Margaret Atwood 15.Review											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
初回授業でプリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

教員の連絡先は以下の通り。n\_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系77

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀アメリカ小説研究 Edgar Allan Poeを読む									
【授業の概要・目的】											
Edgar Allan Poe (1809-49) の短篇小説および先行研究・批評等の関連資料を読む。「死」や「恐怖」、「埋葬」、「分身」などのゴシック的なテーマを持つ“The Fall of the House of Usher”(1839)、“William Wilson”(1839)、“The Masque of the Red Death”(1842)、“The Black Cat”(1843)のほか、史上初の推理小説とも呼ばれる“The Murders in the Rue Morgue”(1841)を扱う予定。毎回の授業では、作者の伝記や19世紀アメリカン・ルネサンス期の文学史・文化史的事象に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに課題範囲を演習形式で講読する。											
【到達目標】											
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回 “The Masque of the Red Death”(1)											
第3回 “The Masque of the Red Death”(2)											
第4回 “The Fall of the House of Usher”(1)											
第5回 “The Fall of the House of Usher”(2)											
第6回 “The Fall of the House of Usher”(3)											
第7回 “William Wilson”(1)											
第8回 “William Wilson”(2)											
第9回 “William Wilson”(3)											
第10回 “The Murders in the Rue Morgue”(1)											
第11回 “The Murders in the Rue Morgue”(2)											
第12回 “The Murders in the Rue Morgue”(3)											
第13回 “The Black Cat”(1)											
第14回 “The Black Cat”(2)											
第15回 授業のまとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural theory』（Manchester UP, 2017）  
三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

### [授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系78

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov _Laughter in the Dark_ 研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説 _Laughter in the Dark_ (1938)を精読する。1933年に出版されたロシア語小説 _Kamera Obscura_ の英語版というよりは、Nabokovによる実質上最初の英語小説といっても過言ではないこの小説を精読することにより、英語作家Nabokovの技巧やテーマ、そして彼の芸術観について理解する。											
【到達目標】											
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回 Chapter 1-2 輪読											
第3回 Chapter 3-4 輪読											
第4回 Chapter 5-7 輪読											
第5回 Chapter 8-10 輪読											
第6回 Chapter 11-13 輪読											
第7回 Chapter 14-16 輪読											
第8回 Chapter 17-19 輪読											
第9回 Chapter 20-21 輪読											
第10回 Chapter 22-24 輪読											
第11回 Chapter 25-27 輪読											
第12回 Chapter 28-30 輪読											
第13回 Chapter 31-33 輪読											
第14回 Chapter 34- 輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。  
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。  
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

### 【教科書】

Vladimir Nabokov 『Laughter in the Dark』 ( Penguin, 2001 ) ISBN:9780141186528

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

一回の授業で、できれば2章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。  
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系79

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Short Stories Onscreen									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、映画化されたアメリカ短編小説を4作を講読します。</p> <p>文字メディアも映像メディアも物語伝達の形式として互いに影響を与えあってきましたが、その表現手法や受容プロセスは大きく違います。また、長編小説の映画化は物語の圧縮を伴いますが、短編小説の映画化にはまた別の創意工夫が必要とされます。</p> <p>受講生は短編小説、もしくはその映像アダプテーションについて発表をし、期末に短い論文を提出します。授業中に映画の一部を上映しますが、受講生は残りを各自視聴しておくことが求められます。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 英語短編小説を原文で読みその内容を的確に理解できる。</p> <p>(2) 個々の英語短編小説について作品の特徴を指摘し、口頭や文章で言語化できる。</p> <p>(3) 文字メディアと映像メディアの物語形式の違いやアダプテーションの理論について興味をもって考察できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 アメリカの短編小説と映像アダプテーションについて</p> <p>第2~13回 短編(1)から(3)について講読・発表・映像作品との比較</p> <p>第14回 期末小論文提出</p> <p>第15回 課題へのフィードバック・ふりかえり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>到達目標の(1)~(3)の達成度について、以下の割合で評価する。</p> <p>授業参加20%</p> <p>発表30%</p> <p>期末小論文50%</p> <p>発表と小論文については授業で説明する。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

KULASISより短編を配布します。映画上映については授業中に説明します。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

事前に短編を読んでおくこと。また、映画全体を見ておくことが求められます。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む									
[授業の概要・目的]											
ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げる。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。											
[到達目標]											
丁寧に辞書を引ながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明 ディケンズについて 第2回 Great Expectations Chapter 1, 2 書き出しについて 第3回 Great Expectations Chapter 3, 4 語りについて(1) 第4回 Great Expectations Chapter 5 時の設定について 第5回 Great Expectations Chapter 6, 7 登場人物について 第6回 Great Expectations Chapter 8、場所の設定について 第7回 Great Expectations Chapter 9, 10 主人公について 第8回 Great Expectations Chapter 11 階級について 第9回 Great Expectations Chapter 12, 13 時代背景について 第10回 Great Expectations Chapter 14, 15 Intertextualityについて 第11回 Great Expectations Chapter 16, 17 風景について 第12回 Great Expectations Chapter 18, 19 言語について 第13回 Great Expectations Chapter 20, 21 都市の描写について 第14回 Great Expectations Chapter 22 語りについて(2) 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（各回のコメントペーパー）：50%  
期末レポート：50%

**[教科書]**

Charles Dickens 『Great Expectations』 ( Penguin ) ISBN:9780141439563

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げ、前期に読んだ範囲の続きを読む(後期のみの受講も可能)。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>丁寧に辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。          小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。          小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション(授業の進め方の説明、ディケンズについて、Great Expectations Chapter 1~31までのあらすじ)</p> <p>第2回 Great Expectations Chapter 32, 33 家庭について</p> <p>第3回 Great Expectations Chapter 34, 35 天気について</p> <p>第4回 Great Expectations Chapter 36, 37 subplotについて</p> <p>第5回 Great Expectations Chapter 38 教育について</p> <p>第6回 Great Expectations Chapter 39、謎の解明について</p> <p>第7回 Great Expectations Chapter 40、犯罪について</p> <p>第8回 Great Expectations Chapter 41, 42 階級について</p> <p>第9回 Great Expectations Chapter 43, 44 演劇性について</p> <p>第10回 Great Expectations Chapter 45, 46 サスペンスについて</p> <p>第11回 Great Expectations Chapter 47, 48 書き出しの再考</p> <p>第12回 Great Expectations Chapter 49, 50 死について</p> <p>第13回 Great Expectations Chapter 51, 52, 53、alter egoについて</p> <p>第14回 Great Expectations Chapter 54~59 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（各回のコメントペーパー）：50%  
期末レポート：50%

**[教科書]**

Charles Dickens 『Great Expectations』（Penguin）ISBN:9780141439563

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 1: Language and Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce students to the core concepts and key debates within the discipline of sociolinguistics, which is concerned with the multitudinous ways in which language and society may influence one another. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
【到達目標】											
<p>This course will introduce students to the field of sociolinguistics by means of a series of class discussions touching on key questions and issues in the field, for example the matters of regional and social dialects and how social status can be reflected and reinforced through language. In terms of English language skills, the primary focus will be on the development of academic reading and writing skills. Students will also be able to expand their vocabulary range in order to discuss a variety of topics related to linguistics and gain a better understanding of the complex interrelationship between languages and the societies in which they are used.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for quizzes and for the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 3 - Class discussion of Fromkin et al. (lexical and syntactic variation)          Week 4 - Class discussion of Fromkin et al. (standardisation of dialects)          Week 5 - Quiz, class discussion of Fromkin et al. (social dialects)          Week 6 - Class discussion of Fromkin et al. (gendered language)          Week 7 - Class discussion of Fromkin et al. (pidgins and creoles)          Week 8 - Test          Week 9 - Class discussion of Fromkin et al. (individual and social bilingualism)          Week 10 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 11 - Class discussion of Fromkin et al. (accommodating dialectal differences)          Week 12 - Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (dialectal diversity)          Week 13 - Final essay due, Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (languages)</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 14 - Class presentations on essay research  
Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%  
Quiz: 10%  
Test: 30%  
Essay: 40%  
Presentation: 10%

### 【教科書】

The instructor will provide all the necessary materials for this course, so there is no need for students to buy a textbook. However, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### （その他（オフィスアワー等））

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 2: English in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>This course will introduce students to the notion of English as a global language and also to the academic debates surrounding the dominant role that the language has come to assume across a wide range of international arenas. Topics of discussion will include what it means to be a global language, the history of the spread and diversification of the English language across the world and the future prospects of English as a global language. Throughout the course, students will be encouraged to develop and share their own opinions about the role of English both in Japan and in the wider world today. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
[到達目標]											
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today and of the social, cultural, and historical contexts that have shaped its development over past centuries. Group discussions and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the substantial amount of reading required for each class will help to improve reading speed and to expand academic and practical vocabulary. Academic research and writing skills in particular will be further developed through an essay assignment.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Students will be given weekly reading assignments from the prescribed text to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for the class quiz and the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a class quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Crystal chapter 1 (What is a global language?)          Week 3 - Class discussion of Crystal chapter 1 (advantages and disadvantages of a global language)          Week 4 - Class discussion of Crystal chapter 2 (Kachru's three circles)          Week 5 - Quiz, class discussion of Crystal chapter 3 (English and the British Empire)          Week 6 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English and the globalisation of culture)          Week 7 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English in the media)</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

---

Week 8 - Test

Week 9 - Class discussion of Crystal chapter 5 (English in the United States)

Week 10 - Class discussion of Crystal chapter 5 (Global “ Englishes ” )

Week 11 - Class discussion of Crystal chapter 5 (the future of English)

Week 12 - Class discussion on English in Japan (foreign language education in the school system)

Week 13 - Final essay due, Class discussion on English in Japan (the role of English in Japan)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### [教科書]

Crystal, David 『English as a Global Language』 ( Cambridge University Press ) ISBN:1107611806 ( 2nd edition )

Note: Students should ensure that they have the full English edition of the text. There also exists an abridged Japanese-English bilingual edition. However, this bilingual edition does NOT contain all the necessary content for this course. In addition to purchasing the prescribed text, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

### [参考書等]

( 参考書 )

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

---

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学(特殊講義)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		W.B.イエイツの詩集The Wild Swans at Cooleを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>The Wild Swans at Cooleは、アイルランドの詩人W. B. イエイツ(1865-1939)が1917年(改訂版は1919年)に発表した詩集であり、初期の幻想的な作風を脱し、円熟期を迎えた詩人の珠玉の作品が収められている。作品が書かれた1910年代は、第一次世界大戦、アイルランドにおけるナショナリストの蜂起など、社会的動乱が続いた。一方、私生活においては、1917年、彼は長年の報われない愛に終止符を打ち、結婚という転機を迎える。また、この頃の作品には、アメリカ出身の詩人エズラ・パウンドの影響を受け、技巧面において実験精神が見られることも特筆すべきであろう。本講義では、このようなコンテクストを理解したうえで、個々の作品を精読する。</p> <p>授業の前半では、イエイツの詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の訳の発表とディスカッションを行う。後半では、作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などを教員が解説する。さらに、英詩を読むために必要な知識の導入や他の詩人の作品との比較などを併せて行うことで、作品への多角的なアプローチを図る。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の精読と翻訳を通じて、詩を読む力を錬成する。</li> <li>2. 作品についての口頭発表やディスカッションを通じて、詩を論じる力を身に付ける。</li> <li>3. 作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などをふまえて作品を考察することができる。</li> <li>4. 英詩を読解するために必要な知識を身に付ける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：W.B.イエイツについて、および作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第3回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第4回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第5回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第6回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第7回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第8回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第9回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第10回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第11回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第12回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第13回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

第14回 まとめ  
第15回 フィードバック

授業計画は、状況によって変更することがあります。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

### 【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する  
授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一篇、あるいは二編の詩を扱う予定です。  
担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。  
担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学総合文化研究科 教授 石原 剛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日米比較児童文学研究 マーク・トウェインを中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>明治以降今日まで、日本人がいかなる紆余曲折を経ながらアメリカの国民的作家マーク・トウェインを受容してきたか検討する。トウェイン文学は、アメリカに特徴的な広大な空間、アメリカが抱えてきた人種の問題、アメリカ独特の言葉や言い回しなど、背景となるアメリカ文化と密接につながっている。従って、アメリカと文化様式や伝統を異にする日本人にとっては、作品のエッセンスを十分に理解することが難しかった。その結果、日本人にとって受け入れやすい側面のみが強調されたり、日本人が理解しやすいよう内容を改変するといったことが頻繁に行われた。そういった、日本人によるトウェイン文学の削除や強調、改変をみていくことは、即ち日米の文学や文化の伝統や特徴の相違そのものを検討していくことに他ならない。従って、本授業の講義部分では、特に日本の文学や文化の伝統、さらに同時代の日本の社会状況や大衆文化などに目を配りつつ、日本版のトウェイン作品が同時代の文化・社会状況をいかに反映しているのか、原作との比較を交えながら検討していく。そうすることで、同時に、日米文学・文化の相違や、日本の児童文学・文化の功罪をも考えていく。マーク・トウェインの日本受容を検討することで、最終的には、今日のアメリカ文化のグローバルゼーションについて考える際のヒントや視点を提供できればと考えている。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mark Twain文学について深く考えることで、アメリカ文学の特質をも理解する。</li> <li>2. 比較文学研究の実例を示すことで、その手法と理論的枠組みを理解する。</li> <li>3. アメリカ文化のグローバルゼーションが孕む問題を理解する。</li> <li>4. 外国文学を受容するとはいかなる営為の下でなされるものか理解する。</li> <li>5. 外国文学の翻訳・翻案とはいかなる営みであるか理解する。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。											
1日目											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回、2回：明治期のトウェインと日本(講義)</li> <li>・ 3回、4回：受講生による発表&amp;ディスカッション(演習)</li> </ul>											
2日目											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5回、6回：大正期の児童文学とトウェイン(講義)</li> <li>・ 7回、8回：受講生による発表&amp;ディスカッション(演習)</li> </ul>											
< 中日 > 休憩日											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 3日目

- ・ 9回、10回：戦時下のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 11回、12回：受講生による発表&ディスカッション(演習)

### 4日目

- ・ 13回、14回：戦後占領期のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 15回：授業内容全体に関する総括&ディスカッション

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

発表(40%)、翻訳比較に関するレポート(40%)、授業での質疑応答(20%)で総合的に評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

受講までに以下の課題について調査をして、30~40分程度で調査内容を授業内に発表できるように準備しておいてください。レジュメはB4で1枚程度(裏表使用可)を目安にしてください。レジュメの様式は自由ですが、発表タイトルとお名前、そして使用した文献は必ずレジュメに記載するようにしてください。発表の担当日と時限は、出来る限り授業開始前に決定して、お知らせします。

テーマ：同じ原作(アメリカ文学作品)を訳した異なる翻訳を読み比べ、その翻訳の違いについて考察してください。

【注意事項】原作はアメリカ文学作品に限定します。訳文を検討する際は、必ず英語原文も参照してください。同じ原作なのになぜ訳文が異なるのか、理由なども考えながら、考察してください。(「異なる原作」の翻訳を比較するという意味ではありません。例えば、ポーの「黒猫」の翻訳とポーの「アッシャー家の崩壊」の翻訳の比較という意味ではありません。)マーク・トウェインの作品については授業で集中的に扱うので、トウェイン以外のアメリカ文学作品を選択してください。

質問があれば、連絡先メールアドレスまでご連絡ください。

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く



英語学英文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。メールアドレスは、ishihara@g.ecc.u-tokyo.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		Introduction to (historical) pragmatics									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、客員教授のJoanna Kopaczyk先生(グラスゴー大学)と家入が共同で担当します。前半部(英語による授業)をKopaczyk先生が担当し、後半部(日本語による授業)を家入が担当する予定ですが、COVID-19の感染状況によりKopaczyk先生の来日が難しい場合など、内容や使用言語等が変更になる可能性があります。</p> <p>Pragmatics is the study of language use in context, developed in the mid-20th century to answer questions such as how we do things with words, how we create and interpret implied meanings, or why we use different linguistic strategies when talking to a friend vs a superior. Historical pragmatics, which started with a seminal collection of studies in Jucker (1995), asks similar questions regarding communication during various historical periods.</p> <p>This course will introduce students to pragmatics and related theoretical and analytical frameworks, including Speech Act Theory, the Cooperative Principle, Grice's Maxims, implicatures and presuppositions, as well as Politeness and Impoliteness Theories. We will use these analytical tools to gain a better understanding of how meaning is created in context and how it is interpreted. The second part of the course will extend these insights to historical contexts. We will look at how people addressed each other in medieval and early modern England, how language reflected social order, and how to track language change from a pragmatic perspective. The course will draw on textbook examples and corpus data (e.g. from the English-corpora suite), while students will be encouraged to come up with real-life examples of language use in context to illustrate pragmatic phenomena, also in an intercultural perspective.</p>											
【到達目標】											
<p>The course will equip the students with a thorough understanding of the field of linguistic pragmatics, both from a present-day and a historical perspective. The students will learn how to use relevant methods and tools to analyse real-life examples of language use in context. They will be introduced to various historical contexts to gain insights into language use of the past. At the end of the course the students will be able to give examples and recognise various speech acts, applications and violations of Grice's maxims, as well as politeness and impoliteness strategies. They will also be applied to the notion of face to linguistic interactions. The students will be able to draw on a range of electronic and traditional sources and present conclusions in class discussion and in written form.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to (historical) pragmatics #8211 course overview (Clark 2021, Ch1)</li> <li>2. Implicature and Gricean Maxims (Clark 2021, Ch2)</li> <li>3. Presupposition (Griffiths 2017, Ch8, 8.4 + exercises)</li> <li>4. Speech acts #8211 doing things with words (Griffiths 2017, Ch11)</li> <li>5. Politeness and face (Clark 2021, Ch5)</li> <li>6. Understanding impoliteness I (Culpeper 2011, Ch0 and Ch1)</li> </ol>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

7. Understanding impoliteness II (Culpeper 2011, Ch2)
8. Historical pragmatics: methods and data (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch1-Ch2)
9. Working with corpora to access pragmatic phenomena (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch3)
10. Alas! Discourse markers and interjections (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch4)
11. Thou Traitor! Terms of address ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch5)
12. Historical speech acts (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch6)
13. Historical politeness and impoliteness ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch7)
14. Grammaticalisation and pragmaticalisation ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch8)
15. Wrapping up and essay discussion

### [履修要件]

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

### [成績評価の方法・観点]

attendance/class contribution 40%  
essay 60%

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

- Jucker, Andreas H. and Irma Taavitsainen 『English historical pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2013)
- Clark, Billy 『Pragmatics: The Basics』 (Routledge, 2021)
- Culpeper, Jonathan 『Impoliteness. Using language to cause offence』 (CUP, 2011)
- Griffiths, Patrick 『An introduction to English semantics and pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2017)
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson 『Politeness. Some universals in language usage』 (CUP, 1987)
- Chapman, Siobhan 『Pragmatics』 (Palgrave Macmillan, 2011)
- Culpeper, Jonathan and Michael Haugh 『Pragmatics and the English language』 (Palgrave Macmillan, 2014)
- Cutting, Joan and Kenneth Fordyce 『Pragmatics: A resource book for students』 (Routledge, 2020)
- Grundy, Peter 『Doing pragmatics』 (Routledge, 2019)
- Jucker, Andreas (ed.) 『Historical pragmatics. Pragmatic developments in the history of English』 (John Benjamins, 1995)
- Levinson, Stephen C. 『Pragmatics』 (CUP, 1983)
- Paquot, Magali and Stephan T. Gries (eds.) 『A practical handbook of corpus linguistics』 (Springer, 2020)

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学(特殊講義)(3)

( 関連URL )

<https://varieng.helsinki.fi/CoRD/index.html>(Corpus Resource Database (CoRD))

<https://www.english-corpora.org/corpora.asp>(English-Corpora.org)

[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

Assigned reading

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

本授業の前半はJoanna Kopaczyk先生 (グラスゴー大学)がご担当になりますが、授業担当者の家入が補助をいたします。必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語の多様性へのアプローチ									
【授業の概要・目的】											
Laurel J. Brinton (編) のEnglish Historical Linguistics: Approaches and Perspectives (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Laurel J. Brinton (編) のEnglish Historical Linguistics: Approaches and Perspectivesの中から指定する章を講読し、言語を变化の視点から観察する力を養い、言語变化全般への理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション											
第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1)											
第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2)											
第4回： 文法化と語彙化の視点から(1)											
第5回： 文法化と語彙化の視点から(2)											
第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1)											
第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2)											
第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1)											
第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2)											
第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1)											
第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2)											
第12回： 英語の標準化と規範文法											
第13回： 英語の地域性											
第14回： 言語接触と英語											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業(1回程度)を行うことがあります。</p>											
【履修要件】											
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Joanna Kopaczyk)、特殊講義(Michael Hofmeyr)も提供(予定)しています。特殊講義(家入葉子・Joanna Kopaczyk)では、歴史語用論をメインテーマとします。Hofmeyr先生の特殊講義はアカデミックライティングの授業ですが、英語の多様性に関する題材を扱う予定とのことです。本授業と合											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

わせて受講すると、より理解が深まるものと思われます。要件ではありませんが、どうぞご検討ください。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

Laurel J. Brinton 『English Historical Linguistics: Approaches and Perspectives』（CUP）ISBN:978-1107113640

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英訳聖書の歴史									
【授業の概要・目的】											
Wyclif (1380)、Tyndale (1534)、Authorized Version (1611)などの異なる英訳聖書を比較検討しながら、語彙の変化、語法の変化等を詳細に議論します。扱う範囲は広いですが、日本語訳聖書なども参考にしながらゆっくりと授業を進める予定です。また、関連の論文等も読みながら、英語史研究の方法全般についても学びます。											
【到達目標】											
時代の異なる英訳聖書を比較検討することで、英語を言語変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法など											
第2回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の発音											
第3回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語についての全般的な注意事項											
第4回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の語順											
第7回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の名詞・形容詞											
第8回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の代名詞全般											
第9回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の前置詞											
第12回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の副詞											
第13回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の助動詞											
第14回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業(1回程度)を行うことがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

橋本功 『聖書の英語 旧約原典からみた』（英潮社）

T. Nevalainen 『An Introduction to Early Modern English』（Edinburgh University Press）

京都大学図書館機構が提供するThe Bible in English（データベース）も利用します。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

英訳聖書の講読の他、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		James Joyce, Ulysses : 第4挿話精読									
【授業の概要・目的】											
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では本作の主人公がはじめて登場する第4挿話からスタートし(後期では第1~3挿話を扱う)、物語を精緻に読みながら、下記の項目に習熟することを目的とする。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英文学における修辭的技法の理解</li> <li>(2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解</li> <li>(3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法</li> <li>(4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法</li> </ul>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</li> <li>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</li> <li>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説及び『ユリシーズ』出版の経緯と、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。下記の授業計画では、底本として用いるGabler版のLine-numberに準拠して講義を進める。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 U4.1-40											
第3回 U4.41-80											
第4回 U4.81-119											
第5回 U4.120-160											
第6回 U4.161-200											
第7回 U4.201-240											
第8回 U4.241-280											
第9回 U4.281-320											
第10回 U4.321-60											
第11回 U4.361-400											
第12回 U4.401-440											
第13回 U4.441-480											
第14回 U4.481-531											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

第15回 まとめ・質疑応答

**【履修要件】**

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

**【成績評価の方法・観点】**

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

**【教科書】**

授業中に指示する

**【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		James Joyce, Ulysses : 第1~3挿話精読									
【授業の概要・目的】											
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では本作の主人公がはじめて登場する第1~3挿話を扱い、下記の項目に習熟することを目的とする。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英文学における修辭的技法の理解</li> <li>(2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解</li> <li>(3) 文学テキストの精読 (close-reading) の方法</li> <li>(4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法</li> </ul>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</li> <li>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</li> <li>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説及び『ユリシーズ』出版の経緯と、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。下記の授業計画では、底本として用いるGabler版のLine-numberに準拠して講義を進める。</p> <p>第2回 U1.1-200  第3回 U1.201-400  第4回 U1.401-743  第5回 U2.1-100  第6回 U2.101-200  第7回 U4.201-300  第8回 U4.301-450  第9回 U3.1-100  第10回 U3.101-200  第11回 U3.201-300  第12回 U3.301-400  第13回 U3.401-505  第14回 まとめ  第15回 質疑応答</p>											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### [履修要件]

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		To Kill a Mockingbirdを読む(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>到達目標：ピューリツァー賞受賞作家Harper Leeのベストセラー小説To Kill a Mockingbirdを一年かけて完読する。本作は米国の人種問題を扱うものだが、比較的平易な英語で書かれているため、原書として読む最初の一冊にふさわしい。また、米国南部の田舎町独特の雰囲気も堪能できるのも良い。本作を通じて、アメリカ小説の傾向を把握し、英文解釈能力の向上を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品To Kill a Mockingbirdを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: 作者紹介および米国南部の地域性について</p> <p>第2回：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>第3回：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>第4回：To Kill a Mockingbirdを読む(3)</p> <p>第5回：To Kill a Mockingbirdを読む(4)</p> <p>第6回：To Kill a Mockingbirdを読む(5)</p> <p>第7回：To Kill a Mockingbirdを読む(6)</p> <p>第8回：To Kill a Mockingbirdを読む(7)</p> <p>第9回：To Kill a Mockingbirdを読む(8)</p> <p>第10回：To Kill a Mockingbirdを読む(9)</p> <p>第11回：To Kill a Mockingbirdを読む(10)</p> <p>第12回：To Kill a Mockingbirdを読む(11)</p> <p>第13回：To Kill a Mockingbirdを読む(12)</p> <p>第14回：To Kill a Mockingbirdを読む(13)</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする。</p>											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

する(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。期末レポートはTo Kill a Mockingbirdを論  
じること。

[教科書]

Lee, Harper 『To Kill a Mockingbird』 ( Harper Perennial, Modern Classics ) ISBN:0060935464 ( 授業中、  
常時参照するのでかならずこの版を購入すること )

[参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない(毎回およそ15ページほどの  
分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式について  
は初回授業で説明する。

( その他(オフィスアワー等) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系92

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		To Kill a Mockingbirdを読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>到達目標：ピューリツァー賞受賞作家Harper Leeのベストセラー小説To Kill a Mockingbirdを一年かけて完読する。本作は米国の人種問題を扱うものだが、比較的平易な英語で書かれているため、原書として読む最初の一冊にふさわしい。また、米国南部の田舎町独特の雰囲気が堪能できるのも良い。</p> <p>なお、本授業は前期の演習Iと同じテキストを扱うため、初回授業までに第1章から第13章まであらかじめ目を通しておくことが望ましい(日本語訳でもOK)。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品To Kill a Mockingbirdを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: 作者紹介および米国南部の地域性について</p> <p>第2回：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>第3回：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>第4回：To Kill a Mockingbirdを読む(3)</p> <p>第5回：To Kill a Mockingbirdを読む(4)</p> <p>第6回：To Kill a Mockingbirdを読む(5)</p> <p>第7回：To Kill a Mockingbirdを読む(6)</p> <p>第8回：To Kill a Mockingbirdを読む(7)</p> <p>第9回：To Kill a Mockingbirdを読む(8)</p> <p>第10回：To Kill a Mockingbirdを読む(9)</p> <p>第11回：To Kill a Mockingbirdを読む(10)</p> <p>第12回：To Kill a Mockingbirdを読む(11)</p> <p>第13回：To Kill a Mockingbirdを読む(12)</p> <p>第14回：To Kill a Mockingbirdを読む(13)</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### 【履修要件】

後期からの受講を歓迎します。その際は、初回授業までに、あらかじめ日本語訳でも良いので第1章から第13章まで読んでおくことをおすすめします。

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはTo Kill a Mockingbirdについて論じること。

### 【教科書】

Lee, Harper 『To Kill a Mockingbird』（Harper Perennial, Modern Classics）ISBN:0060935464（授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系93

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代英詩講読									
【授業の概要・目的】											
Seamus Heaney, <i>Death of a Naturalist</i> に収録された詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。</li> <li>・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 現代英国・アイルランドの詩について概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 本詩集に収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一遍を読み進めることを目指す。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
【教科書】											
Seamus Heaney 『 <i>Death of a Naturalist</i> 』 (Faber, & Faber, 2006) ISBN:978-0571230839											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予め辞書（特に英英辞典）を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Ian McEwan, Machines Like Me (2019) 購読 2									
【授業の概要・目的】											
<p>Ian McEwan, Machines Like Me (2019) の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。本作に登場するAIを搭載した「アダム」は人間的な外観と高度的な知的学習機能を持ち、文学的趣味を涵養することができるばかりか、人間と性的関係をもつこともできる人型ロボットである。人間や動物の生活空間のなかに応答機能や知能をもった機械が同居するようになった今、同小説は大きなアクチュアリティをもつ。本講義では、人工知能を搭載した機械の知覚と内受容感覚を模した語りの仕掛けに着眼しつつ、近年興隆している感情史の文脈からAIと共生する世界の問題を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2回 pp.1-25</p> <p>第3回 pp.26-50</p> <p>第4回 pp.51-75</p> <p>第5回 pp.76-100</p> <p>第6回 pp.101-125</p> <p>第7回 pp.126-150</p> <p>第8回 pp.151-175</p> <p>第9回 pp.176-200</p> <p>第10回 pp.201-225</p> <p>第11回 pp.226-250</p> <p>第12回 pp.251-275</p> <p>第13回 pp.275-300</p> <p>第14回 pp.301-306</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Alice Munroの短篇小説を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>20世紀後半～現在の北米文学の主要作家の一人であるカナダの短篇小説家Alice Munro (1931-)の短篇作品を読む。</p> <p>授業は精読(訳読)と発表形式を組み合わせる。1作品につき3～4回の授業をあて、半期で4作ほどの短篇を読む予定。精読の回は、テキストを丁寧に訳読しながら、解釈等の細かな点について話し合う。各作品、これを数回行ったのち、最後の1回は作品全体について輪番制で数人の受講者に発表をしてもらい、それをもとに参加者全員で話し合う。</p> <p>学期末には、授業で読んだいずれかの作品について、各自の視点からテーマを絞って論じるレポートを提出してもらう。</p>											
[到達目標]											
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：作品 (精読)</p> <p>第3回：作品 (精読)</p> <p>第4回：作品 (精読)</p> <p>第5回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第6回：作品 (精読)</p> <p>第7回：作品 (精読)</p> <p>第8回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第9回：作品 (精読)</p> <p>第10回：作品 (精読)</p> <p>第11回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第12回：作品 (精読)</p> <p>第13回：作品 (精読)</p> <p>第14回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

**【教科書】**

使用しない  
プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系96

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アメリカ女性作家の短編を読む									
【授業の概要・目的】											
本授業では19世紀から20世紀前半にかけての代表的な米国女性作家の短編を読む。取り上げる作品は、いずれも有名。本授業を通じて、アメリカ文学への興味を深めてほしい。											
【到達目標】											
米国女性作家たちの代表的短篇の講読を通じて、米文学の潮流を学ぶ 英語で書かれた小説の読解法を学ぶ											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Rebecca Harding Davis, "Life in the Iron-Mills" 講読(1) 第3回：Rebecca Harding Davis, "Life in the Iron-Mills" 講読(2) 第4回：Louisa May Alcott, "Transcendental Wild Oats" 講読 第5回：Sarah Orne Jewett "A White Heron" 講読 第6回：Mary E. Wilkins Freeman, "A New England Nun" 講読 第7回：Charlotte Perkins Gilman, "The Yellow Wall-Paper" 講読 第8回：Kate Chopin, "The Storm" 講読 第9回：Edith Wharton, "The Angel at the Grave" 講読 第10回：Willa Cather, "Paul's Case" 講読 第11回：Djuna Barnes, "Smoke" 講読 第12回：Zora Neale Hurston, "Sweat" 講読 第13回：Nella Larsen, "Sanctuary" 講読 第14回：レポートワークショップ 第15回：まとめ+フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当作品に関するもので、25分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
【教科書】											
Ward, Candace 『Great Short Stories by American Women (Dover Thrift Editions)』 (Dover Publications) ISBN:0486287769 (随時参照するので、必ずこの版を入手すること)											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎授業、全員参加のディスカッションを行うので、予習は必須である(毎回15ページほど読む予定)。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期は、John Milton (1608-74)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

#### （参考書）

F. T. Prince (ed.) 『Milton: Comus and other Poems』 (Oxford Univ. Press, 1968)  
岡村真紀子他(編) 『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』 (英宝社) ISBN:9784269060387、  
9784269060395、9784269060401  
小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系98

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
[授業の概要・目的]											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
[到達目標]											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>本年度後期は、Gerard Manley Hopkins(1844-89)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

#### （参考書）

Walford Davies (ed.) 『Gerard Manley Hopkins: The Major Poems』 (Everyman 's Library, 1979)  
岡村真紀子他(編) 『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』 (英宝社) ISBN:9784269060387、  
9784269060395、9784269060401  
小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Preserving History: Universities and Museums    Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.</p> <p>2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&amp;Blackwell, 2010), pp. 1-23.</p> <p>3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”</p> <p>4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.</p> <p>5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (<a href="http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A">http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A</a>).</p> <p>6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”</p> <p>7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples</p> <p>8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc">https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc</a>).</p> <p>9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan  
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions  
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)  
Written assignments (25%)  
Class presentations (30%)  
Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系100

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (<a href="http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P">http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P</a>).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, <a href="http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research">http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research</a>)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (<a href="https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses">https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses</a>); Kyoto Machiya Revitalization Project (<a href="http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/">http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/</a>).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.



英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系101

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as ‘ Orientalist ’ or ‘ Imagist ’ . The second wave, in the 1950's, were those written by the ‘ Beat ’ poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. At the end of the semester, students will write a critique report on their favourite English haiku from the ones featured in the course.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA</li> <li>3. Oriental translations</li> <li>4. Orientalism</li> <li>5. Imagism</li> <li>6. Western view of Zen</li> <li>7. Beat poets</li> <li>8. 1960s</li> <li>9. Haiku Society of America</li> <li>10. British Haiku Society</li> <li>11. World Haiku</li> <li>12. Haiku radio</li> <li>13. Haiku in other Western media</li> <li>14. Internet haiku (and critiqued anthology reports)</li> <li>15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports)</li> </ol>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in our class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and distributed in class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during or before the 14th week.

(その他(オフィスアワー等))

必要に応じて先生は日本語を話します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as ‘ Orientalist ’ or ‘ Imagist ’ . Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and links from last semester</li> <li>2. Japanese and English: linguistic differences</li> <li>3. pond frog plop!</li> <li>4. Lineation, translation workshop</li> <li>5. Break, image contrast (cf. famous poets ' work)</li> <li>6. Seasons in English Haiku I: spring</li> <li>7. Seasons in English Haiku II: summer</li> <li>8. Seasons in English Haiku III: autumn</li> <li>9. Creating an English haiku, composition workshop</li> <li>10. Seasons in English Haiku IV: winter</li> <li>11. Seasons in English Haiku V: all/no season</li> <li>12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku</li> <li>13. Haiku ‘ moment ’ and hints on researching examples</li> <li>14. Rensaku, rengay and report preparation/submission</li> <li>15. Haibun and report preparation/submission</li> </ol>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない  
Handouts will be provided by the teacher in every class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

必要に応じて先生は日本語も話します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系103

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(1)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。</li> <li>・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。</li> <li>・古ノルド語の初歩を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 英語史概説：印欧語、ゲルマン語としての英語											
第2-3回 古英語の基礎											
第4回 古ノルド語の基礎											
第5-8回 Anglo-Saxon Chronicle (抜粋) の講読											
第9-15回 Ohthere and Wulfstanの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%, レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7											
ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。</li> <li>・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。#160</li> </ul>											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(2)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。</li> <li>・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。</li> <li>・古ノルド語の初歩を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
後期は韻文テキストを読む。											
第1回 前期の復習 第2回 古英詩概説 第3-10回 The Battle of Maldonの講読 第11-15回 The Battle of Brunanburhの講読											
進み具合によっては新たなテキストを取り上げる。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%, レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7 ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。</li> <li>・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。#160</li> </ul>											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。#160											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系105

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史 I									
【授業の概要・目的】											
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。											
【到達目標】											
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義B）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く -----											



系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

毎授業後にメールにて提出するコメント（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

**[教科書]**

使用しない  
資料はプリントにて配布する。

**[参考書等]**

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系106

科目ナンバリング		U-LET19 13503 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史									
【授業の概要・目的】											
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。											
【到達目標】											
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義（Crane, Norris, Dreiserなど）</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩（Pound, Eliot, Steinなど）</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学（Wolfe, Steinbeck, Westなど）</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇（O'Neill, Williams, Millerなど）</p> <p>第10回：アフリカ系文学（Wright, Ellison, Morrisonなど）</p> <p>第11回：ユダヤ系文学（Bellow, Malamud, Rothなど）</p> <p>第12回：その他戦後文学（Nabokov, Updikeなど）</p> <p>第13回：ポストモダン（Barth, Pynchonなど）</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義A）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品（長篇小説）について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力および小説をおもしろく読む能力を評価する。</p>											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』 (南雲堂) ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』 (三修社) ISBN:9784384057485

竹内理矢・山本洋平編 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』 (ミネルヴァ書房) ISBN:9784623090778

**[授業外学修(予習・復習)等]**

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない(必要のある場合は授業中に指示する)。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（以下は本科目全体でカバーするおおよそのテーマの目安であり、各回の授業では、これらの問題のいくつかを翻訳作業の実践を通じて考えることとなります）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．イントロダクション～異文化理解と翻訳</li> <li>2．翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</li> <li>3．コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</li> <li>4．コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</li> <li>5．英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</li> <li>6．英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</li> <li>7．異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</li> <li>8．異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</li> <li>9．異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</li> <li>10．異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</li> <li>11．言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</li> <li>12．言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</li> <li>13．翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を</li> </ol>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

探る

14. 翻訳の限界と可能性(2): ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

15. まとめとディスカッション: 翻訳にまつわる諸問題について受講者全員でディスカッションを行う

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』(Penguin) ISBN: 978-0241954300

### [授業外学修(予習・復習)等]

各回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメール等で提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

\* 本年度の授業で取り上げるテキストの多くは一昨年度(2021年度)後期に扱ったものと同じになりますのでご注意ください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀アメリカ文学における祝祭や儀式の表象 Truman Capoteの短編を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、Truman Capoteの短編におけるさまざまな祝祭や儀式の表象を通じて、アメリカ文化の諸相を探る。誕生日、クリスマス、感謝祭、葬儀といった祝祭や儀式が開催される場において、いかなる他者との相互交流の可能性が有り得るのかについて考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>注意：テキストはあくまでも暫定的なものである。必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】Truman Capoteと祝祭と儀式  第2回：A Christmas Memoryを読む  第3回：One Christmasを読む  第4回：The Thanksgiving Visitorを読む  第5回：Children on Their Birthdaysを読む（1）  第6回：Children on Their Birthdaysを読む（2）  第7回：A Tree of Nightを読む  第8回：【異文化体験についてのプレゼンテーション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べる  第9回：A Diamond Guitarを読む  第10回：Hospitalityを読む  第11回：A Beautiful Childを読む  第12回：A Mink of One's Ownを読む  第13回：The Headless Hawkを読む  第14回：レポートワークショップ  第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代アメリカ文学を包括的に理解する</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

基本的にテキストはウェブにアップロードする  
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

### 【授業外学修（予習・復習）等】

事前に扱う作品を読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Paradise Lost, Book I 精読									
【授業の概要・目的】											
17世紀英文学を代表する詩人の一人であるJohn Miltonの代表作Paradise Lostの冒頭巻の精読を通じてその特徴を、イングランド宗教改革、内戦 - 共和制 - 王政復古という政治上の激動などの文脈において理解することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期近代の詩の読み方を身につける。</li> <li>・授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
授業では予め指定した担当に従って各受講者が解釈をし、該当箇所に関する問題提起をすることが求められる。											
一学期間の授業で扱えるのは長大な叙事詩の極一部にすぎないが、毎回扱う詩行は相当な分量になり、これをOxford English Dictionaryやその他の関連文献を参照しながら精読するためには多大な労力が求められる。											
なお教科書として指定したものの他にも本作品は複数出版されているので、学術的な注釈が付いているものであれば他の版を使用しても構わない。											
第1回 イン트로ダクション											
担当箇所を決定するので受講希望者は必ず出席すること											
Paradise Lost The Verse / Book I The Argument											
第2回 Paradise Lost Book I 1-67行											
第3回 同 67-131											
第4回 同 132-202											
第5回 同 203-270											
第6回 同 271-330											
第7回 同 331-391											
第8回 同 392-461											
第9回 同 462-530											
第10回 同 531-594											
第11回 同 594-669											
第12回 同 670-737											
第13回 同 738-798											
第14回 全体のまとめ											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 第15回 フィードバック

各行の難易度また担当者の習熟度に応じて進度には多少の変更の可能性はある。

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点】

担当箇所の口頭発表 80%、その他授業への貢献 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

#### 【教科書】

John Milton 『Paradise Lost』 ( W. W. Norton & Company, 2020 ) ISBN:978-0393617085 ( Norton Critical Edition, ed. Gordon Teskey )

#### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

#### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

毎回Oxford English Dictionaryなどを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、巻全体の理解に努めること。

#### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)を読む									
【授業の概要・目的】											
Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。同作はIshiguroによるブッカー賞最終候補作であり、マーク・ロマネク監督によって優れた映画化もなされている。情報や事実、記憶が抑制的に語られ、徐々に明らかにされていく筆致と展開を通じて、受講者はわかりやすい言葉、明晰な論理、筋の通ったロジックを疑う契機をつくりだし、文学テキストでこそ表現可能になる未明の言葉の領域を体感してもらいたい。											
【到達目標】											
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。半期で物語すべて(ペーパーバック版で282頁)を読み終える予定であるため、一周につき20-30ページほどの英文読解が課題となる。											
第2回 pp.3-24 第3回 pp.25-48 第4回 pp.49-75 第5回 pp.76-97 第6回 pp.98-109 第7回 pp.113-135 第8回 pp.136-154 第9回 pp.155-181 第10回 pp.182-199 第11回 pp.203-232 第12回 pp.233-251 第13回 pp.252-270 第14回 pp.271-282 第15回 まとめ+質疑応答											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

### 【教科書】

Kazuo Ishiguro 『Never Let me Go』（2010（Paperback版））ISBN:9780571258093（[https://www.amazon.co.jp/Never-Let-Me-Kazuo-Ishiguro/dp/0571258093/ref=sr\\_1\\_1?\\_\\_mk\\_ja\\_JP=カタカナ&crd=9DXWGMZ48OZB&keywords=Never+Let+me+Go&qid=1670693097&srefix=%2Caps%2C585&sr=8-1](https://www.amazon.co.jp/Never-Let-Me-Kazuo-Ishiguro/dp/0571258093/ref=sr_1_1?__mk_ja_JP=カタカナ&crd=9DXWGMZ48OZB&keywords=Never+Let+me+Go&qid=1670693097&srefix=%2Caps%2C585&sr=8-1)）必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系111

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ女性詩人の作品を読む									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、第二波フェミニズム運動期のアメリカ女性詩人たちの作品・評論を読み、フェミニズムの基本用語や概念、また共有された問題意識についての理解を深めることにある。同時に、詩作品の翻訳作業を通じて、知識だけではなく、詩人の息づかいや声を感じ取ることを目指す。											
【到達目標】											
アメリカ女性詩人たちの作品を読むことで、「シスターフッド」「母性」「ルッキズム批判」「ブラックフェミニズム」などの第二波フェミニズム期における論点や動向を理解する。											
【授業計画と内容】											
1.Introduction 2.Sylvia Plath 3.Sylvia Plath 4.Adrienne Rich 5.Adrienne Rich 6.Adrienne Rich 7.Robin Morgan 8.Robin Morgan 9.Audre Lord 10.Audre Lord 11.Anne Sexton 12.Anne Sexton 13.Margaret Atwood 14.Margaret Atwood 15.Review											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

使用しない  
初回授業でプリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n\_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀アメリカ小説研究 Edgar Allan Poeを読む									
【授業の概要・目的】											
Edgar Allan Poe (1809-49) の短篇小説および先行研究・批評等の関連資料を読む。「死」や「恐怖」、「埋葬」、「分身」などのゴシック的なテーマを持つ“The Fall of the House of Usher”(1839)、“William Wilson”(1839)、“The Masque of the Red Death”(1842)、“The Black Cat”(1843)のほか、史上初の推理小説とも呼ばれる“The Murders in the Rue Morgue”(1841)を扱う予定。毎回の授業では、作者の伝記や19世紀アメリカン・ルネサンス期の文学史・文化史的事象に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに課題範囲を演習形式で講読する。											
【到達目標】											
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN											
第2回 “The Masque of the Red Death”(1)											
第3回 “The Masque of the Red Death”(2)											
第4回 “The Fall of the House of Usher”(1)											
第5回 “The Fall of the House of Usher”(2)											
第6回 “The Fall of the House of Usher”(3)											
第7回 “William Wilson”(1)											
第8回 “William Wilson”(2)											
第9回 “William Wilson”(3)											
第10回 “The Murders in the Rue Morgue”(1)											
第11回 “The Murders in the Rue Morgue”(2)											
第12回 “The Murders in the Rue Morgue”(3)											
第13回 “The Black Cat”(1)											
第14回 “The Black Cat”(2)											
第15回 授業のまとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural theory』（Manchester UP, 2017）  
三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会い  
なおす』（フィルムアート社、2020）

### [授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系113

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov _Laughter in the Dark_ 研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説 _Laughter in the Dark_ (1938)を精読する。1933年に出版されたロシア語小説 _Kamera Obscura_ の英語版というよりは、Nabokovによる実質上最初の英語小説といっても過言ではないこの小説を精読することにより、英語作家Nabokovの技巧やテーマ、そして彼の芸術観について理解する。											
【到達目標】											
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回 Chapter 1-2 輪読											
第3回 Chapter 3-4 輪読											
第4回 Chapter 5-7 輪読											
第5回 Chapter 8-10 輪読											
第6回 Chapter 11-13 輪読											
第7回 Chapter 14-16 輪読											
第8回 Chapter 17-19 輪読											
第9回 Chapter 20-21 輪読											
第10回 Chapter 22-24 輪読											
第11回 Chapter 25-27 輪読											
第12回 Chapter 28-30 輪読											
第13回 Chapter 31-33 輪読											
第14回 Chapter 34- 輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。  
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。  
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

### 【教科書】

Vladimir Nabokov 『Laughter in the Dark』 ( Penguin, 2001 ) ISBN:9780141186528

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

一回の授業で、できれば2章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。  
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系114

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Short Stories Onscreen									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、映画化されたアメリカ短編小説を4作を講読します。          文字メディアも映像メディアも物語伝達の形式として互いに影響を与えあってきましたが、その表現手法や受容プロセスは大きく違います。また、長編小説の映画化は物語の圧縮を伴いますが、短編小説の映画化にはまた別の創意工夫が必要とされます。          受講生は短編小説、もしくはその映像アダプテーションについて発表をし、期末に短い論文を提出します。授業中に映画の一部を上映しますが、受講生は残りを各自視聴しておくことが求められます。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 英語短編小説を原文で読みその内容を的確に理解できる。          (2) 個々の英語短編小説について作品の特徴を指摘し、口頭や文章で言語化できる。          (3) 文字メディアと映像メディアの物語形式の違いやアダプテーションの理論について興味をもって考察できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 アメリカの短編小説と映像アダプテーションについて          第2~13回 短編(1)から(3)について講読・発表・映像作品との比較          第14回 期末小論文提出          第15回 課題へのフィードバック・ふりかえり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>到達目標の(1)~(3)の達成度について、以下の割合で評価する。</p> <p>授業参加20%          発表30%          期末小論文50%</p> <p>発表と小論文については授業で説明する。</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

KULASISより短編を配布します。映画上映については授業中に説明します。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に短編を読んでおくこと。また、映画全体を見ておくことが求められます。

### (その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻りに参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 語法文法研究とは          第2回 英文のデータベース構築          第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)          Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の          -----          アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く</p>											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む									
【授業の概要・目的】											
ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げる。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。											
【到達目標】											
丁寧に辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明 ディケンズについて 第2回 Great Expectations Chapter 1, 2 書き出しについて 第3回 Great Expectations Chapter 3, 4 語りについて(1) 第4回 Great Expectations Chapter 5 時の設定について 第5回 Great Expectations Chapter 6, 7 登場人物について 第6回 Great Expectations Chapter 8、場所の設定について 第7回 Great Expectations Chapter 9, 10 主人公について 第8回 Great Expectations Chapter 11 階級について 第9回 Great Expectations Chapter 12, 13 時代背景について 第10回 Great Expectations Chapter 14, 15 Intertextualityについて 第11回 Great Expectations Chapter 16, 17 風景について 第12回 Great Expectations Chapter 18, 19 言語について 第13回 Great Expectations Chapter 20, 21 都市の描写について 第14回 Great Expectations Chapter 22 語りについて(2) 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%  
期末レポート：50%

### [教科書]

Charles Dickens 『Great Expectations』 ( Penguin ) ISBN:9780141439563

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む(2)									
【授業の概要・目的】											
ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げ、前期に読んだ範囲の続きを読む(後期のみ受講も可能)。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。											
【到達目標】											
丁寧に辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション(授業の進め方の説明、ディケンズについて、Great Expectations Chapter 1~31までのあらすじ)											
第2回 Great Expectations Chapter 32, 33 家庭について											
第3回 Great Expectations Chapter 34, 35 天気について											
第4回 Great Expectations Chapter 36, 37 subplotについて											
第5回 Great Expectations Chapter 38 教育について											
第6回 Great Expectations Chapter 39、謎の解明について											
第7回 Great Expectations Chapter 40, 犯罪について											
第8回 Great Expectations Chapter 41, 42 階級について											
第9回 Great Expectations Chapter 43, 44 演劇性について											
第10回 Great Expectations Chapter 45, 46 サスペンスについて											
第11回 Great Expectations Chapter 47, 48 書き出しの再考											
第12回 Great Expectations Chapter 49, 50 死について											
第13回 Great Expectations Chapter 51, 52, 53、alter egoについて											
第14回 Great Expectations Chapter 54~59 まとめ											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%  
期末レポート：50%

### [教科書]

Charles Dickens 『Great Expectations』 ( Penguin ) ISBN:9780141439563

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 1: Language and Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce students to the core concepts and key debates within the discipline of sociolinguistics, which is concerned with the multitudinous ways in which language and society may influence one another. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
【到達目標】											
<p>This course will introduce students to the field of sociolinguistics by means of a series of class discussions touching on key questions and issues in the field, for example the matters of regional and social dialects and how social status can be reflected and reinforced through language. In terms of English language skills, the primary focus will be on the development of academic reading and writing skills. Students will also be able to expand their vocabulary range in order to discuss a variety of topics related to linguistics and gain a better understanding of the complex interrelationship between languages and the societies in which they are used.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for quizzes and for the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 3 - Class discussion of Fromkin et al. (lexical and syntactic variation)          Week 4 - Class discussion of Fromkin et al. (standardisation of dialects)          Week 5 - Quiz, class discussion of Fromkin et al. (social dialects)          Week 6 - Class discussion of Fromkin et al. (gendered language)          Week 7 - Class discussion of Fromkin et al. (pidgins and creoles)          Week 8 - Test          Week 9 - Class discussion of Fromkin et al. (individual and social bilingualism)          Week 10 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 11 - Class discussion of Fromkin et al. (accommodating dialectal differences)          Week 12 - Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (dialectal diversity)          Week 13 - Final essay due, Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (languages)</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### 【教科書】

The instructor will provide all the necessary materials for this course, so there is no need for students to buy a textbook. However, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### （その他（オフィスアワー等））

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 2: English in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>This course will introduce students to the notion of English as a global language and also to the academic debates surrounding the dominant role that the language has come to assume across a wide range of international arenas. Topics of discussion will include what it means to be a global language, the history of the spread and diversification of the English language across the world and the future prospects of English as a global language. Throughout the course, students will be encouraged to develop and share their own opinions about the role of English both in Japan and in the wider world today. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
[到達目標]											
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today and of the social, cultural, and historical contexts that have shaped its development over past centuries. Group discussions and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the substantial amount of reading required for each class will help to improve reading speed and to expand academic and practical vocabulary. Academic research and writing skills in particular will be further developed through an essay assignment.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Students will be given weekly reading assignments from the prescribed text to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for the class quiz and the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a class quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Crystal chapter 1 (What is a global language?)          Week 3 - Class discussion of Crystal chapter 1 (advantages and disadvantages of a global language)          Week 4 - Class discussion of Crystal chapter 2 (Kachru's three circles)          Week 5 - Quiz, class discussion of Crystal chapter 3 (English and the British Empire)          Week 6 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English and the globalisation of culture)          Week 7 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English in the media)</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

---

Week 8 - Test

Week 9 - Class discussion of Crystal chapter 5 (English in the United States)

Week 10 - Class discussion of Crystal chapter 5 (Global “ Englishes ” )

Week 11 - Class discussion of Crystal chapter 5 (the future of English)

Week 12 - Class discussion on English in Japan (foreign language education in the school system)

Week 13 - Final essay due, Class discussion on English in Japan (the role of English in Japan)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### 【教科書】

Crystal, David 『English as a Global Language』 ( Cambridge University Press ) ISBN:1107611806 ( 2nd edition )

Note: Students should ensure that they have the full English edition of the text. There also exists an abridged Japanese-English bilingual edition. However, this bilingual edition does NOT contain all the necessary content for this course. In addition to purchasing the prescribed text, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

---

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		W.B.イエイツの詩集The Wild Swans at Cooleを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>The Wild Swans at Cooleは、アイルランドの詩人W. B. イエイツ(1865-1939)が1917年(改訂版は1919年)に発表した詩集であり、初期の幻想的な作風を脱し、円熟期を迎えた詩人の珠玉の作品が収められている。作品が書かれた1910年代は、第一次世界大戦、アイルランドにおけるナショナリストの蜂起など、社会的動乱が続いた。一方、私生活においては、1917年、彼は長年の報われない愛に終止符を打ち、結婚という転機を迎える。また、この頃の作品には、アメリカ出身の詩人エズラ・パウンドの影響を受け、技巧面において実験精神が見られることも特筆すべきであろう。本講義では、このようなコンテクストを理解したうえで、個々の作品を精読する。</p> <p>授業の前半では、イエイツの詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の訳の発表とディスカッションを行う。後半では、作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などを教員が解説する。さらに、英詩を読むために必要な知識の導入や他の詩人の作品との比較などを併せて行うことで、作品への多角的なアプローチを図る。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の精読と翻訳を通じて、詩を読む力を錬成する。</li> <li>2. 作品についての口頭発表やディスカッションを通じて、詩を論じる力を身に付ける。</li> <li>3. 作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などをふまえて作品を考察することができる。</li> <li>4. 英詩を読解するために必要な知識を身に付ける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：W.B.イエイツについて、および作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第3回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第4回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第5回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第6回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第7回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第8回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第9回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第10回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第11回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第12回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第13回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

第14回 まとめ  
第15回 フィードバック

授業計画は、状況によって変更することがあります。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

### 【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する  
授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一篇、あるいは二編の詩を扱う予定です。  
担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。  
担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学総合文化研究科 教授 石原 剛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日米比較児童文学研究 マーク・トウェインを中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>明治以降今日まで、日本人がいかなる紆余曲折を経ながらアメリカの国民的作家マーク・トウェインを受容してきたか検討する。トウェイン文学は、アメリカに特徴的な広大な空間、アメリカが抱えてきた人種の問題、アメリカ独特の言葉や言い回しなど、背景となるアメリカ文化と密接につながっている。従って、アメリカと文化様式や伝統を異にする日本人にとっては、作品のエッセンスを十分に理解することが難しかった。その結果、日本人にとって受け入れやすい側面のみが強調されたり、日本人が理解しやすいよう内容を改変するといったことが頻繁に行われた。そういった、日本人によるトウェイン文学の削除や強調、改変をみていくことは、即ち日米の文学や文化の伝統や特徴の相違そのものを検討していくことに他ならない。従って、本授業の講義部分では、特に日本の文学や文化の伝統、さらに同時代の日本の社会状況や大衆文化などに目を配りつつ、日本版のトウェイン作品が同時代の文化・社会状況をいかに反映しているのか、原作との比較を交えながら検討していく。そうすることで、同時に、日米文学・文化の相違や、日本の児童文学・文化の功罪をも考えていく。マーク・トウェインの日本受容を検討することで、最終的には、今日のアメリカ文化のグローバル化について考える際のヒントや視点を提供できればと考えている。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mark Twain文学について深く考えることで、アメリカ文学の特質をも理解する。</li> <li>2. 比較文学研究の実例を示すことで、その手法と理論的枠組みを理解する。</li> <li>3. アメリカ文化のグローバル化が孕む問題を理解する。</li> <li>4. 外国文学を受容するとはいかなる営為の下でなされるものか理解する。</li> <li>5. 外国文学の翻訳・翻案とはいかなる営みであるか理解する。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。											
1日目											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回、2回：明治期のトウェインと日本(講義)</li> <li>・ 3回、4回：受講生による発表&amp;ディスカッション(演習)</li> </ul>											
2日目											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5回、6回：大正期の児童文学とトウェイン(講義)</li> <li>・ 7回、8回：受講生による発表&amp;ディスカッション(演習)</li> </ul>											
< 中日 > 休憩日											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 3日目

- ・ 9回、10回：戦時下のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 11回、12回：受講生による発表&ディスカッション(演習)

### 4日目

- ・ 13回、14回：戦後占領期のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 15回：授業内容全体に関する総括&ディスカッション

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

発表(40%)、翻訳比較に関するレポート(40%)、授業での質疑応答(20%)で総合的に評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

受講までに以下の課題について調査をして、30~40分程度で調査内容を授業内に発表できるように準備しておいてください。レジュメはB4で1枚程度(裏表使用可)を目安にしてください。レジュメの様式は自由ですが、発表タイトルとお名前、そして使用した文献は必ずレジュメに記載するようにしてください。発表の担当日と時限は、出来る限り授業開始前に決定して、お知らせします。

テーマ：同じ原作(アメリカ文学作品)を訳した異なる翻訳を読み比べ、その翻訳の違いについて考察してください。

【注意事項】原作はアメリカ文学作品に限定します。訳文を検討する際は、必ず英語原文も参照してください。同じ原作なのになぜ訳文が異なるのか、理由なども考えながら、考察してください。(「異なる原作」の翻訳を比較するという意味ではありません。例えば、ポーの「黒猫」の翻訳とポーの「アッシャー家の崩壊」の翻訳の比較という意味ではありません。)マーク・トウェインの作品については授業で集中的に扱うので、トウェイン以外のアメリカ文学作品を選択してください。

質問があれば、連絡先メールアドレスまでご連絡ください。

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。メールアドレスは、ishihara@g.ecc.u-tokyo.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		Introduction to (historical) pragmatics									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、客員教授のJoanna Kopaczyk先生(グラスゴー大学)と家入が共同で担当します。前半部(英語による授業)をKopaczyk先生が担当し、後半部(日本語による授業)を家入が担当する予定ですが、COVID-19の感染状況によりKopaczyk先生の来日が難しい場合など、内容や使用言語等が変更になる可能性があります。</p> <p>Pragmatics is the study of language use in context, developed in the mid-20th century to answer questions such as how we do things with words, how we create and interpret implied meanings, or why we use different linguistic strategies when talking to a friend vs a superior. Historical pragmatics, which started with a seminal collection of studies in Jucker (1995), asks similar questions regarding communication during various historical periods.</p> <p>This course will introduce students to pragmatics and related theoretical and analytical frameworks, including Speech Act Theory, the Cooperative Principle, Grice's Maxims, implicatures and presuppositions, as well as Politeness and Impoliteness Theories. We will use these analytical tools to gain a better understanding of how meaning is created in context and how it is interpreted. The second part of the course will extend these insights to historical contexts. We will look at how people addressed each other in medieval and early modern England, how language reflected social order, and how to track language change from a pragmatic perspective. The course will draw on textbook examples and corpus data (e.g. from the English-corpora suite), while students will be encouraged to come up with real-life examples of language use in context to illustrate pragmatic phenomena, also in an intercultural perspective.</p>											
【到達目標】											
<p>The course will equip the students with a thorough understanding of the field of linguistic pragmatics, both from a present-day and a historical perspective. The students will learn how to use relevant methods and tools to analyse real-life examples of language use in context. They will be introduced to various historical contexts to gain insights into language use of the past. At the end of the course the students will be able to give examples and recognise various speech acts, applications and violations of Grice's maxims, as well as politeness and impoliteness strategies. They will also be applied to the notion of face to linguistic interactions. The students will be able to draw on a range of electronic and traditional sources and present conclusions in class discussion and in written form.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to (historical) pragmatics #8211 course overview (Clark 2021, Ch1)</li> <li>2. Implicature and Gricean Maxims (Clark 2021, Ch2)</li> <li>3. Presupposition (Griffiths 2017, Ch8, 8.4 + exercises)</li> <li>4. Speech acts #8211 doing things with words (Griffiths 2017, Ch11)</li> <li>5. Politeness and face (Clark 2021, Ch5)</li> <li>6. Understanding impoliteness I (Culpeper 2011, Ch0 and Ch1)</li> </ol>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

7. Understanding impoliteness II (Culpeper 2011, Ch2)
8. Historical pragmatics: methods and data (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch1-Ch2)
9. Working with corpora to access pragmatic phenomena (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch3)
10. Alas! Discourse markers and interjections (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch4)
11. Thou Traitor! Terms of address ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch5)
12. Historical speech acts (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch6)
13. Historical politeness and impoliteness ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch7)
14. Grammaticalisation and pragmaticalisation ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch8)
15. Wrapping up and essay discussion

### [履修要件]

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

### [成績評価の方法・観点]

attendance/class contribution 40%  
essay 60%

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

- Jucker, Andreas H. and Irma Taavitsainen 『English historical pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2013)
- Clark, Billy 『Pragmatics: The Basics』 (Routledge, 2021)
- Culpeper, Jonathan 『Impoliteness. Using language to cause offence』 (CUP, 2011)
- Griffiths, Patrick 『An introduction to English semantics and pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2017)
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson 『Politeness. Some universals in language usage』 (CUP, 1987)
- Chapman, Siobhan 『Pragmatics』 (Palgrave Macmillan, 2011)
- Culpeper, Jonathan and Michael Haugh 『Pragmatics and the English language』 (Palgrave Macmillan, 2014)
- Cutting, Joan and Kenneth Fordyce 『Pragmatics: A resource book for students』 (Routledge, 2020)
- Grundy, Peter 『Doing pragmatics』 (Routledge, 2019)
- Jucker, Andreas (ed.) 『Historical pragmatics. Pragmatic developments in the history of English』 (John Benjamins, 1995)
- Levinson, Stephen C. 『Pragmatics』 (CUP, 1983)
- Paquot, Magali and Stephan T. Gries (eds.) 『A practical handbook of corpus linguistics』 (Springer, 2020)

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

## アメリカ文学(特殊講義)(3)

### ( 関連URL )

<https://varieng.helsinki.fi/CoRD/index.html>(Corpus Resource Database (CoRD))

<https://www.english-corpora.org/corpora.asp>(English-Corpora.org)

### [授業外学修(予習・復習)等]

Assigned reading

### ( その他(オフィスアワー等) )

本授業の前半はJoanna Kopaczyk先生(グラスゴー大学)がご担当になりますが、授業担当者の家入が補助をいたします。必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		To Kill a Mockingbirdを読む(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>到達目標：ピューリツァー賞受賞作家Harper Leeのベストセラー小説To Kill a Mockingbirdを一年かけて完読する。本作は米国の人種問題を扱うものだが、比較的平易な英語で書かれているため、原書として読む最初の一冊にふさわしい。また、米国南部の田舎町独特の雰囲気や社会情勢を堪能できるのも良い。本作を通じて、アメリカ小説の傾向を把握し、英文解釈能力の向上を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品To Kill a Mockingbirdを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: 作者紹介および米国南部の地域性について</p> <p>第2回：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>第3回：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>第4回：To Kill a Mockingbirdを読む(3)</p> <p>第5回：To Kill a Mockingbirdを読む(4)</p> <p>第6回：To Kill a Mockingbirdを読む(5)</p> <p>第7回：To Kill a Mockingbirdを読む(6)</p> <p>第8回：To Kill a Mockingbirdを読む(7)</p> <p>第9回：To Kill a Mockingbirdを読む(8)</p> <p>第10回：To Kill a Mockingbirdを読む(9)</p> <p>第11回：To Kill a Mockingbirdを読む(10)</p> <p>第12回：To Kill a Mockingbirdを読む(11)</p> <p>第13回：To Kill a Mockingbirdを読む(12)</p> <p>第14回：To Kill a Mockingbirdを読む(13)</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする。</p>											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

する(残り時間は参加者全員によるディスカッション)。期末レポートはTo Kill a Mockingbirdを論  
じること。

### [教科書]

Lee, Harper 『To Kill a Mockingbird』 ( Harper Perennial, Modern Classics ) ISBN:0060935464 ( 授業中、  
常時参照するのでかならずこの版を購入すること )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない(毎回およそ15ページほどの  
分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式について  
は初回授業で説明する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系125

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		To Kill a Mockingbirdを読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>到達目標：ピューリツァー賞受賞作家Harper Leeのベストセラー小説To Kill a Mockingbirdを一年かけて完読する。本作は米国の人種問題を扱うものだが、比較的平易な英語で書かれているため、原書として読む最初の一冊にふさわしい。また、米国南部の田舎町独特の雰囲気堪能できるのも良い。</p> <p>なお、本授業は前期の演習Ⅰと同じテキストを扱うため、初回授業までに第1章から第13章まであらかじめ目を通しておくことが望ましい(日本語訳でもOK)。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品To Kill a Mockingbirdを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: 作者紹介および米国南部の地域性について</p> <p>第2回：To Kill a Mockingbirdを読む(1)</p> <p>第3回：To Kill a Mockingbirdを読む(2)</p> <p>第4回：To Kill a Mockingbirdを読む(3)</p> <p>第5回：To Kill a Mockingbirdを読む(4)</p> <p>第6回：To Kill a Mockingbirdを読む(5)</p> <p>第7回：To Kill a Mockingbirdを読む(6)</p> <p>第8回：To Kill a Mockingbirdを読む(7)</p> <p>第9回：To Kill a Mockingbirdを読む(8)</p> <p>第10回：To Kill a Mockingbirdを読む(9)</p> <p>第11回：To Kill a Mockingbirdを読む(10)</p> <p>第12回：To Kill a Mockingbirdを読む(11)</p> <p>第13回：To Kill a Mockingbirdを読む(12)</p> <p>第14回：To Kill a Mockingbirdを読む(13)</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### 【履修要件】

後期からの受講を歓迎します。その際は、初回授業までに、あらかじめ日本語訳でも良いので第1章から第13章まで読んでおくことをおすすめします。

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはTo Kill a Mockingbirdについて論じること。

### 【教科書】

Lee, Harper 『To Kill a Mockingbird』（Harper Perennial, Modern Classics）ISBN:0060935464（授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない（毎回およそ15ページほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語の多様性へのアプローチ									
【授業の概要・目的】											
Laurel J. Brinton (編) のEnglish Historical Linguistics: Approaches and Perspectives (図書館のものを利用)の中から指定する章を読むとともに、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Laurel J. Brinton (編) のEnglish Historical Linguistics: Approaches and Perspectivesの中から指定する章を講読し、言語を变化の視点から観察する力を養い、言語变化全般への理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション											
第2回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(1)											
第3回： コーパス言語学のアプローチによる英語の分析(2)											
第4回： 文法化と語彙化の視点から(1)											
第5回： 文法化と語彙化の視点から(2)											
第6回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(1)											
第7回： 談話分析の手法を用いたアプローチ(2)											
第8回： 歴史社会言語学と英語研究(1)											
第9回： 歴史社会言語学と英語研究(2)											
第10回： 歴史語用論的なアプローチ(1)											
第11回： 歴史語用論的なアプローチ(2)											
第12回： 英語の標準化と規範文法											
第13回： 英語の地域性											
第14回： 言語接触と英語											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業(1回程度)を行うことがあります。</p>											
【履修要件】											
英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、特殊講義(家入葉子・Joanna Kopaczyk)、特殊講義(Michael Hofmeyr)も提供(予定)しています。特殊講義(家入葉子・Joanna Kopaczyk)では、歴史語用論をメインテーマとします。Hofmeyr先生の特殊講義はアカデミックライティングの授業ですが、英語の多様性に関する題材を扱う予定とのことです。本授業と合											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

わせて受講すると、より理解が深まるものと思われます。要件ではありませんが、どうぞご検討ください。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

Laurel J. Brinton 『English Historical Linguistics: Approaches and Perspectives』（CUP）ISBN:978-1107113640

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英訳聖書の歴史									
【授業の概要・目的】											
Wyclif (1380)、Tyndale (1534)、Authorized Version (1611)などの異なる英訳聖書を比較検討しながら、語彙の変化、語法の変化等を詳細に議論します。扱う範囲は広いですが、日本語訳聖書なども参考にしながらゆっくりと授業を進める予定です。また、関連の論文等も読みながら、英語史研究の方法全般についても学びます。											
【到達目標】											
時代の異なる英訳聖書を比較検討することで、英語を言語変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法など											
第2回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の発音											
第3回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語についての全般的な注意事項											
第4回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の語順											
第7回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の名詞・形容詞											
第8回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の代名詞全般											
第9回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の前置詞											
第12回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の副詞											
第13回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の助動詞											
第14回： 英訳聖書の言語比較および古英語、中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
<p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p> <p>なお必要な場合には、レポートの作成に有用なオンラインツールや辞書の使い方等を説明するためのメディア授業(1回程度)を行うことがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

橋本功 『聖書の英語 旧約原典からみた』（英潮社）

T. Nevalainen 『An Introduction to Early Modern English』（Edinburgh University Press）

京都大学図書館機構が提供するThe Bible in English（データベース）も利用します。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

英訳聖書の講読の他、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		James Joyce, Ulysses : 第4挿話精読									
【授業の概要・目的】											
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では本作の主人公がはじめて登場する第4挿話からスタートし(後期では第1~3挿話を扱う)、物語を精緻に読みながら、下記の項目に習熟することを目的とする。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英文学における修辭的技法の理解</li> <li>(2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解</li> <li>(3) 文学テキストの精読(close-reading)の方法</li> <li>(4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法</li> </ul>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</li> <li>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</li> <li>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説及び『ユリシーズ』出版の経緯と、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。下記の授業計画では、底本として用いるGabler版のLine-numberに準拠して講義を進める。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 U4.1-40											
第3回 U4.41-80											
第4回 U4.81-119											
第5回 U4.120-160											
第6回 U4.161-200											
第7回 U4.201-240											
第8回 U4.241-280											
第9回 U4.281-320											
第10回 U4.321-60											
第11回 U4.361-400											
第12回 U4.401-440											
第13回 U4.441-480											
第14回 U4.481-531											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### 第15回 まとめ・質疑応答

#### 【履修要件】

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

#### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表50% + 学期末レポート50%にて評価する。

#### 【教科書】

授業中に指示する

#### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

#### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

#### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		James Joyce, Ulysses : 第1~3挿話精読									
[授業の概要・目的]											
James JoyceのUlysses (1922) は2022年に出版100周年を迎え、モダニズム文学の金字塔として今後さらなる注目を集める見込みがある。授業では本作の主人公がはじめて登場する第1~3挿話を扱い、下記の項目に習熟することを目的とする。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 英文学における修辭的技法の理解</li> <li>(2) 自由間接話法と意識の流れの技法の理解</li> <li>(3) 文学テキストの精読 (close-reading) の方法</li> <li>(4) 歴史的・文化的背景を踏まえた解釈と関連する資料収集の方法</li> </ul>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</li> <li>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</li> <li>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説及び『ユリシーズ』出版の経緯と、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。下記の授業計画では、底本として用いるGabler版のLine-numberに準拠して講義を進める。											
第2回 U1.1-200											
第3回 U1.201-400											
第4回 U1.401-743											
第5回 U2.1-100											
第6回 U2.101-200											
第7回 U4.201-300											
第8回 U4.301-450											
第9回 U3.1-100											
第10回 U3.101-200											
第11回 U3.201-300											
第12回 U3.301-400											
第13回 U3.401-505											
第14回 まとめ											
第15回 質疑応答											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### [履修要件]

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・担当者発表60% + 学期末レポート40%にて評価する。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Alice Munroの短篇小説を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>20世紀後半～現在の北米文学の主要作家の一人であるカナダの短篇小説家Alice Munro (1931-)の短篇作品を読む。</p> <p>授業は精読(訳読)と発表形式を組み合わせる。1作品につき3～4回の授業をあて、半期で4作ほどの短篇を読む予定。精読の回は、テキストを丁寧に訳読しながら、解釈等の細かな点について話し合う。各作品、これを数回行ったのち、最後の1回は作品全体について輪番制で数人の受講者に発表をしてもらい、それをもとに参加者全員で話し合う。</p> <p>学期末には、授業で読んだいずれかの作品について、各自の視点からテーマを絞って論じるレポートを提出してもらう。</p>											
[到達目標]											
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：作品 (精読)</p> <p>第3回：作品 (精読)</p> <p>第4回：作品 (精読)</p> <p>第5回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第6回：作品 (精読)</p> <p>第7回：作品 (精読)</p> <p>第8回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第9回：作品 (精読)</p> <p>第10回：作品 (精読)</p> <p>第11回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第12回：作品 (精読)</p> <p>第13回：作品 (精読)</p> <p>第14回：作品 (発表・ディスカッション)</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系131

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アメリカ女性作家の短編を読む									
【授業の概要・目的】											
本授業では19世紀から20世紀前半にかけての代表的な米国女性作家の短編を読む。取り上げる作品は、いずれも有名作。本授業を通じて、アメリカ文学への興味を深めてほしい。											
【到達目標】											
米国女性作家たちの代表的短篇の講読を通じて、米文学の潮流を学ぶ 英語で書かれた小説の読解法を学ぶ											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション--本授業で取り上げる作家たちについて 第2回：Rebecca Harding Davis, "Life in the Iron-Mills" 講読(1) 第3回：Rebecca Harding Davis, "Life in the Iron-Mills" 講読(2) 第4回：Louisa May Alcott, "Transcendental Wild Oats" 講読 第5回：Sarah Orne Jewett "A White Heron" 講読 第6回：Mary E. Wilkins Freeman, "A New England Nun" 講読 第7回：Charlotte Perkins Gilman, "The Yellow Wall-Paper" 講読 第8回：Kate Chopin, "The Storm" 講読 第9回：Edith Wharton, "The Angel at the Grave" 講読 第10回：Willa Cather, "Paul's Case" 講読 第11回：Djuna Barnes, "Smoke" 講読 第12回：Zora Neale Hurston, "Sweat" 講読 第13回：Nella Larsen, "Sanctuary" 講読 第14回：レポートワークショップ 第15回：まとめ+フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当作品に関するもので、25分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
【教科書】											
Ward, Candace 『Great Short Stories by American Women (Dover Thrift Editions)』 (Dover Publications) ISBN:0486287769 (随時参照するので、必ずこの版を入手すること)											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎授業、全員参加のディスカッションを行うので、予習は必須である(毎回15ページほど読む予定)。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系132

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代英詩講読									
【授業の概要・目的】											
Seamus Heaney, <i>Death of a Naturalist</i> に収録された詩の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英詩とその背景についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語による韻文テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。</li> <li>・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 現代英国・アイルランドの詩について概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 本詩集に収録された詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね一遍を読み進めることを目指す。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
【教科書】											
Seamus Heaney 『 <i>Death of a Naturalist</i> 』 (Faber, & Faber, 2006) ISBN:978-0571230839											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予め辞書（特に英英辞典）を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Ian McEwan, Machines Like Me (2019) 購読 2									
【授業の概要・目的】											
<p>Ian McEwan, Machines Like Me (2019) の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。本作に登場するAIを搭載した「アダム」は人間的な外観と高度的な知的学習機能を持ち、文学的趣味を涵養することができるばかりか、人間と性的関係をもつこともできる人型ロボットである。人間や動物の生活空間のなかに応答機能や知能をもった機械が同居するようになった今、同小説は大きなアクチュアリティをもつ。本講義では、人工知能を搭載した機械の知覚と内受容感覚を模した語りの仕掛けに着眼しつつ、近年興隆している感情史の文脈からAIと共生する世界の問題を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2回 pp.1-25</p> <p>第3回 pp.26-50</p> <p>第4回 pp.51-75</p> <p>第5回 pp.76-100</p> <p>第6回 pp.101-125</p> <p>第7回 pp.126-150</p> <p>第8回 pp.151-175</p> <p>第9回 pp.176-200</p> <p>第10回 pp.201-225</p> <p>第11回 pp.226-250</p> <p>第12回 pp.251-275</p> <p>第13回 pp.275-300</p> <p>第14回 pp.301-306</p> <p>第15回 まとめ・質疑応答</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加口頭発表（60％）とレポート（40％）で総合的に評価する。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系134

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期は、John Milton (1608-74)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

#### （参考書）

F. T. Prince (ed.) 『Milton: Comus and other Poems』 (Oxford Univ. Press, 1968)  
岡村真紀子他(編) 『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』 (英宝社) ISBN:9784269060387、  
9784269060395、9784269060401  
小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度後期は、Gerard Manley Hopkins(1844-89)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

#### （参考書）

Walford Davies (ed.) 『Gerard Manley Hopkins: The Major Poems』 (Everyman 's Library, 1979)

岡村真紀子他(編) 『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』 (英宝社) ISBN:9784269060387、  
9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.											
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.											
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”											
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.											
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures ( <a href="http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A">http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A</a> ).											
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”											
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples											
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” ( <a href="https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc">https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc</a> ).											
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan  
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions  
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)  
Written assignments (25%)  
Class presentations (30%)  
Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系137

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film "Water, the Lifeblood of Kyoto" (<a href="http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P">http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P</a>).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 "Dry Landscapes"; pp. 133-138 "Tea Garden" "Tea Room".</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, "The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan" (2011, <a href="http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research">http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research</a>)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, "Machiya Townhouses" (<a href="https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses">https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses</a>); Kyoto Machiya Revitalization Project (<a href="http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/">http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/</a>).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film "Traditional Skills in the Kyoto State Guest House" (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. At the end of the semester, students will write a critique report on their favourite English haiku from the ones featured in the course.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA</li> <li>3. Oriental translations</li> <li>4. Orientalism</li> <li>5. Imagism</li> <li>6. Western view of Zen</li> <li>7. Beat poets</li> <li>8. 1960s</li> <li>9. Haiku Society of America</li> <li>10. British Haiku Society</li> <li>11. World Haiku</li> <li>12. Haiku radio</li> <li>13. Haiku in other Western media</li> <li>14. Internet haiku (and critiqued anthology reports)</li> <li>15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports)</li> </ol>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and distributed in class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher by or before the 14th class.

(その他(オフィスアワー等))

必要に応じて先生は日本語を話します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at cultivating the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for their special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and links from last semester</li> <li>2. Japanese and English: linguistic differences</li> <li>3. pond frog plop!</li> <li>4. Lineation, translation workshop</li> <li>5. Break, image contrast (cf. famous poets' work)</li> <li>6. Seasons in English Haiku I: spring</li> <li>7. Seasons in English Haiku II: summer</li> <li>8. Seasons in English Haiku III: autumn</li> <li>9. Creating an English haiku, composition workshop</li> <li>10. Seasons in English Haiku IV: winter</li> <li>11. Seasons in English Haiku V: all/no season</li> <li>12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku</li> <li>13. Haiku 'moment' and hints on researching examples</li> <li>14. Rensaku, rengay and report preparation/submission</li> <li>15. Haibun and report preparation/submission</li> </ol>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

必要に応じて先生は日本語も話します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系140

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(1)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。</li> <li>・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。</li> <li>・古ノルド語の初歩を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 英語史概説：印欧語、ゲルマン語としての英語 第2-3回 古英語の基礎 第4回 古ノルド語の基礎 第5-8回 Anglo-Saxon Chronicle (抜粋) の講読 第9-15回 Ohthere and Wulfstanの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%, レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7 ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。</li> <li>・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。#160</li> </ul>											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。#160											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系141

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(2)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。</li> <li>・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。</li> <li>・古ノルド語の初歩を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
期は韻文テキストを読む。											
第1回 前期の復習											
第2回 古英詩概説											
第3-10回 The Battle of Maldonの講読											
第11-15回 The Battle of Brunanburhの講読											
進み具合によっては新たなテキストを取り上げる。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%、レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7											
ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。</li> <li>・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。</li> </ul>											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系142

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス文学における「感情」の表現									
【授業の概要・目的】											
嫉妬、恥、メランコリーなどの「感情」がフランス文学においてどのようにとらえられ、どのように表現されてきたかという問題について、作品の読解を通して考察する。											
近年注目されている「感情史」をも視野に入れつつ、フランス文学の特徴の一つといえる繊細な心理分析とその表現手法をフランス文学の伝統の中に位置づけて理解することを目的とする。											
【到達目標】											
フランス文学の特質を理解すること、および文学作品の分析の具体的な手法を習得することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
第1回 イントロダクション 「感情」と文学 「感情史」と文学史											
第2回～第4回 西洋文学における「感情」の表現											
第5回 16世紀文学における「感情」の表現 - モンテーニュなど											
第6回～第7回 17世紀文学における「感情」の表現 - ラシーヌ、ラファイエット夫人など											
第8回～第10回 18世紀文学における「感情」の表現 - マリヴォー、ルソーなど											
第11回～第12回 19世紀文学における「感情」の表現 - シャトーブリアン、スタンダールなど											
第13回～第14回 20世紀文学における「感情」の表現 - プルースト、サルトルなど											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(100%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書)											
クリバンスキー、パノフスキー、ザクスル 『土星とメランコリー 自然哲学、宗教、芸術の歴史における研究』(晶文社) ISBN:9784794923868											
										系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く	

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

ジョルジュ・ヴィガレロ編 『感情の歴史 I 古代から啓蒙の時代まで』 (藤原書店) ISBN: 9784865782707

アラン・コルバン編 『感情の歴史 II 啓蒙の時代から19世紀末まで』 (藤原書店) ISBN: 9784865782936

ジャン＝ジャック・クルティエヌ編 『感情の歴史 III 19世紀末から現代まで』 (藤原書店) ISBN: 9784865783261

Jean Clair (dir.) 『Mélancolie : Génie et folie en Occident』 (Gallimard) ISBN:9782070118311

Yves Hersant (éd.) 『Mélancolies : de l'antiquité au XXe siècle』 (Laffont) ISBN:9782221099124

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス研究入門 文学・思想・映画									
[授業の概要・目的]											
<p>17世紀から現代にいたるフランスの文学と思想を、いくつかの代表的な作品を具体的に読み解き、ときに関連する映画を鑑賞しながら、概観する授業です(フランス語の知識は前提としません)。</p> <p>フランスは17世紀前半、リシュリュー枢機卿が宰相であった時代に中央集権的な王権の基礎を固め、世紀後半、ルイ14世の親政とともに絶対王政を確立します。この時代に、ラシーヌやモリエールといった作家たちが現在まで読み継がれる古典的な文学作品を生み出しました。授業では時代の背景を押さえつつ、映画『王は踊る』(2000年、ジェラルド・コルビオ監督)を鑑賞し、関連するモリエールの諸作品 とくに『タルチュフ』(1664) について考えます。</p> <p>つづく18世紀はいわゆる啓蒙主義が開花し、モンテスキュー、ヴォルテール、ディドロ、ルソーといった錚々たる思想家・文学者が現れた時代です。授業では、こうした時代の思潮をふまえて、パリを訪れたペルシア人による文明批評の手紙という体裁で書かれた『ペルシア人の手紙』(1721)を具体的に読み解いていきます。</p> <p>フランス革命を経た19世紀については、まず、ユゴーの有名な『レ・ミゼラブル』(1862)を映画版(1957年、ジャン=ポール・ル・シャノワ監督)およびテキストの抜粋を使いながら考えてみたいと思います。ユゴーはフランス革命の成果を「ヒューマンイズム」として捉え、それが実際には必ずしも十全に実現されていない現実の世界を生きる「惨めな人々」を描き出しています。19世紀はまた、そうした赤裸々な「現実」が、バルザック、フロベール、ゾラといった作家によって小説作品に描かれた、リアリズム、自然主義の時代でもありました。授業ではその記念碑的な作品のひとつであるフロベールの『ボヴァリー夫人』(1857)について映画版(1933年、ジャン・ルノワール監督ほか)も見ながら考えてみます。</p> <p>以上のような産業主義の発展とともに爛熟するブルジョワ社会と悲惨を強いられ貧窮する庶民の生活を特徴とする「現実世界」への強い批判として、世紀後半には象徴主義と呼ばれるある手の理想主義的な思潮が生まれてきます。授業ではその代表的な詩人であるステファヌ・マラルメの作品を、同時代の美術作品なども参照しながら紹介したいと思います。</p> <p>20世紀については、いわゆる実存主義で著名なカミュの『異邦人』(1942)を映画版(1967年、ルキノ・ヴィスコンティ監督)も見ながら考えてみましょう。これは「神が死んでしまった」現代世界において生きるとはいかなることなのかを考えるうえできわめて重要な作品です。そして最後に、現代に特徴的な、記憶と世界の迷宮的なあり方を、ほとんど呪文的とも言える言葉と息をのむほどに美しい映像によって見事に表現した、レネ・ロブ＝グリエの『去年マリエンバードで』(1961)を鑑賞して終えることにしたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- フランス文学について、17世紀から現代にいたる流れの概略を理解し、いくつかの代表的作品について具体的なイメージを獲得する。</li> <li>- 作品分析の基本的な作業について、具体的なイメージを獲得する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>イントロダクション：授業の概要と進め方</p> <p>17世紀(1)：ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(1)</p>											
系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く											

## 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

17世紀(2): ルイ14世と絶対王政の確立 『王は踊る』とモリエール(2)  
18世紀(1): 啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)  
18世紀(2): 啓蒙の世紀 モンテスキュー 『ペルシア人の手紙』を読む(1)  
19世紀(1): ヒューマニズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む/見る(1)  
19世紀(2): ヒューマニズムの行方 ユゴー 『レ・ミゼラブル』を読む/見る(2)  
19世紀(3): リアリズムと近代小説 フロベール 『ボヴァリー夫人』を読む/見る  
19世紀(4): 世紀末と象徴主義 マラルメを読む  
20世紀前半(1): カミュ 『異邦人』を読む/見る(1)  
20世紀前半(2): カミュ 『異邦人』を読む/見る(2)  
20世紀後半(1): レネ/ロブ=グリエ 『去年マリエンバード』を読む/見る(1)  
20世紀後半(2): レネ/ロブ=グリエ 『去年マリエンバード』を読む/見る(2)  
まとめ  
期末試験  
フィードバック

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点50パーセント、期末試験50パーセント

### [教科書]

プリント配布

### [参考書等]

(参考書)

横山安由美、朝比奈美知子編著 『はじめて学ぶフランス文学史』(ミネルヴァ書房、2002年)  
ISBN:4-623-03490-9(コンパクトかつ充実した概説書)  
永井敦子、畠山達、黒岩卓編著 『フランス文学の楽しみかた』(ミネルヴァ書房、2021) ISBN:  
978-4-623-09076-1(代表的作品の解説と、興味深い数々のコラム)  
モリエール(鈴木力衛訳) 『タルチュフ』(岩波文庫) ISBN:978-4003251225(たぐいまれな名訳)  
モンテスキュー(田口卓臣訳) 『ペルシア人の手紙』(講談社学術文庫) ISBN:978-4065193419(  
解説も充実した最新訳)  
ユゴー(西永良成訳) 『レ・ミゼラブル(全五冊)』(平凡社ライブラリー)  
フロベール(芳川泰久訳) 『ボヴァリー夫人』(新潮文庫) ISBN: 978-4102085028(読みやすい新  
訳)  
マラルメ(渡辺守章訳) 『マラルメ詩集』(岩波文庫) ISBN:978-4003750865  
カミュ(窪田啓作訳) 『異邦人』(新潮文庫) ISBN:978-4102114018  
ロブ=グリエ(天沢退二郎・蓮実重彦訳) 『去年マリエンバードで・不滅の女』(筑摩書房、1969  
年)

系共通科目(フランス文学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(フランス文学)(講義)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業でとりあげる作品については、「参考書等」の欄でしめした翻訳をひとつでもよいので実際に手にとり読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET21 23607 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学文学部 教授 小田 涼			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス語学概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。											
【到達目標】											
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。また、1つのテーマを2回の授業で扱うこともある。											
第1回：ソシールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。											
第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(etre)」的言語 (Have languageとBe language)											
第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか											
第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について											
第5回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)											
第6回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数											
第7回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」											
第8回：否定：分離的否定、否定の作用域											
第9回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法)											
第10回：情報構造と語順「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」											
第11回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論											
第12回：BenvenisteによるHistoireとDiscoursの区別											
第13回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法)											
第14回：語調緩和の半過去「Je voulais vous demander un petit service.のような半過去になぜ語調を緩和する働きがあるのか」											
第15回：まとめ (フィードバック)											
系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

**[履修要件]**

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

**[成績評価の方法・観点]**

授業の後に取り組んでもらう10回の課題（オンライン提出）の達成度により評価する。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系145

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マリヴォーの喜劇を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス文学の精髓ともいえるマリヴォー (Marivaux, 1688-1763) の喜劇の特色について考察する。  マリヴォーの作品が創作され、上演された当時の演劇の状況や社会的背景をも視野に入れつつ、マリヴォー劇の巧みな劇作法、繊細な心理分析、洗練された台詞の魅力をその代表作の一つ『偽りの告白』 (Les Fausses Confidences, 1737) の読解を通して理解することを目的とする。											
【到達目標】											
フランス喜劇の劇作法と劇言語の仕組みを理解する。 フランス喜劇を代表する作家であるマリヴォーの作品の特質を理解する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。 ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。  第1回 イン트로ダクション 18世紀初頭におけるフランス演劇の状況 第2回 マリヴォー 人と作品 第3回 マリヴォーとイタリア人劇団について 第4回-第6回 マリヴォー喜劇の特色について 第7回-第14回 『偽りの告白』読解 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表 (20%) および期末レポート (80%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書) マリヴォー 『偽りの告白』 (岩波文庫) ISBN:9784003251768 佐藤実枝 『マリヴォー 『偽りの打ち明け話』 翻訳と試論』 (早稲田大学出版部) ISBN: 9784657130167											
										フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く	

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

Marivaux 『Théâtre complet』 ( Le Livre de Poche ) ISBN:9782253132530

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ステファヌ・マラルメ「詩と散文」III (2023)									
【授業の概要・目的】											
<p>2021年度より開始したステファヌ・マラルメの詩と散文を精読する授業です。昨々年度からの継続ですが、個々の詩篇・テキストは独立したものですので、今年度からの受講でもまったく問題ありません。</p> <p>マラルメはフランス象徴主義の代表的な存在で、抒情的主体の表現を基本とするロマン主義の後を受けて、むしろ詩における発話主体の消滅や言語の非人称性にきわめて自覚的であった詩人でした。と同時に、『ディヴァガシオン』に収められたテキストは、演劇やバレエ、見世物から穴掘りの労働者にいたるまで同時代の社会事象に着目し、それを散文的な詩篇（「批評詩」）にまで高めたものとして知られています。詩・散文とも19世紀にとどまらず、20世紀に入ってから、ヴァレリーからサルトル、ブランショを経てデリダ、フーコー、ランシエール、メイヤスと、現在にいたるまで大きな影響を与え続けています。</p> <p>今年度はマラルメの代表作である「エロディアド」および「半獣神の午後」を中心とする諸作を、Bertrand MarchalのLectures de Mallarmé、Pierre Citronによる註解、および『マラルメ全集』の邦訳と註解などを参考にして精読します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。</li> <li>・複雑な構文、豊富な語彙をもつテキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。</li> <li>・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション(1) 授業の概要、進め方、分担割り当て</p> <p>イントロダクション(2) フランス詩法概説、マラルメ概説</p> <p>Mallarmé, L'Azur講読</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(1)</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(2)</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(3)</p> <p>Mallarmé, Cantique de saint Jean講読</p> <p>エロディアドをめぐって(講義)</p> <p>中間まとめ</p> <p>Mallarmé, Quand l'ombre menaçait de la fatale loi講読</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(1)</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(2)</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(3)</p> <p>まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>フィードバック</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点50%、定期試験50%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de Mallarmé、Pierre Citronによる註解、および、筑摩版マラルメ全集の訳文・解説を参考書として精読します。詩篇も哲学者のテキストも、それぞれ担当者を決めて訳読していきますが、担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせの機会」は外国語の読解力を獲得するうえできわめて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」と「ひとりでは分からないこと」を腑分けして自覚できるようになることは、文学研究だけでなく、社会人となっても広く役に立つはずで

### (その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系147

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les émotions dans la littérature française du XVIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
<p>Au XVIIe siècle, les émotions, appelées passions ou encore affections de l'esprit, sont à la fois un objet majeur de la réflexion savante et une matière féconde de la production littéraire, artistique et oratoire. Les philosophes, les théologiens, mais aussi les médecins publient des traités des passions dans lesquels ils étudient méticuleusement la colère, la joie ou encore l'amour : quelles sont les causes de ces émotions ? quels sont leurs bons et leurs mauvais usages ? comment les contrôler ? Cette connaissance du cœur humain se diffuse largement dans les arts et les belles-lettres, qui y trouvent une source inépuisable pour la dramaturgie : la tragédie s'emploie à explorer les souffrances que produisent les passions, tandis que la littérature en prose offre des possibilités remarquables d'exploration de l'intériorité. La peinture et la musique donnent également lieu à une réflexion aboutie pour déterminer la meilleure manière de représenter les émotions.</p>											
【到達目標】											
<p>Dans ce séminaire d'histoire des idées et d'histoire de la littérature, nous chercherons à comprendre comment les émotions étaient conçues au XVIIe siècle et nous verrons comment elles sont représentées dans les différents genres littéraires. Ce séminaire permettra donc aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIe siècle.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Introduction générale (séance 1). Littérature du XVIIe siècle, histoire des émotions, histoire des idées (séances 2-14). Semaine 15: feedback.</p>											
【履修要件】											
<p>Ce séminaire est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française et/ou de l'histoire des émotions. Le séminaire se déroulera intégralement en français.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>D'une part, des tests courts et réguliers viennent valider le travail de lecture des extraits d'œuvres en français (30%). D'autre part, un compte-rendu de lecture d'un article japonais ou d'un chapitre d'un ouvrage universitaire japonais sera à rédiger en français (40%). La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation active lors des séances (30%).</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier d'extraits d'œuvres du XVII<sup>e</sup> siècle (Madeleine de Scudéry, François de Sales, René Descartes, Blaise Pascal, François de La Rochefoucauld, etc.). Environ 10-15 pages seront données à la lecture chaque semaine. Les textes seront fournis par l'enseignante.

**(その他(オフィスアワー等))**

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系148

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『ゲルマントのほう』を読む									
[授業の概要・目的]											
マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて』第3篇『ゲルマントのほう』(第1部1921年、第2部22年刊行)は、ブルジョワの主人公が貴族社会の閉鎖的社交圏へと参入してゆく様子を描いている。本授業では、同篇冒頭に置かれた、貴族の名前から喚起されるイメージ・夢想を描く「名前の時代」、およびそれに続くオペラ座でのラシーヌ作『フェードル』鑑賞のエピソードを取り上げ、その着想源、生成過程、文体、作品の構造等に注目しながら多角的に読解することで、小説と歴史、小説と演劇の関係を考察するとともに、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。											
[到達目標]											
文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の文脈に即して読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 『ゲルマントのほう』の概要、生成過程を解説。 第2回～第15回 『ゲルマントのほう』第1部第1章を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系149

科目ナンバリング	U-LET21 33631 LJ36										
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	プルースト『消え去ったアルベルチーヌ』におけるヴェネチア滞在を読む										
[授業の概要・目的]											
マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて』第6篇『消え去ったアルベルチーヌ』(作者の死後1925年刊行)第3章で描かれたヴェネツィア滞在のエピソードは、主人公における死別した恋人アルベルチーヌ忘却の最終段階を構成し、建築、絵画、モード、オリエンタリズム、性愛、母子関係、ユダヤ性などの主題を軸に展開する。本授業では、このエピソードを、その着想源(とりわけジョン・ラスキンの著作)、生成過程、文体、作品全体の構造等に注目しながら多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察するとともに、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。											
[到達目標]											
文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 プルーストにおけるヴェネチアおよび『消え去ったアルベルチーヌ』第3章の概要、生成過程を解説。 第2回~第15回 『消え去ったアルベルチーヌ』第3章を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの他の作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品等の文献と照合しながら解説を加える。											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
レポート(一回、100点満点、60点以上で合格)到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス16世紀詩研究：sonnet（ソネ）とode（オード）									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義はフランス16世紀の詩を専門的に扱うものであるが、同時にフランス語詩に関心をもつ全ての人に開かれている。16世紀は現在に至るフランス語詩の重要な詩形式の多くが本格的に導入された時代である。この時代の詩作品に触れることは、近代以降にユーゴーやボードレル、マラルメ、ヴァレリーといった詩人たちが様々に革新しようとした詩的伝統そのものの理解を深める事にもつながる。</p> <p>本年度は16世紀フランス詩の重要な2つの形式としてsonnet（ソネ）とode（オード）を扱う。前者はイタリア由来で汎ヨーロッパ的に人気を博した形式であり、後者は古代ギリシアおよびローマの詩ジャンルとしてルネサンスの古代文芸復興を通して導入された多様性を含む形式である。この2つの詩形式の本格的な導入と改良の歩みはフランス16世紀詩史の最も重要な軸の1つであるが、そこにおいて中心的な役割を担ったジョアシャン・デュ・ベレー、ポンテュス・ド・ティヤール、ピエール・ド・ロンサールといった詩人たちの作品について、原典を精読しつつ論じていきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを後の時代のフランス詩、また同時代の他のヨーロッパ諸語の詩と比較して考察することができるようになる。フランス詩法の基礎的な知識、現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法に関する基礎知識、さらにテキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、個々の詩作品をより正確にそしてより深く読み込む力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 フランス16世紀詩についてのイントロダクション</p> <p>第2回 Sonnet 1 ソネの導入をめぐる諸問題</p> <p>第3回 Sonnet 2 デュ・ベレーのソネ（1）</p> <p>第4回 Sonnet 3 デュ・ベレーのソネ（2）</p> <p>第5回 Sonnet 4 ティヤールのソネ（1）</p> <p>第6回 Sonnet 5 ティヤールのソネ（2）</p> <p>第7回 Sonnet 6 ロンサールのソネ（1）</p> <p>第8回 Sonnet 7 ロンサールのソネ（2）</p> <p>第9回 Ode 1 オードの導入をめぐる諸問題</p> <p>第10回 Ode 2 ロンサールのオード（1）</p> <p>第11回 Ode 3 ロンサールのオード（2）</p> <p>第12回 Ode 4 ロンサールのオード（3）</p> <p>第13回 Ode 5 その他の16世紀詩人のオード（1）</p> <p>第14回 Ode 6 その他の16世紀詩人のオード（2）</p> <p>第15回 16世紀フランス詩と近代フランス詩</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（４０％）と学期末のレポート（６０％）で、成績を評価する。  
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

**【教科書】**

教材プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系151

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy. The class conducts an intercultural mediation project.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- develop a deeper understanding of French contemporary society and culture</li> <li>- explore intercultural issues</li> <li>- engage in critical thinking and debate with others</li> <li>- improve their argumentative skills</li> <li>- gain confidence and experience in public speaking</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and it also depends on the individual investment in the class project.</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading, watching a movie or achieving an assessment.

**(その他(オフィスアワー等))**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系152

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習I) French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à la versification française									
【授業の概要・目的】											
フランス詩の古典的規則(詩法)の習得を主眼とし、テキスト読解、詩作実践、総合的分析を通じてフランス詩の研究方法の入門指導をする。											
【到達目標】											
フランス詩法の基礎を理解し、フランス詩の分析手法を身につけることをめざす。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション フランス詩の特徴について											
第2回 音節の数え方(1)											
第3回 音節の数え方(2)											
第4回 韻律と句切り(1)											
第5回 韻律と句切り(2)											
第6回 詩作実践のフィードバック											
第7回 脚韻(1)											
第8回 脚韻(2)											
第9回 音と意味(1)											
第10回 音と意味(2)											
第11回 定型詩											
第12回 詩作実践のフィードバック											
第13回 詩の総合的分析(1)											
第14回 詩の総合的分析(2)											
第15回 詩の総合的分析のフィードバック											
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(授業での発表と課題の提出)が重視される(70%)。そのほかに学期末レポートが課される(30%)。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(演習I)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。											
【授業計画と内容】											
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳（1）											
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳（2）											
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳（3）											
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳（4）											
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳（5）											
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約（1）											
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約（2）											
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約（3）											
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約（4）											
第11回 受講者による発表（1）											
第12回 受講者による発表（2）											
第13回 受講者による発表（3）											
第14回 受講者による発表（4）											
第15回 受講者による発表（5）											
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点評価

**[教科書]**

授業中にプリント等を配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系154

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランス近代詩を読む									
[授業の概要・目的]											
フランス19世紀の詩人ランボー ( Arthur Rimbaud, 1854-1891 ) の散文と韻文からなる作品『地獄の季節』 Une saison en enfer ( 1873 ) の抜粋を精読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 音読も重視しつつ、訳読を進める。文法的な説明の他、散文と詩のあいだの中間形態、引用される韻文詩の分析や詩論についての補足説明を行う。											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習と授業への積極的な参加が求められる。											
[成績評価の方法・観点]											
授業での発表 ( 90% ) と期末課題 ( 10% )											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
( 参考書 ) 授業中に紹介する											
[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]											
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。											
( その他 ( オフィスアワー等 ) )											
授業内での積極的な質問を歓迎する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系155

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ジュール・ミシュレ 『海』を読む									
[授業の概要・目的]											
フランスの歴史家ジュール・ミシュレ(1798-1874)の自然史4部作から第3篇『海(La Mer)』(1861年刊行)を取り上げ、その代表的な章をフランス語原典で精読する。必要に応じて関連するミシュレの他作品も併読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。											
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明)											
第2回~第14回 Jules Michelet, La Mer, Paris, Librairie de L. Hachette et Cie, 1861の抜粋をフランス語原典で精読											
第15回 総括											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習が求められる。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
単語の発音および構文の把握。また未習の語彙、表現、固有名を辞書等で調べておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 横田 悠矢			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Michel Beaujour 『Miroirs d'encre』を読む									
【授業の概要・目的】											
1970年代以降、フランスでは自伝的な作品がさまざまな形式で発表され、「自伝」というジャンルの定義そのものが見直されることになる。こうした「形式」を捉えるために提案された用語の一つに「オートポルトレautoportrait」があり、これは作家が自己自身について述べた断章の集成を指す。Michel Beaujour の『Miroirs d'encre』は、モンテーニュ、ルソー、レリス、マルロー、バルトといった多くの作家を経由しつつ、「断片的な記述とそのレトリック」という観点から自伝的作品群を捉え直した、総合的な研究である。本授業では同書を読み進め、引用される作品にも注目しながら、物語形式（「長い形式」）には収まらない自己の記述の可能性について考える。											
【到達目標】											
（１）語彙の知識を増やし、また長文であっても構文を正確に把握できる力を身につける。（２）テキストの音読を通じて、フランス語の自然な発音・リズムを習得する。（３）個々の作品と理論的考察を関連づけた書き方・読み方に慣れる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション テキストについて紹介し、授業の進め方を説明する。また、各回の担当者について相談する。											
第2回～第14回 テキストの読解 担当者が当該箇所を訳読する。発音や解釈に注意しつつ、内容についても適宜、解説・議論する。											
第15回 まとめ 総括として、自己の記述の多様性、およびその理論的考察の意義について確認する。											
【履修要件】											
フランス語初級文法の知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への参加姿勢・担当箇所の訳読）によって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読)(2)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

訳読担当か否かを問わず、当該箇所を予習し、内容について考えておくこと。授業後は、新たに得た知識や理解を踏まえて、次回以降に備えること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系157

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤野 志織			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロラン・バルト『明るい部屋 写真についての覚書』(1980)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>2022年度後期に引き続き、ロラン・バルトの写真論『明るい部屋』をフランス語で精読する。原文を丁寧に読み進めることにより、フランス語読解能力の向上を目指すとともに、機械を介して生成される「写真」と人間の手により綴られる「文学」との違いに留意しながら、とりわけ20世紀前半の技術的背景、文学潮流を踏まえ、両者の特性や差異について理解を深めることを目的とする。</p> <p>今期から受講する学生に対しては、昨年度後期に学んだ内容について、授業中に適宜補足し、解説を行うなど配慮する。</p>											
【到達目標】											
研究のために必要なフランス語の読解能力および、写真と文学について考察するための基礎的な知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方についての説明)</p> <p>第2回~第14回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。翻訳を担当した回に、担当箇所、もしくは批評文全体についてコメントをつけてもらい、それについて議論しながら読解を深めていく。</p> <p>第15回 総括</p>											
【履修要件】											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。 翻訳の担当部分は、授業の前日までにメールで提出すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(翻訳とコメント)100%											
【教科書】											
教科書は使用しない。プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習：次回に進む部分の文法事項を確認し、訳してくること。翻訳担当になった場合には、併せてコメントを準備してくること。

復習：自分が間違ったところをしっかりと理解しておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系158

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(外国語実習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目		Initiation to literary and stylistic analyses									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to the study of literary stylistics. Students will learn how to identify, analyze and interpret specific linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical skills.											
【到達目標】											
This class is designed to help students:											
- identify and analyze specific formal features in French literary texts											
- improve their academic writing skills in French											
The class will be conducted in French by a native speaker.											
【授業計画と内容】											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercises of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercises on grammatical structures, lexical fields, stylistic, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14).											
Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)											
【履修要件】											
This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also active participation in class (20%).											
【教科書】											
使用しない											
The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.											
【参考書等】											
(参考書)											
授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学 ( 外国語実習 ) (2)

---

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

It is necessary to prepare the texts before the class.

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系159

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(外国語実習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目		Initiation to literary and stylistic analyses									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to the study of literary stylistics. Students will learn how to identify, analyze and interpret specific linguistic techniques in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical skills.											
【到達目標】											
This class is designed to help students:  - identify and analyze specific formal features in French literary texts - improve their academic writing skills in French  The class will be conducted in French by a native speaker.											
【授業計画と内容】											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercises of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercises on grammatical structures, lexical fields, stylistic, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)											
【履修要件】											
This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French literature in their research can find an interest in it.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment : two written essays (40% + 40%), but also class attendance and active participation (20%).											
【教科書】											
使用しない The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture.											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学 ( 外国語実習 ) (2)

---

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

It is necessary to prepare the texts before the class.

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系160

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French language and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations</li> <li>- read and interpret narratives, including more complex texts on topic of interest</li> <li>- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics</li> <li>- identify and discuss fundamental elements of French culture</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture presenting the goals and exercises of the course (week 1), we will practice various exercises: oral and written comprehension, oral and written production (weeks 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).											
【教科書】											
Dodin, Fafa, and al 『Edito. Méthode de français. A2』 (2022) ISBN:9782278104109 (Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Second Edition. )											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

**（その他（オフィスアワー等））**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系161

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French language and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations</li> <li>- read and interpret narratives, including more complex texts on topic of interest</li> <li>- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics</li> <li>- identify and discuss fundamental elements of French culture</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture presenting the goals and exercises of the course (week 1), we will practice various exercises: oral and written comprehension, oral and written production (weeks 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 test during the semester, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work).											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

## フランス語（中級）(語学)(2)

### [教科書]

Dodin, Fafa, and al 『Edito. Méthode de français. A2』 ( 2022 ) ISBN:9782278104109 ( Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Second Edition. )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

### ( その他（オフィスアワー等） )

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系162

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語(上級)(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Strengthen listening comprehension and reading from various documents</li> <li>- Consolidate grammar and lexical use</li> <li>- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing</li> <li>- Develop communicative skills</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).											
----- フランス語(上級)(語学)(2)へ続く -----											

## フランス語（上級）(語学)(2)

### [教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 ( Editor : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition. )

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

### (その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系163

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語（上級）(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Strengthen listening comprehension and reading from various documents</li> <li>- Consolidate grammar and lexical use</li> <li>- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing</li> <li>- Develop communicative skills</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).											
----- フランス語（上級）(語学)(2)へ続く -----											

## フランス語（上級）(語学)(2)

### [教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』 (2022) ISBN:9782278103669 ( Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition. )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

### ( その他（オフィスアワー等） )

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系164

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		La Princesse de Clèves : un roman d ' analyse psychologique au XVIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
La jeune Mademoiselle de Chartres, 16 ans, d ' une éducation parfaite, fait son entrée à la cour du roi de France sous les yeux attentifs de sa mère. Le prince de Clèves, saisi par sa beauté, en tombe amoureux et la demande en mariage. Mais bientôt la rencontre avec le duc de Nemours vient mettre le cœur de la jeune femme à l ' épreuve : comment faire face à une passion amoureuse que le devoir condamne ? Œuvre romanesque majeure de la littérature française au point d ' en constituer un emblème dans les médias contemporains, ce roman d ' analyse psychologique est l ' occasion de découvrir une autrice du XVIIe siècle et de mieux connaître la culture française sous l ' Ancien Régime.											
【到達目標】											
Dans ce séminaire, nous effectuerons une analyse fine du texte en français, puis nous nous intéresserons à la réception contemporaine de cette œuvre, et notamment aux réécritures (littéraires, cinématographiques, etc.) et aux discussions politiques sur la littérature auxquelles elle a donné lieu en France au XXIe siècle.											
【授業計画と内容】											
Semaine 1 : Introduction générale. Semaines 2 à 7 : Lecture et commentaire du texte en français. Séances 8 à 14 : Réception contemporaine de l ' œuvre. Semaine 15 : échange et feedback.											
【履修要件】											
Ce séminaire est ouvert à tous les étudiants désireux d ' approfondir leur connaissance de la culture et de la littérature française. Le séminaire se déroulera intégralement en français.											
【成績評価の方法・観点】											
Dans la première partie du semestre, des tests rapides et réguliers viennent accompagner la lecture de l ' œuvre de Madame de La Fayette (30%). Dans la deuxième partie du semestre, un devoir sera à rédiger en français (par exemple un compte-rendu d ' un article japonais ou d ' un chapitre d ' un ouvrage universitaire japonais, ou une comparaison des traductions d ' un passage, ou encore une analyse de la réception de l ' œuvre) (40%). La note finale tiendra compte de l ' assiduité des étudiants et de leur participation active lors des séances (30%).											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

Marie-Madeleine de La Fayette 『La Princesse de Clèves』 (Flammarion, 2019) ISBN:978-2081489738  
édité par Jean Mesnard

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier et sur une participation active pendant les cours.

**(その他(オフィスアワー等))**

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.  
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系165

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture and to enhance their conversational ability in the French language. It will address cultural, social, and political issues. Course materials will include articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills, and debates and other speaking exercises will be conducted during classes.</p> <p>(2) This course is partially built on a project-based pedagogy. The class will undertake an intercultural mediation project.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- develop a deeper understanding of French contemporary society and culture</li> <li>- explore intercultural issues</li> <li>- engage in critical thinking and debate with others</li> <li>- improve their argumentation skills</li> <li>- gain confidence and experience in public speaking</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (Week 1) presenting the course goals and constituent exercises, we will debate on various themes (i.e., social and political issues in French culture and society, French cinema, and French contemporary literature) using written and visual materials (Weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total: 14 classes and 1 feedback session (Week 15).</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students who can speak and understand enough French to read the materials and participate in discussions.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their thoughts while also listening carefully to others and asking questions. The final grade largely depends on active class participation as well as on individual investment in the class project.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

## フランス語学フランス文学(演習)(2)

### **[教科書]**

使用しない

The instructor will provide all the reading materials. However, students are expected to bring a notebook to take notes during lectures, as well as a portfolio to collect and store all documents.

### **[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

### **[授業外学修(予習・復習)等]**

Occasionally, students may be required to complete homework, such as reading, watching a movie, or completing an assignment for assessment.

### **(その他(オフィスアワー等))**

Please arrange appointments directly with the lecturer.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヴァレリーの「ナルシス作品群」研究									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス19-20世紀の詩人・批評家ヴァレリー（Paul Valéry, 1871-1945）が生涯にわたって追究した「ナルシス作品群」を取り上げ、ナルシス神話の起源と変遷を概観したうえで、この神話的主題をヴァレリーがどのように変奏したかを考察する。</p> <p>ギリシア神話のナルシスは世紀末芸術やデカダン・象徴派文学のトポスとなったが、ヴァレリーはこの主題を変奏しつつ、詩における主題と形式の照応や「作品は決して完成しない」といったみずからの詩学＝制作学を形成する一方、実人生においてもこの神話的形象を通して不可能な愛を渴望した。ヴァレリーの作品・芸術観・恋愛観にナルシス神話がどのように関与しているかを考察するとともに、他の作家たちが提示するナルシス像と比較することによってヴァレリーのナルシス観の特質を探る。</p>											
【到達目標】											
ナルシス神話の起源と変遷について理解を深める。 ヴァレリーのナルシス詩篇群を通して、この作家の詩作品、芸術観、恋愛観の特質を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のように進める予定である。</p> <p>第1回 イントロダクション ナルシス神話の起源と変遷</p> <p>第2～4回 デカダン・象徴派文学における主題の変奏</p> <p>第5～13回 ヴァレリーのナルシス詩篇群の読解</p> <p>第5～7回 主題と形式の照応という観点から</p> <p>第8～10回 詩学＝制作学との関連について</p> <p>第11～13回 恋愛書簡との関連について</p> <p>第14回 まとめ ヴァレリーの作品と人生におけるナルシス神話の射程</p> <p>第15回 フィードバック 授業中に指示</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表（20％）および期末レポート（80％）											
フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

プリント等を配布する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系167

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス近現代文学・思想における言語的ジェンダーの研究									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス語の言語的ジェンダー（男性名詞・女性名詞といった文法上の性、女性韻・男性韻といった脚韻上の性など）と作家のセクシュアリティの関連性を考察しようと試みる。</p> <p>まず文法上の性および脚韻上の性の起源と変遷（規範化から脱規範の動きへ）を概観したうえで、19世紀の詩人ヴェルレーヌ（Paul Verlaine, 1844-1896）とルネ・ヴィヴィアン（Renée Vivien, 1877-1909）を取り上げ、言語的ジェンダーの破格用法が各作家のセクシュアリティとどのように関わっているかを考察する。また20世紀の批評家バルト（Roland Barthes, 1915-1980）が提起した「中性」概念をはじめ、性の二極化に抗おうとする理論的言説を参照することにより、フランス語の言語的ジェンダーを批判的に検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>フランス語の言語的ジェンダーについて理解を深める。</p> <p>ヴェルレーヌとヴィヴィアンにおける言語的ジェンダーの破格用法とその意義を理解する。</p> <p>バルトにおける「中性」概念とその意義を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション フランス語の言語的ジェンダー概説</p> <p>第2～5回 ヴェルレーヌにおける文法上・脚韻上の性の逸脱</p> <p>第6～9回 ルネ・ヴィヴィアンにおける文法上・脚韻上の性の逸脱</p> <p>第10～13回 バルトの「中性」概念</p> <p>第14回 まとめ 言語的ジェンダーとセクシュアリティの関連性</p> <p>第15回 フィードバック 授業中に指示</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表（20%）および期末レポート（80%）											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
										フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く	

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系168

科目ナンバリング		U-LET22 13702 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各国の文化に大きな影響を及ぼしています。前期の講義では13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文化の重要なトピックについて理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき1-3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア語(俗語)の成立について</li> <li>・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち</li> <li>・シチリアからトスカーナへ：清新体派の詩人たち</li> <li>・ダンテと『神曲』について</li> <li>・ペトラルカと『カンツォニエーレ』</li> <li>・ボッカッチョと『デカメロン』</li> </ul> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語の知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(30%)          期末のレポート(70%)</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

PandAの「授業資料」に掲載するプリントにできるだけ目を通しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 13703 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(後期)									
【授業の概要・目的】											
イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を擁しています。特に13世紀から16世紀の俗語作品は、イタリアのみならずヨーロッパ各国の文化に影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人・文人を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。											
【到達目標】											
イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション											
2回～14回：(1つの項目につき1～3回の授業を予定)。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人文主義について</li> <li>・騎士物語(ボイアルドとアリオスト)</li> <li>・16世紀の言語論争</li> <li>・arte(技・技術)とnatura(自然)について</li> <li>・マキアベリと『君主論』</li> <li>・インプレーザとメタファーについて</li> <li>・創作理論の探求(トルクアート・タッツの詩論)</li> </ul>											
第15回：フィードバック											
【履修要件】											
イタリア語の知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%) 期末のレポート(70%)											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義) (2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

PandAに掲示する関連プリントにできるだけ目を通しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系170

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。今年度はタッソの対話作品のなかでもっとも有名な『使者』“ Il messaggero ”を精読しながら、詩人の宗教観と独特の感性、および散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
イタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il messaggero ” の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、自分なりに内容を理解できるまで予習をしましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系171

科目ナンバリング	U-LET22 33731 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi										
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授業では、前期にひきつづいて“ Il messaggero ”を精読しながら、タッソの宗教観と感性、並びに散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il messaggero ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、自分なりにテキストの内容を把握できるまで予習をしましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana. Il teatro italiano tra Sette e Ottocento: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni									
<b>[授業の概要・目的]</b>											
Il corso di Letteratura del primo semestre e' dedicato al teatro italiano tra Sette e Ottocento. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale europeo, il seminario prendera' in esame le opere teatrali di tre autori chiave: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni. Di ciascuno scrittore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Leggeremo e commenteremo in classe una selezione delle piu' importanti commedie e tragedie italiane, tra cui: "La locandiera" (1753), "Saul" (1782), "Adelchi" (1822), con particolare interesse rivolto alla dimensione linguistica e stilistica.											
<b>[到達目標]</b>											
Gli studenti conosceranno la biografia e le opere di tre maestri della scrittura teatrale: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni e sapranno contestualizzarle nell' ambito della letteratura europea del Settecento e dell' Ottocento. Leggeranno e studieranno i brani proposti, tratti da alcune delle piu' significative opere teatrali italiane, commentandone il lessico, la metrica, e le principali figure retoriche. Acquisiranno cosi' un' autonoma capacita' di analisi tematico-stilistica del testo letterario.											
<b>[授業計画と内容]</b>											
Letteratura italiana (I semestre). Il teatro italiano tra Sette e Ottocento: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni											
1-2: Introduzione e contesto storico-culturale											
3-15: Analisi della biografia e delle opere teatrali di Goldoni ("La locandiera"), Alfieri ("Saul"), Manzoni ("Adelchi")											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
<b>[履修要件]</b>											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
<b>[教科書]</b>											
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

V. Alfieri, Filippo, Saul, a cura di V. Branca, Milano, BUR, 2021.

C. Goldoni, La locandiera, a cura di G. D. Bonino, Torino, Einaudi, 2021.

A. Manzoni, Adelchi, a cura di G. Lonardi e P. Azzolini, Milano, Marsilio, 2005.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana. L ' autobiografia: poeti e artisti allo specchio									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Letteratura italiana del secondo semestre vertera' sul genere letterario dell ' autobiografia. Dopo una introduzione teorica sul “ patto autobiografico ” tra autore e lettore e sulla storia e i modelli del genere, il seminario prendera' in esame alcuni testi particolarmente rappresentativi. Leggeremo e commenteremo in classe passi tratti dalle piu' importanti autobiografie di poeti e artisti italiani, come: Benvenuto Cellini (1500-1571), Vittorio Alfieri (1749-1803), e Giorgio De Chirico (1888-1978), interrogandoci sulle forme e sul significato che lo “ scrivere di se' ha assunto attraverso i secoli.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti rifletteranno sui caratteri e la storia del genere letterario autobiografico in un ' ottica transnazionale e interdisciplinare. Leggeranno testi tratti dalle piu' importanti autobiografie di poeti, pittori e scultori italiani. Impareranno a esaminarne i temi, la lingua, e lo stile, mettendoli a confronto e identificando elementi comuni e peculiarita'. Acquisiranno un ' autonoma capacita' di analisi del testo letterario italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Letteratura italiana (II semestre). L ' autobiografia: poeti e artisti allo specchio</p> <p>1: Introduzione 2: Il “ patto autobiografico ” 3: Storia e modelli del genere autobiografico 4-15: Autobiografie di artisti e poeti italiani. Analisi e commento di testi rappresentativi</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

### [参考書等]

#### ( 参考書 )

P. Lejeune, *Le pacte autobiographique*, Paris, Seuil, 1975.

M. Guglielminetti, *Biografia e autobiografia*, in *Letteratura Italiana Einaudi*, vol. 5: *Le questioni*, Torino, Einaudi, 1986.

B. Cellini, *Vita*, a cura di E. Camesasca, Milano, Centauria, 2019.

V. Alfieri, *Vita*, a cura di M. Cerruti e L. Ricaldone, Milano, BUR, 2021.

G. De Chirico, *Memorie della mia vita*, a cura di P. Picozza, F. Cordelli, E. Sgarbi, Milano, La nave di Teseo, 2019.

### [授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

### ( その他 ( オフィスアワー 等 ) )

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目	Letteratura italiana contemporanea. Natura, paesaggio, ecologia nella poesia italiana dal Novecento a oggi										
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Letteratura italiana contemporanea del primo semestre prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani dal Novecento a oggi, con particolare attenzione al tema chiave: natura, paesaggio, ecologia. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX e XXI secolo, si procedera' a una lettura dei testi poetici. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti piu' significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile riflettere sul rapporto tra letteratura e natura, poesia ed ecologia, nell' eta' contemporanea e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la letteratura italiana contemporanea e il suo contesto storico-culturale. Rifletteranno sull' importanza dei temi del paesaggio e dell' ambiente nella poesia del Novecento. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria, tra cui: Giuseppe Ungaretti, Giorgio Caproni, Pier Paolo Pasolini, Andrea Zanzotto, Antonella Anedda. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Letteratura italiana contemporanea (I semestre). Natura, paesaggio, ecologia nella poesia italiana dal Novecento a oggi</p> <p>1-2: Natura, paesaggio, ecologia nella poesia contemporanea: introduzione</p> <p>3-15: Lettura e commento di testi poetici rappresentativi</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

### [教科書]

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

### [参考書等]

#### ( 参考書 )

N. Scaffai, Letteratura e ecologia. Forme e temi di una relazione narrativa, Roma, Carocci, 2022.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2021.

### [授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

### ( その他（オフィスアワー等） )

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana contemporanea. Commentare i classici: l'opera poetica di Eugenio Montale									
【授業の概要・目的】											
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana contemporanea avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Le conoscenze apprese si riveleranno indispensabili per indagare l'ampia parabola creativa montaliana, da "Ossi di seppia" ad "Altri versi". Riferendosi alla propria opera, il poeta ligure dichiarò in un'intervista di avere scritto un unico libro, di cui aveva offerto prima il 'recto' ("Ossi di seppia", "Le occasioni", "La bufera e altro"), quindi il 'verso' ("Satura", "Diario del '71 e del '72", "Quaderno di quattro anni", "Altri versi"). Dopo un breve profilo biografico, il seminario prevede l'analisi alcune importanti liriche di Montale, con una prospettiva volta a mostrare le principali difficoltà e sfide che l'opera poetica pone al suo commentatore. Nella sua varietà tematico-stilistica, la produzione montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno dei classici del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle sette raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile, con particolare attenzione al lessico. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori, e con i principali commenti alle raccolte. Impareranno a interpretare il testo poetico, chiarendone i riferimenti culturali, individuandone le fonti, studiandone gli usi linguistici e metrico-stilistici.</p>											
【授業計画と内容】											
Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Commentare i classici: l'opera poetica di Eugenio Montale											
1-2: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale											
3-15: L'Opera in versi. Lettura e commento dei testi											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

### [教科書]

#### 授業中に指示する

La bibliografia indicata in “References” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

### [参考書等]

#### (参考書)

E. Montale, L'opera in versi, a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, Tutte le poesie, a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2021.

E. Montale, Antologia da “Altri versi”, Prefazione di A. Casadei, Introduzione, selezione e commento a cura di I. Duretto, Pisa, ETS, 2017.

L. Blasucci, Gli oggetti di Montale, Milano, Ledizioni, 2010.

P.V. Mengaldo, L'opera in versi di Eugenio Montale, in La tradizione del Novecento, IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate delle letture da svolgere a casa.

### (その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系176

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで、作品の内容を検討していきます。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系177

科目ナンバリング	U-LET22 33741 SJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ペトラルカの抒情詩										
[授業の概要・目的]											
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの抒情詩を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認しながら、作品の内容を検討していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 菊池 正和 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		20世紀のヨーロッパ社会の病理と演劇の考察									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半のヨーロッパでは、ブルジョワ市民の鏡像を描出することで社会の風俗や慣習に潜む不正を告発する「問題劇」が隆盛したが、20世紀に入り、社会の価値基準や道徳的基盤がより一層見失われるようになると、個々の行為や感情の滑稽さや不可解さ、醜悪さまでをも強調して劇画化する「グロテスク劇」が生まれることになる。本授業では、ルイージ・キアレッリの『仮面と素顔』、ピエル・マリーア・ロッソ・ディ・サンセコンドの『操り人形、なんという情熱か!』の講読を通じて、20世紀初頭のヨーロッパ社会の病理について考察を行う。</p> <p>また、現代の戯曲を精読することによって、イタリア語の読解力を養う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イタリア語の文献を批判的に読む能力を養う。</li> <li>・ 19世紀後半から20世紀前半にかけてのヨーロッパの社会状況と演劇作品との関連について理解する。</li> <li>・ 上記2点を踏まえて、学んだ知識に自らの考察を交えて意見を発表する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験・フィードバック1回</p> <p>第1回 19世紀後半から20世紀の社会状況、ルイージ・キアレッリについてのイントロダクション。</p> <p>第2回～第7回 主にキアレッリの『仮面と素顔』を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつディスカッションを行う。</p> <p>第8回 ロッソ・ディ・サンセコンドについてのイントロダクション</p> <p>第9回～第14回 主にロッソ・ディ・サンセコンドの『操り人形、なんという情熱か!』を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつディスカッションを行う。</p> <p>第15回 定期試験・フィードバック 受講者に本授業の内容について口頭試問を行い、それに対してコメントを行い、学術的な議論につなげる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業での訳読・発言）を中心に（70%）口頭試問（30%）と併せて評価を行う。</p> <p>5回以上授業を欠席した場合には、口頭試問への参加を認めない。</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p> <p>入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

Luigi Chiarelli 『La maschera e il volto』 (Intra, 2020) ISBN:9788894511314

Pier Maria Rosso di San Secondo 『Tutto il teatro. La dimensione europea』 (Salvatore Sciascia, 2008)  
ISBN:978-88-8241-265-4

残りの書籍については、適宜、授業中に適宜紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

精読・訳出する部分については授業時にその都度指定するので、あらかじめ精読し、内容人に関して質問や意見を準備して授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。回答に時間を要する質問や相談については、メールやZoom等で受けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 菊池 正和 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		20世紀のヨーロッパ社会の病理と演劇の考察									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀後半、戦後のヨーロッパ社会の変質について、理性的・イデオロギー的立場と官能的・審美的立場の葛藤を中心主題に据えて批評、告発したのがピエル・パオロ・パゾリーニである。本授業では、彼の演劇論「新しい演劇の為の宣言」と戯曲『カルデロン』の講読を通じて、20世紀後半のヨーロッパ社会の病理について考察を行う。</p> <p>また、現代の戯曲を精読することによって、イタリア語の読解力を養う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イタリア語の文献を批判的に読む能力を養う。</li> <li>・ 20世紀後半のヨーロッパの社会状況と演劇作品との関連について理解する。</li> <li>・ 上記2点を踏まえて、学んだ知識に自らの考察を交えて意見を発表する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験・フィードバック1回</p> <p>第1回 20世紀後半、戦後の社会状況、ピエル・パオロ・パゾリーニについてのイントロダクション。</p> <p>第2回～第4回 主にパゾリーニの「新しい演劇の為の宣言」を読みながら、彼の演劇論についてディスカッションを行う。適宜、映画作品なども援用する。</p> <p>第5回～第14回 主にパゾリーニの『カルデロン』を読みながら、彼の現代社会に対する眼差しについてディスカッションを行う。適宜、映画作品なども援用する。</p> <p>第15回 フィードバック 受講者に本授業の内容について口頭試問を行い、それに対してコメントを行い、学術的な議論につなげる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業での訳読・発言）を中心に（70%）、口頭試問（30%）と併せて評価を行う。</p> <p>5回以上授業を欠席した場合には、口頭試問への参加を認めない。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

### [参考書等]

(参考書)

Pier Paolo Pasolini 『Tutto teatro』 ( Mondadori, 2001 ) ISBN:88-04-48942-1  
残りの書籍については、適宜、授業中に適宜紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

精読・訳出する部分については授業時にその都度指定するので、あらかじめ精読し、内容人に関して質問や意見を準備して授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。回答に時間を要する質問や相談については、メールやZoom等で受けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系180

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語およびイタリア語
題目		卒論演習									
【授業の概要・目的】											
卒業論文の作成を後押しする演習授業です。「勉強」と「研究」の違いを明確にすることから始めて、問いの設定、論証の進め方、論述の方法、また参考文献の表記や註・引用の仕方まで、実際の作業に即して論文作成についての理解を深めます。											
【到達目標】											
卒業論文提出年次に当たる参加者にとっては、これを完成させることが目標となります。3回生の場合は、この作業を通じて自身の卒業論文のテーマを絞り込むことが目標となります。											
【授業計画と内容】											
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。											
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。											
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 各自の研究テーマについて、卒業論文の計画段階から順次発表をします。質疑応答をとおして、いかなる問いを立て、どのように考察を深めていくかを実地に学びます。他の参加者には、積極的に意見を述べることで発表者の論文作成を支援することが求められます。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学術論文の形式・体裁についても理解を深めていきます。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を確認する予定です。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：発表の内容、授業での発言などに基づきます。3回生の参加者には、卒業論文のテーマの候補をレポートにまとめてもらいますので、これも評価対象となります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

発表者は事前に、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てにメール送信しておきましょう。最初は準備が大変かもしれませんが、数をこなすうちに慣れるはずです。

**（その他（オフィスアワー等））**

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第4章：La nascita della dittatura (1922-1929)の冒頭から読み始めます。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。</li> <li>・イタリア近現代史の基礎知識を習得すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回(イントロダクション)											
授業の進め方、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を簡単に紹介します。											
2回～14回											
必要に応じてイタリア語文法を確認しながら読み進めます。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳の問題をもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習に際しては、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーゼ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第9章&lt;Papato, Angiò, e Signorie&gt;を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。</li> <li>・イタリア史の基礎知識を習得すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回～14回(講読) 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを読み進めます。重要な専門用語や固有名詞についても適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習にあたっては、文法の知識に基づいて正確に文を読み解くことを心がけましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系183

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア語講読(前期)									
[授業の概要・目的]											
比較的平易な文学と新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。											
[到達目標]											
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになるとともに、イタリア文学の背景になる知識を身に着けます。											
[授業計画と内容]											
初回(ガイダンス)ごく平易な文章を読み、個々の参加者のイタリア語の読解力や興味の範囲を確認しながら、第2回以降の読み物を考えます。											
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。授業の前半は新聞記事を、後半はごく平易な文学作品を読む予定です。											
15回 フィードバック											
期末試験を実施します。											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し、背景となる知識についても前もって調べてきてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系184

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア語講読(後期)									
[授業の概要・目的]											
14世紀から16世紀にかけての古典を精読します。古典を読むためのイタリア語の読解力を養成すること、古典に慣れ親しむことが授業の目的となります。											
[到達目標]											
自力でイタリア語の原文を読み解く力をつけます。また、古典を読むことによって、様々なイタリア語に慣れるとともに、文学史上必須の知識を学びます。											
[授業計画と内容]											
初回(ガイダンス)											
2回~4回 翻訳の助けも借りながらダンテを読みます。											
5回~14回 14世紀から16世紀の文学の抜粋を読みます。											
15回 期末試験・フィードバックを実施します。											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備え、イタリア語の文章を読んだ経験があること。											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の発表を50%、期末試験を50%として、評価します。											
[教科書]											
プリント配布。場合によっては、PandAに前もってテキストをアップします。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回必ず課題の文章を読んでください。単に読むだけでなく、文章の内容をしっかりと把握し背景となる知識についても前もって調べてきてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問は授業の前後に受け付けます。質問や相談が多い場合には、適宜Zoomで予約制により、受け付けます(月曜日10:30-12:00)。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		U-LET49 29668 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級I）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級I）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿って基礎文法を復習しながらテキスト読解を通してスペイン語の歴史や現状を学ぶ。同時に練習問題、リスニング、作文、対話練習を通して基礎レベル以上の「語学4技能」の獲得を目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・自ら口頭でも発信することができる。</li> <li>・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。</li> <li>・中級II（文法発展と作文練習が中心）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。各回のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。											
第1回 ガイダンス、第1課導入（発音と直説法現在・再帰動詞の確認）											
第2回 第1課 Un idioma artificial: el esperanto 「エスペラント語」疑問詞，関係詞，接続詞											
第3回 第2課 Las primeras gramáticas del español 「スペイン語史：ネブリハとベリオの文法」直説法現在の規則動詞，目的格人称代名詞											
第4回 第3課 El lenguaje de Internet 「ネット用語」直説法現在の不規則活用											
第5回 第4課 La renovación del vocabulario 「リニューアルされる語彙」再帰動詞											
第6回 第5課 El español y los anglicismos 「スパングリッシュと英語的表現」過去分詞，受身文，直説法現在完了											
第7回 第6課 “Literalmente” 「“Literalmente”の意味の変化」直説法点過去											
第8回 第7課 Lenguas en peligro de extinción 「消滅危機言語」直説法線過去，現在分詞											
第9回 第8課 El nacimiento de la “n” 「“n”の誕生」直説法点過去と線過去の用法											
第10回 第9課 El futuro del español 「スペイン語の今とその未来」直説法未来と未来完了											
第11回 第10課 Lengua y género 「差別を避けるためのスタイルガイド」命令文I											
第12回 第11課 El estudio de las lenguas muertas 「死語（ラテン語）」接続法現在I											
第13回 第12課 Amenazar en subjuntivo 「接続法か直説法か，それが問題だ」接続法現在II											
第14回 第13課 Discriminación lingüística 「言語差別の状況」接続法過去，独立文											
期末試験											
第15回 フィードバック											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課の文法例文の読解より練習問題の解答・解説とテキストのリスニングおよび講読に重点を置く。</li> </ul>											
----- スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級I）（語学）(2)

- ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
- ・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

### 【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点：20% [発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する]

期末試験：80% [リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

中川節子, 岡あゆみ, Juan Jose' Lo'pez 『スペイン語とことば El espan'ol y la aventura de las lenguas』 (三修社, 2019) ISBN:978-4-384-42017-3 C1087

### 【参考書等】

(参考書)

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』 (研究社) ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29669 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級II）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級II）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿って練習問題と作文に取り組みながら既習のスペイン語文法知識の定着と発展を図り、習得した語彙や表現を使って会話をし、またテキスト講読で扱われる話題に関して意見表明やディスカッションも行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説や簡単な文芸作品を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・既習範囲内の話題と語彙であれば音声面でもスペイン語を理解し自ら回答、発話することができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
復習する文法事項と会話・講読のトピックは以下の通りである。											
第1回 ガイダンス、第1課への導入											
第2回 第1課 ser/estar/hay, 直説法現在,不定詞,現在分詞,目的格人称代名詞, 会話「位置を説明する」											
第3回 第2課 再帰動詞, 講読『Peculiaridades climatológicas 気候の特質』											
第4回 第3課 直説法現在完了と点過去, 会話「今日と昨日の出来事」											
第5回 第4課 直説法点過去と線過去, 講読『El horario del día 一日のルーティン』											
第6回 第5課 直説法過去完了と受身表現, 会話「買い物」											
第7回 第6課 直説法未来と過去未来, 講読『La variedad de lenguas 言語の多様性』											
第8回 第7課 関係詞, 会話「比べてみよう」											
第9回 第8課 接続法現在（1）名詞節と形容詞節における用法, 講読『Estudiar en un país extranjero 留学』											
第10回 第9課 接続法現在（2）副詞節その他, 会話「もしも願いが叶うなら」											
第11回 第10課 命令表現, 講読『Amigos conectados 友人とのつながり』											
第12回 第11課 接続法過去, 会話「道案内」											
第13回 第12課 接続法現在完了と条件文, 講読『Si pudiera usar los idiomas libremente もしも外国語が自由に操れたら...』											
第14回 文法発展（接続法過去完了と条件文）と作文 期末試験											
第15回 期末試験・フィードバック											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。</li> <li>・必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</li> </ul>											
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級II）（語学）(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 中級I」の学修者であること、もしくは接続法を含めた初級スペイン語知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 20% [ 予習復習状況、音声パフォーマンスを評価する ]  
期末試験 80% [ 既習事項を理解・習得しているか判定する ]

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

二宮 哲 『一歩進んだスペイン語 - 中級スペイン語 - 』（同学社,2016）ISBN:978-4-8102-0430-8

### 【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2  
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp) アットマーク [st.kyoto-u.ac.jp](mailto:st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29673 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）I Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。</li> <li>・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。</li> <li>・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入  第2回：第0課 [ アルファベット、発音、音節の分け方 ]  第3回：第1課 [ 名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser ]  第4回：第2課 [ 動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞 ]  第5回：第3課 [ 直説法現在：規則動詞と不規則動詞 ]  第6回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題  第7回：第4課 [ 直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞 ]  第8回：第5課 [ 目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現 ]  第9回：第6課 [ 前置詞、過去分詞、直説法現在完了 ]  第10回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題  第11回：第7課 [ 再帰動詞、不定主語文、現在分詞 ]  第12回：第8課 [ 直説法点過去、天候の表現 ]  第13回：第9課 [ 直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了 ]  第14回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題  期末試験  第15回：フィードバック</p>											
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）I (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

川口正道『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

### 【参考書等】

（参考書）

辞書『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）II Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。											
授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。											
【到達目標】											
CEFRのA 1程度のレベルを修得する。											
辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。											
【授業計画と内容】											
教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。											
各回の主たる学習項目は以下の通りである。											
第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入]											
第2回：第10課 [関係詞]											
第3回：第11課 [比較級、最上級]											
第4回：復習(1) 第10課・第11課の作文および応用問題											
第5回：第12課 [不定語・否定語、受身文]											
第6回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了]											
第7回：復習(2) 第12課・13課の作文および応用問題											
第8回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法]											
第9回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文]											
第10回：復習(3) 第14課・第15課の作文および応用問題											
第11回：第16課 [接続法現在完了、接続法過去、接続法過去完了]											
第12回：第17課 [条件文、譲歩文、話法]											
第13回：復習(4) 第16課～第17課の作文および応用問題											
第14回：文法発展 [平易なテキスト講読または中級文法練習問題]											
期末試験											
第15回：フィードバック											
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）Ⅱ(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級Ⅰ」を学修していること、もしくは同等（教科書第9課まで）の文法知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。

期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

### 【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET49 29675 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。          授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ          ドックスなものを想定している。          イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションがで          できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：オリエンテーションと発音          第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞]          第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere]          第4週：Lezione 3 [形容詞]          第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞]          第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞]          第7週：Lezione 6 [人称代名詞]          第8週：Lezione 7 [再帰動詞]          第9週：テストと解説          第10週：Lezione 8 [命令法]          第11週：Lezione 9 [直説法近過去]          第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去]          第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来]          第14週：Lezione 12 [受動態]          第15週：テストと解説</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>各課の締めくくりで行う小テスト（30%）          前期中2回行うまとめのテスト(70%)</p>											
【教科書】											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5											
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系190

科目ナンバリング		U-LET49 29676 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級II）									
[授業の概要・目的]											
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。											
[到達目標]											
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：文法補足 1 ciとne 第6週：Lezione 17 [接続法] 第7週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第8週：テスト 第9 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)											
[教科書]											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。											
[参考書等]											
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各授業前に60分前後の予習が求められる。 講読回では90分程度。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系191

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗 文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 教授 村上 祐二 文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 教授 中村 唯史 文学研究科 教授 廣田 篤彦 文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋文学入門									
[授業の概要・目的]											
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、英文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、アメリカ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。											
[到達目標]											
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
西洋古典文学(河島) 第1週(4月13日)ホメロス『イリアス』:ギリシア文学のはじまり 第2週(4月20日)オウィディウス『変身物語』:ラテン文学における受容と変容											
イタリア文学(村瀬) 第3週(4月27日)ダンテ『神曲』概説 第4週(5月11日)マキアヴェッリ『君主論』											
英文学(廣田) 第5週(5月18日)シェイクスピア『マクベス』の概要 第6週(5月25日)『マクベス』冒頭を英語で読む											
ロシア文学(中村) 第7週(6月1日)プーシキンの短編集『ベールキン物語』を読む(1):「序」読解 語り手 ベールキンとはいったい誰か 第8週(6月8日)プーシキンの短編集『ベールキン物語』を読む(2):短編『吹雪』読解 物語のようにはいかないという物語											
ドイツ文学(川島) 第9週(6月15日)ドイツのパンデミック小説 シュティフター『みかげ石』 第10週(6月22日)ドイツのパンデミック小説 トーマス・マン『ヴェニスに死す』											
----- 西洋文学入門(講義)(2)へ続く -----											

## 西洋文学入門(講義)(2)

### フランス文学(村上)

第11週(6月29日)プーレスト『失われた時を求めて』を読む(1)『スワン家のほうへ』

第12週(7月6日)プーレスト『失われた時を求めて』を読む(2)『ソドムとゴモラ』

### アメリカ文学(小林)

第13週(7月13日)アメリカ詩の鑑賞法

第14週(7月20日)アメリカ小説の鑑賞法

第15週(7月27日)まとめ・フィードバック

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては、KULASISの「レポート情報」によって周知する。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

(関連URL)

[http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku\\_hyakunen.pdf#page=2](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2)(「西洋文学この百冊」)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。